

# ブラザー=コンパイルDX

取扱説明書  
ZZ3-B751  
電子速度制御



◆お買い上げまことにありがとうございます。  
この製品のすばらしい性能と、その正しい使い方をご理解いただくために、この《取扱説明書》を最後までよくお読みください。  
お読みになったあとは、保証書とともに、必ず保存してください。

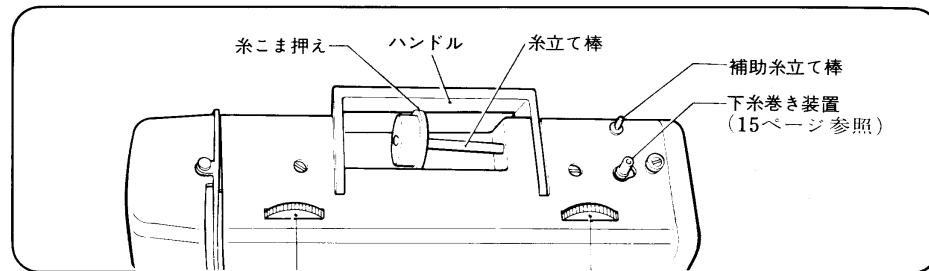
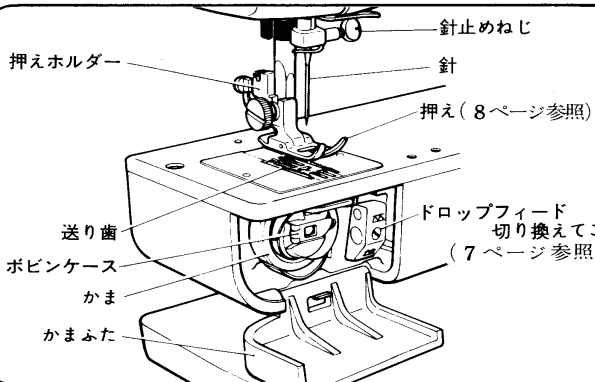
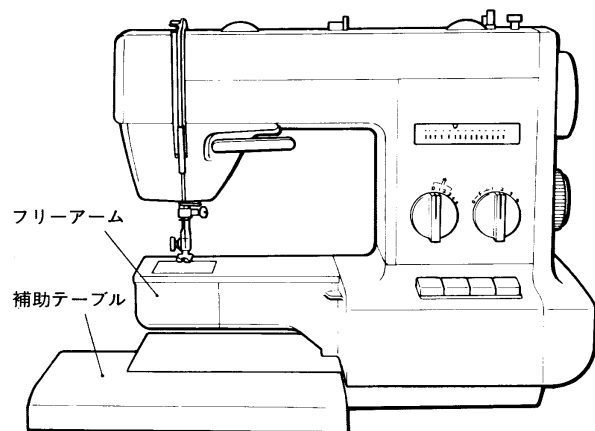
《ご注意》 このミシン(ZZ3-B751型)には、別売りの自動ネーム刺しゅう器\*ワンダーサイン.. はご使用になれません。

# もくじ

中主な名称とはたらき中	1	チェーンステッチ	23
電源スイッチボタン	2	◆チェーンステッチの糸調子	23
スピードコントロールプッシュボタン	2	しつけ縫い	25
コントロールレバー	3	フリーアームの利用のしかた	28
送り調節ダイヤル	5	中いろいろな縫い方中	29
ジグザグ幅調節ダイヤル	5	伸縮縫い	29
模様選択ダイヤル	5	裁ち目がかり	31
模様表示窓	5	まつり縫い	33
押え調節レバー	7	ボタン穴かがり	35
ドロップフィード切り換えてこ	7	ファスナー付け	38
針	7	ボタン付け	40
押え	8	スカラップステッチ	41
付属品	9	三つ巻き縫い	42
その他の付属品	10	コーディング	43
中使用前の準備中	11	落しミシン	44
中運転のしかた中	12	ピントック	45
中使 い 方中	13	シェルタック	46
1. 上糸の掛け方	13	ファゴティング	47
2. 下糸の引き上げ方	14	キルティング	48
3. 下糸の準備	14	つき合わせはぎ	49
4. 布地・ミシン糸・ミシン針の 関係とミシンの合わせ方	17	アップリケ	50
直線縫い	18	サイクル縫い	51
◆こんな場合には	19	中楽しい実用作品中	52
◆直線縫いの糸調子	21	中ミシンの手入れと注油中	54
ジグザグ縫い	22	掃除と手入れ	54
◆ジグザグ縫いの糸調子	22	注油	55
二本針縫いをする場合	22	中簡単な調整手入れ中	57

# ☆ 主な名称とはたらき ☆

フリーアームとして使用  
する場合(28ページ参照)



ランプスイッチ (2ページ参照) 天びん (21ページ参照) ダイヤルテンション (21ページ参照) ボタン穴かがり調節ダイヤル (37ページ参照) 模様表示窓 (5ページ参照)

押え調節レバー  
(7ページ参照)

しつけ縫いレバー  
(26ページ参照)  
しつけ縫いをすると  
きは面板を開き、し  
つけ縫いレバーを起  
こして操作して下さい。

補助テーブル  
(28ページ参照)

コントロールレバー  
(3ページ参照)

ひざ当てレバー用穴 (3ページ参照)  
ジグザグ幅調節ダイヤル  
(5ページ参照)

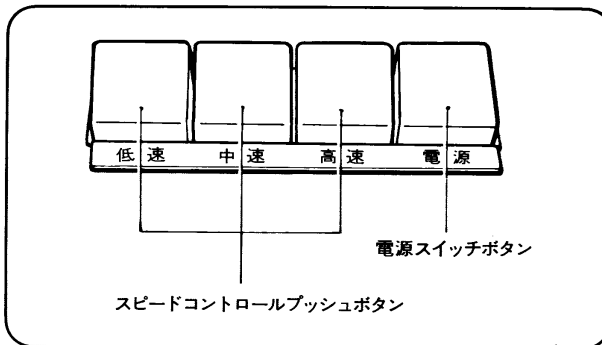
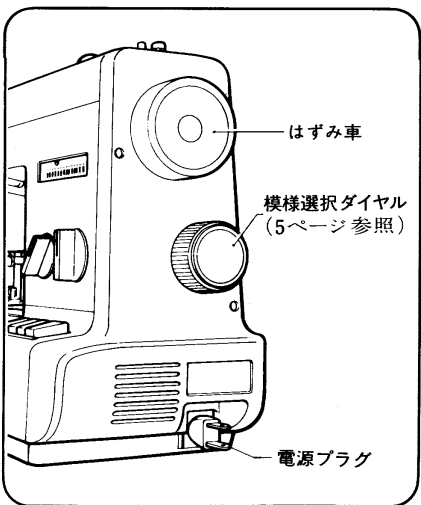
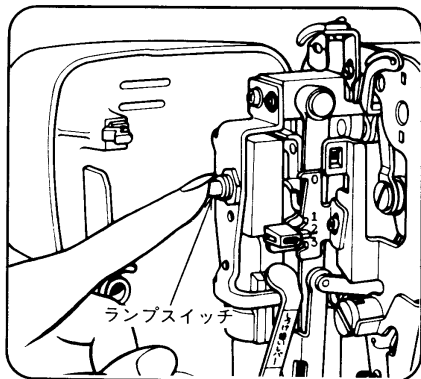
電源スイッチボタン  
(2ページ参照)

送り調節ダイヤル  
(5ページ参照)  
スピードコントロール  
プッシュボタン  
(2ページ参照)

電源スイッチボタン・スピードコントロールプッシュボタン

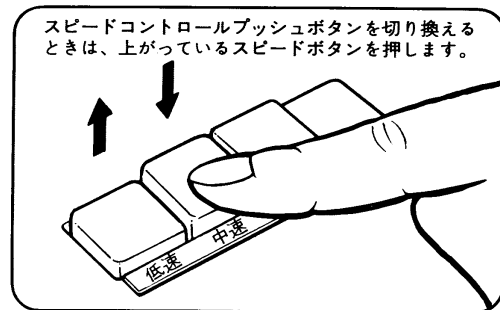
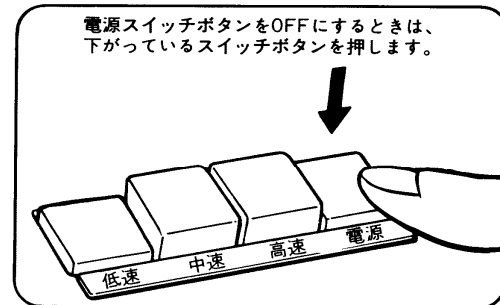
◆ランプスイッチ

☆面板を開いてランプスイッチを押すと点滅します。(なお、電源スイッチがONになっていないと点灯しません。)



◆電源スイッチボタン

☆電源のON・OFFのボタンが下がった状態のとき電源が入っており、ボタンが上がった状態のとき電源が切れております。  
☆ミシンを使用しないときは、必ず電源ボタンが上がった状態（電源が切れている）にしておいて下さい。



◆スピードコントロールプッシュボタン

☆ミシンの速度を低速・中速・高速の3段階に切り換えるボタンです。お好みの速度を選んで押して下さい。  
☆縫っている途中でも、ボタンを押し換えれば速度の切り換えができます。

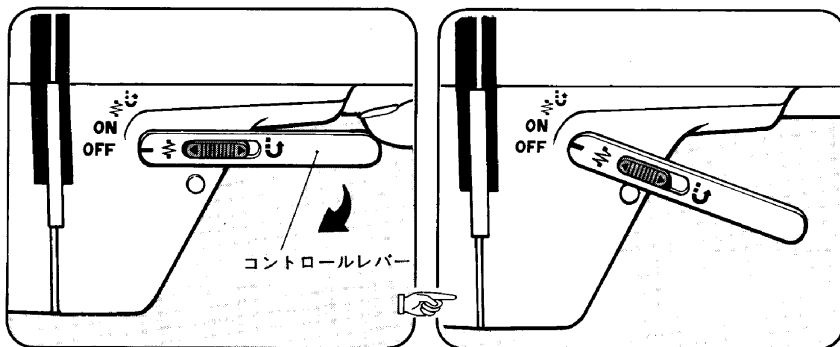
- (注意) 1. スピードコントロールプッシュボタンが全部上がったまま、コントロールレバー(又はひざ当てレバー)を操作しますとミシンが動きますが、これは故障ではありません。  
2. スピードコントロールプッシュボタンは、いつもどれか一つ下げておいて下さい。

## コントロールレバー

★このレバーは、ミシンのスタート・ストップ・止め縫い・返し縫いの4つの操作が兼用になっています。

### ☑ミシンをスタートさせるには……

☆好みの速度を選び、スピードコントロールプッシュボタンを押しておきます。

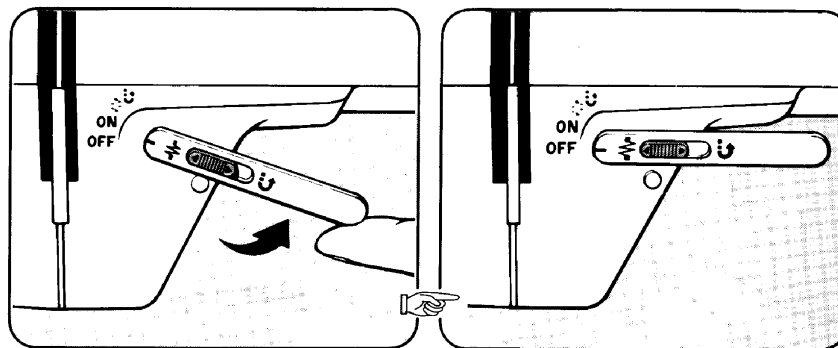


☆コントロールレバーを(ON)の位置まで下に押し下ろします。ミシンは動き始めます。

(ON)の位置は、カチッと音がしてレバーが止まる位置です。

☆ミシンをスタートさせた場合、どの速度でもゆっくりスタートします。これは、レバーを押してから布に手をそえる余裕を持たせてあるためです。

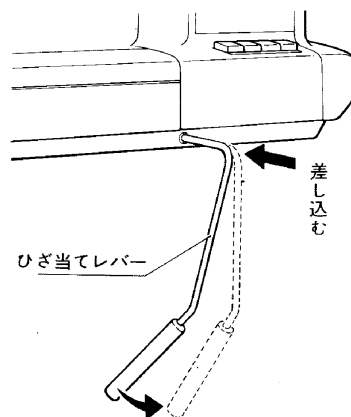
### ☑ミシンをストップさせるには……



☆レバーを(OFF)の位置まで上に押し上げて下さい。ミシンは止まります。

☆このミシンは、ストップしたとき必ず針が上で止まるようになっています。

### ひぎでもミシンのスタート・ストップができるようになっています。



☆付属のひぎ当てレバーを図のように差し込みますとひぎでスタート・ストップ操作ができます。

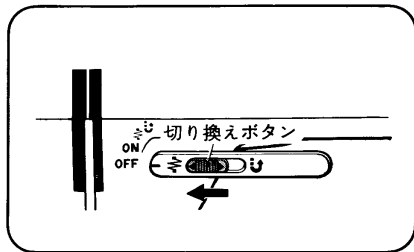
☆スタート・ストップは、交互の繰り返しになっています。


### 注意

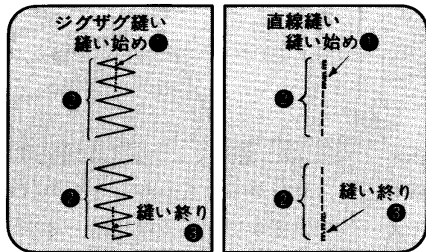
☆コントロールレバーが(ON)の位置にあるときは、電源を入れてもミシンは回りません。コントロールレバーを(OFF)の位置にしてから、あらためてONにして、スタートさせて下さい。

●止め縫いをするには

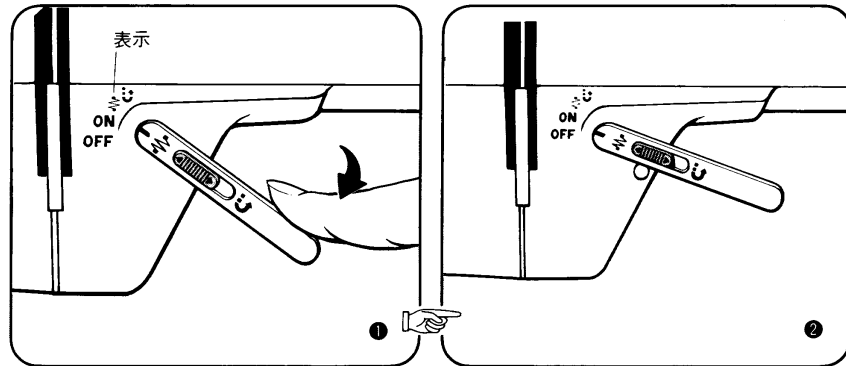
☆一般的に裁縫の縫い始めと縫い終りには止め縫いが必要です。止め縫いをする場合は、コントロールレバーを次のように操作して下さい。




☆コントロールレバーの切り換えボタンを矢印方向(  )に動かしておきます。

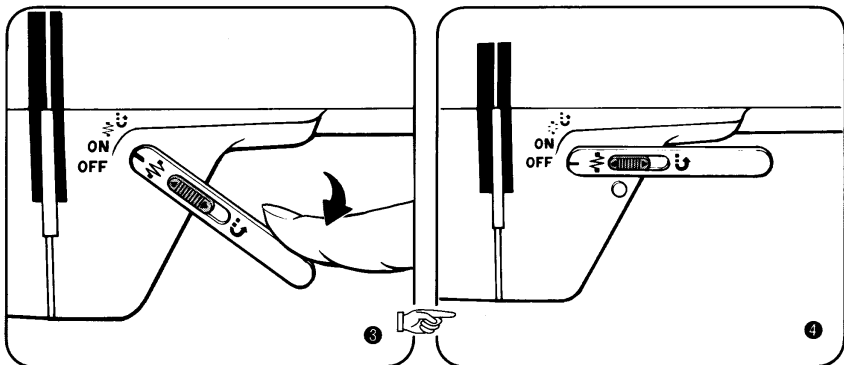



縫い始めの止め縫い




1. レバーを表示の (  ) までいっばいに押し下げ必要な長さだけ縫い終るまで、その位置で止めます。
2. 縫い終わったら手を離せば、レバーは自動的にONの位置にもどります。

縫い終りの止め縫い



3. レバーを表示の (  ) までいっばいに押し下げ必要な長さだけ縫い終るまで、その位置で止めます。
4. 縫い終わったら手を離せばレバーは自動的にOFFの位置になり、縫い終りの止め縫いが終り、ミシンも止まります。

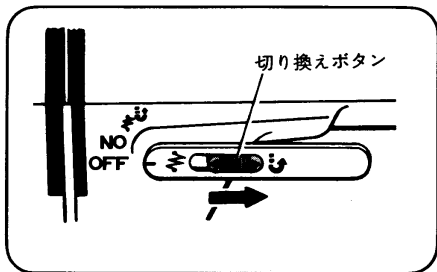
☆裁縫をやりやすくするため、止め縫いでは速度が遅くしてあります。


☆止め縫いは、ジグザグ縫い、模様縫いなどをしている場合でもレバーを (  ) に合わせるだけで直線の後進縫いで縫い目長さが細かくできます。

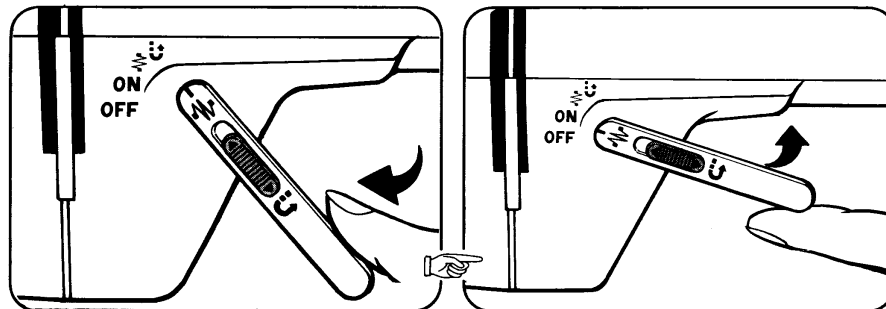
また、コントロールレバーをもどせば、始めに選んだ模様縫いができます。


## ◆返し縫い

☆返し縫いは、次のように操作して下さい。




☆コントロールレバーの切り換えボタンを矢印方向 (  ) に動かしておきます。



1. レバーを表示 (  ) まで一杯に押し下げ、必要な長さだけ縫い終るまでその位置で止めます。
2. 縫い終わったらレバーを手で(OFF)の位置まで押し上げれば、ミシンは止まります。

☆裁縫をやりやすくするため、返し縫いでは速度が遅くしてあります。

☆返し縫いは、ジグザグ縫い、模様縫いなどをしている時、レバーを (  ) に合わせるだけで直線の後進縫いで返し縫いができます。

また、コントロールレバーをもどせば、始めに選んだ模様縫いができます。

## 送り調節ダイヤル・ジグザグ幅調節ダイヤル・模様選択ダイヤル・模様表示窓

★これらはそれぞれ関連した操作になっています。

### ◆送り調節ダイヤル

☆ダイヤルを **左** に回せば、縫い目の長さはこまかくなります。

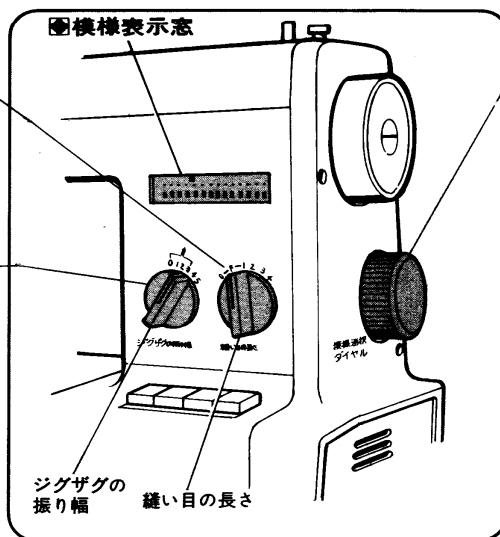
☆ダイヤルを **右** に回せば、縫い目の長さはあらかくなります。

### ◆ジグザグ幅調節ダイヤル

☆ダイヤルを **左** に回せば、ジグザグの振り幅はせまくなります。

☆ダイヤルを **右** に回せば、ジグザグの振り幅は広くなります。


※縫い目の長さとしジグザグの振り幅は、模様に応じて調節範囲が限定されています。



### ◆模様選択ダイヤル

☆このダイヤルを回すだけで好みの模様が選べ、同時に選んだ模様に必要なジグザグの振り幅、縫い目の長さが次ページの自動選択のときのように自動的に決まります。

☆自動的に選んだジグザグの振り幅、縫い目の長さ以外で使いたいときは、ジグザグ幅調節ダイヤル、送り調節ダイヤルは次表の手動選択のときの範囲内で自由に調節ができます。

☆このダイヤルを  に合わせた場合は、針板の針穴も同時に切り換わるようになっています。

※模様の選択は、ミシンをとめてからダイヤルを回して下さい。



●ジグザグ振り幅と縫い目長さの自動及び手動選択表●

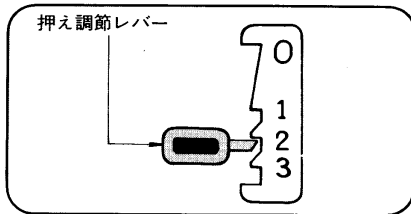
自動 選択 の とき	ジグザグの振り幅 	5 (A・C)	5 実際のジグザグ幅は、「0」で針落ちちは左です	3	0 針落ち中央	0	3.5 実際のジグザグ幅は、「0」で針落ちちは中央です			5			3	5
	縫い目の長さ 	自動選択のままご使用下さい。 (縫い目の調節は37ページ参照)	2.5	1.5	2.5		4		4				1.5	
手動 選択 の とき	ジグザグの振り幅 	3～5 (A・C)	調節はできません 針落ち左 0	0～5		0 針落ち中央 ダイヤルは動きますが、針落ちは変わりません				3～5			1～5	3～5
	縫い目の長さ 	自動選択のままご使用下さい。 (縫い目の調節は37ページ参照)	F～4 ☆上記範囲内で自由に調節できますが、それぞれの縫い方については下記の項を参照の上、調節して下さい。	0～4	F～4	2～4		1.5～4 ☆ダイヤルは、1.5～4の範囲内に動きますが縫い目長さは4以外では縫わないで下さい。					0～2.5 ☆上記範囲内で自由に調節できますが、それぞれの縫い方については下記の項を参照の上、調節して下さい。	
摘 要														

※手動でダイヤルを選択するときは、模様表示を合わせてからダイヤルを選択して下さい。

## 押え調節レバー

☆布地の種類によって押え圧力を調節するレバー(面板内部にあります)です。

(17ページ参照)



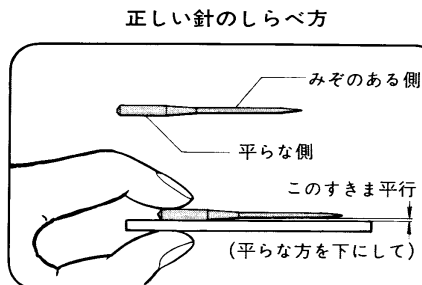
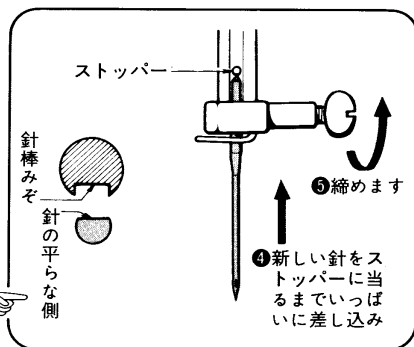
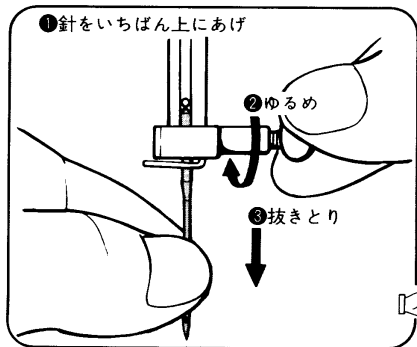
(注意)押え調節レバーを操作するときは、押えを下げておきます。

※押え圧力を強く(下げる)するときは……レバーを押し下げます。

※押え圧力を弱く(上げる)するときは……レバーを左へ少し引っ張って上げます。

## 針

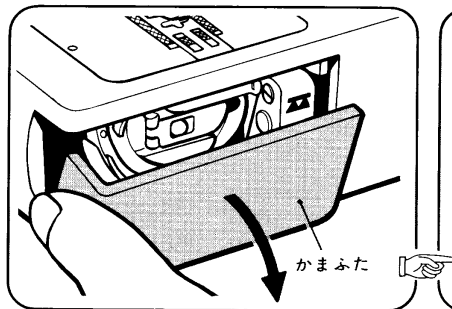
取り替えるには……



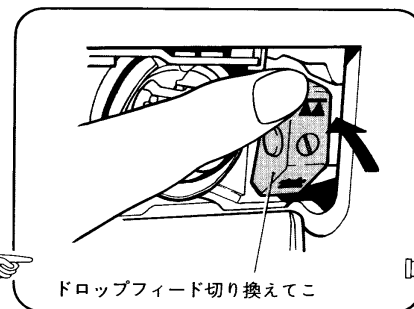
☆針が曲っていてもよく縫えません。  
☆針の曲りを調べるには、平らな物(針板、ガラス板など)の上に乗せ、明るい所ですかしてみるとき、針の下側のすきまが針先まで平行に見えるのが良品です。

## ドロップフィード切り換えてこ

☆送り歯を上下させる“てこ”です。



☆補助テーブルを下げ(14ページ参照)かまふたを矢印方向に開きます。



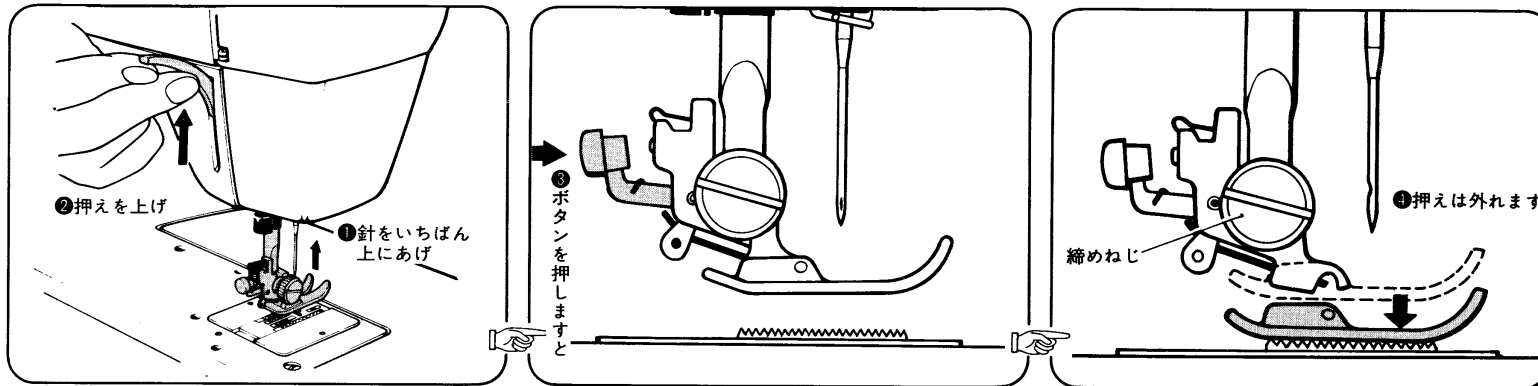
☆切り換えてこの▲を矢印方向に押すと、送り歯は下がります。

☆▲を矢印方向に押すと送り歯は上がり、元にもどります。

切り換えてこ	送り歯の位置	裁縫
	布地を送る	一般裁縫をするとき
	布地を送らない	ボタン付け、しつけ縫い、サイクル縫いをするとき

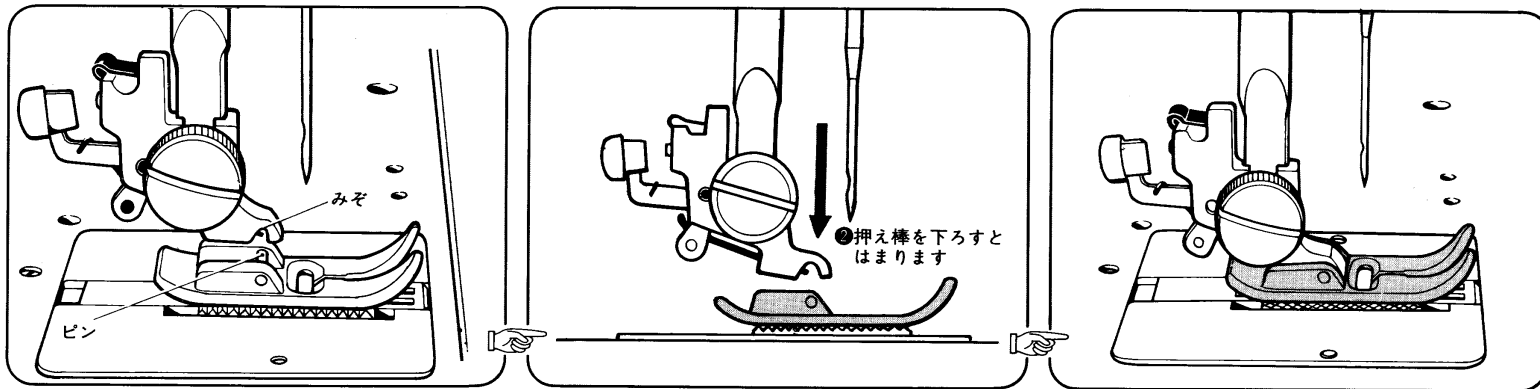
押え

取り外すには……



※締めねじを外さなくても押えは外せます。

取り付けるには……

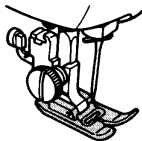

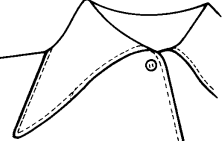
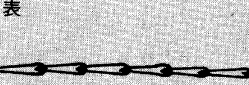
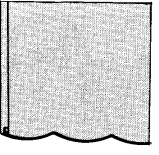
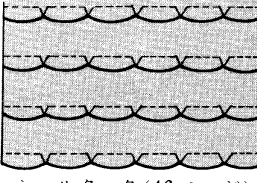
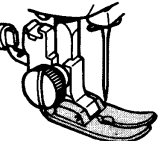

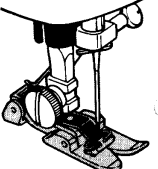

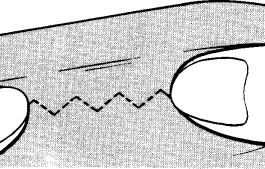
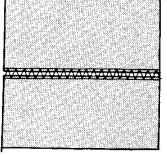
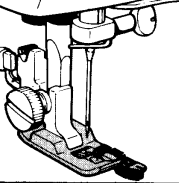
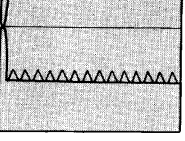
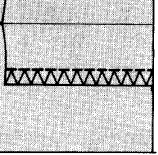
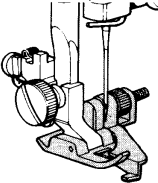
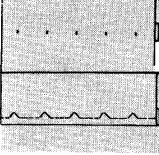
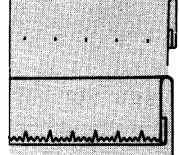
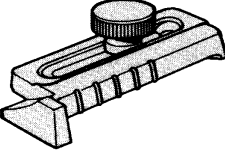
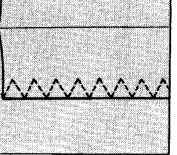
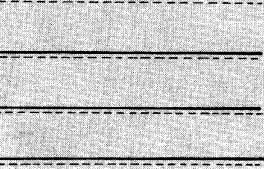
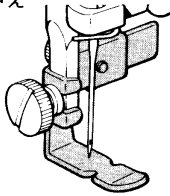
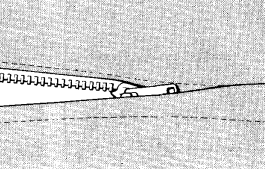
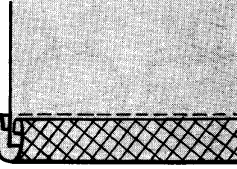
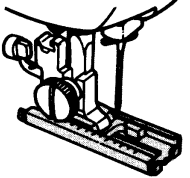
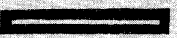
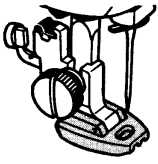
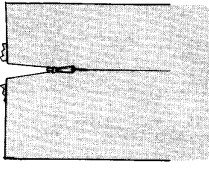
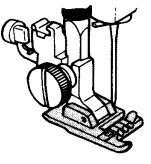



① 押えホルダーのみぞの真下に押えのピンがくるように位置を定め、押えをおきます。

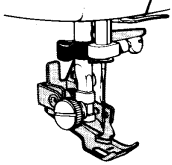
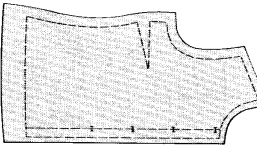
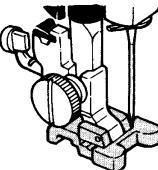
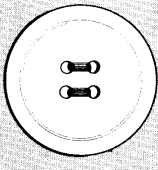
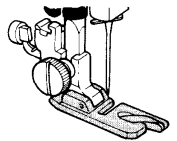
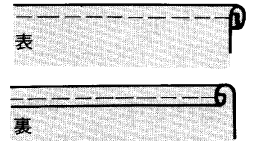
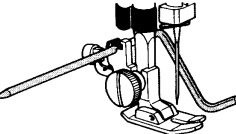

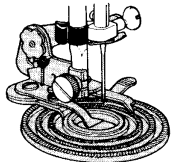
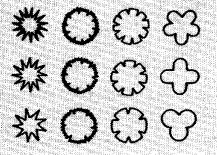
(注意) ☆取り付けるとき、押えを針に当てないようにして下さい。

# 付属品


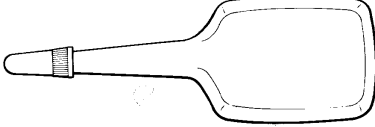
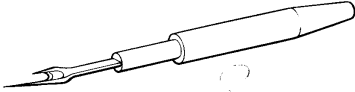
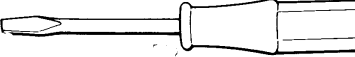
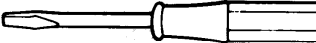

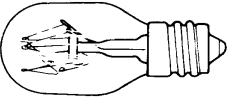
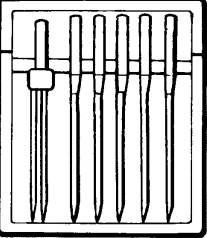
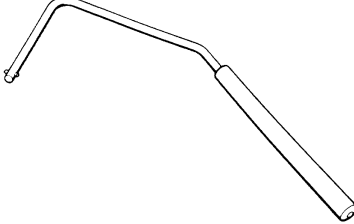
……………いろいろな押えとその利用

<p>ジグザグ用押え</p> 	 <p>ジグザグ縫い&lt;22ページ&gt;</p>	 <p>薄地でのダーツ、端ミシン など&lt;19ページ&gt;</p>	<p>表</p>  <p>裏</p> <p>チェーンステッチ&lt;23ページ&gt;</p>	 <p>スカラップステッチ&lt;41ページ&gt;</p>	 <p>シェルタック&lt;46ページ&gt;</p>
<p>直線用押え</p> 	 <p>直線縫い&lt;18ページ&gt;</p>	<p>ストレッチ押え</p> 	 <p>三重縫い&lt;29ページ&gt;</p>	 <p>点線ジグザグ縫い&lt;31ページ&gt;</p>	 <p>ファゴティング&lt;47ページ&gt;</p>
<p>裁ち目かがり用押え</p> 	 <p>ジグザグ縫い&lt;31ページ&gt;</p>	 <p>オーバーロックステッチ&lt;31ページ&gt;</p>	<p>まつり縫い押え</p> 	<p>表</p>  <p>裏</p> <p>ブラインドステッチ&lt;33ページ&gt;</p>	<p>表</p>  <p>裏</p> <p>ジャーマンブラインドステッチ&lt;33ページ&gt;</p>
<p>前方定規と締めねじ</p> 	 <p>裁ち目かがり&lt;31ページ&gt;</p>	 <p>ピンタック&lt;45ページ&gt;</p>	<p>片押え</p> 	 <p>ファスナー付け&lt;38ページ&gt;</p>	 <p>落しミシン&lt;44ページ&gt;</p>
<p>ボタン穴かがり用押え</p> 	 <p>ボタン穴かがり&lt;35ページ&gt;</p>	<p>コンシールファスナー付け用押え</p> 	 <p>コンシールファスナー付け&lt;39ページ&gt;</p>	<p>ひも付け押え</p> 	 <p>コーディング&lt;43ページ&gt;</p>

☆押えのとりつけ方、とりはずし方は8ページをごらん下さい。

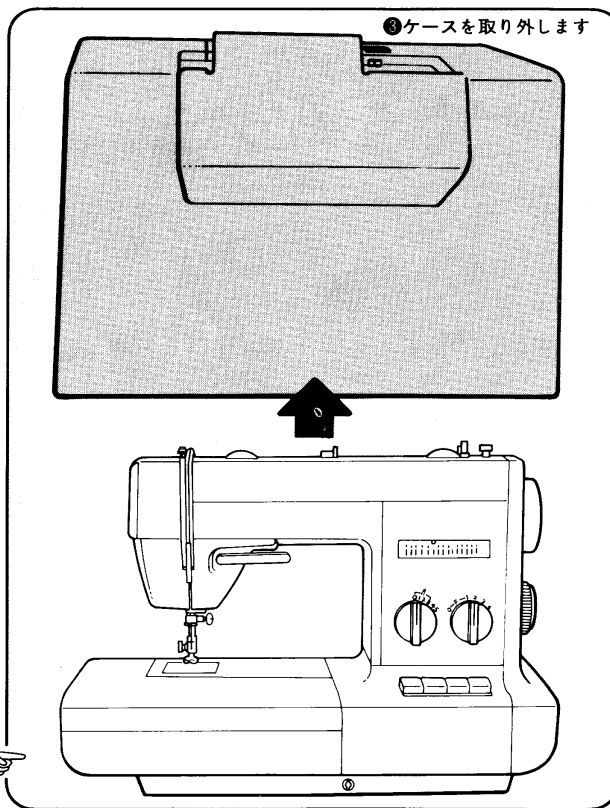
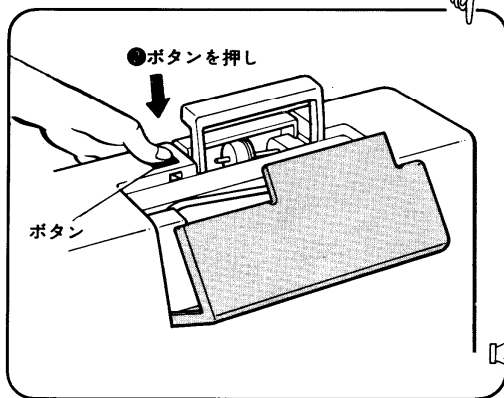
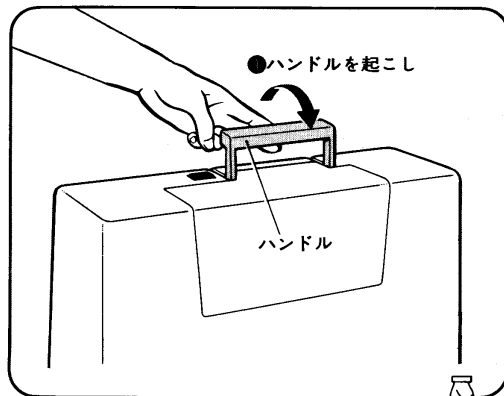
<p>しつけ縫い押え</p> 	 <p>しつけ縫い&lt;25ページ&gt;</p>
<p>ボタン付け押え</p> 	 <p>ボタン付け&lt;40ページ&gt;</p>
<p>三つ巻き押え</p> 	 <p>表 裏</p> <p>三つ巻き縫い&lt;42ページ&gt;</p>
<p>キルター</p> 	 <p>キルティング&lt;48ページ&gt;</p>
<p>マジックステッチ</p> 	 <p>サイクル縫い&lt;51ページ&gt;</p>

その他の付属品

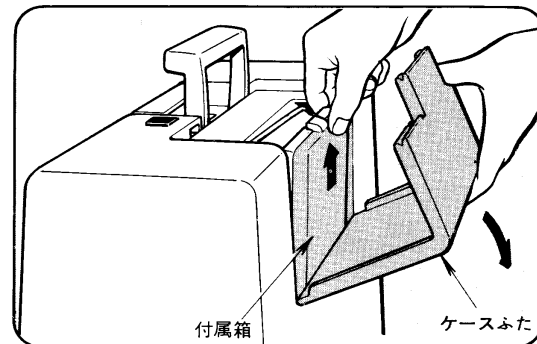
<p>ボビン</p> 	<p>油差し</p> 
<p>リップパー</p> 	<p>ねじまわし(中)</p>  <p>ねじまわし(小)</p> 
<p>ミシンブラシ</p> 	<p>電球</p> 
<p>ミシン針</p>  <p>針14番……………(一般縫いに) 針11番……………(薄物縫いに) ゴールデン針…(薄物、伸縮地の縫いにストレッチ押えと併用して下さい。)</p> <p>二本針</p>	<p>ひざ当てレバー</p> 

## ✿ 使用前の準備 ✿

### ◆ミシンを取り出すには……

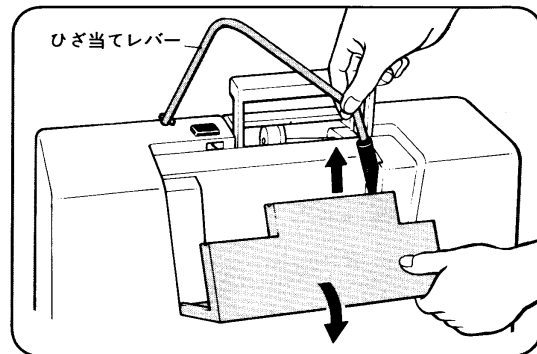


### ◆付属箱を取り出すには……



※付属品は、ケースふた内部の付属箱の中に入っています。ボタンを押してケースふたを開け、図のように取り出してご使用下さい。

### ◆ひぎ当てレバーを取り出すには……



※ひぎ当てレバーを使用するときは、ボタンを押してケースふたを開け、図のように取り出してご使用下さい。

### ◆ミシンをしまうには……

しまい方は、上記方法の逆の順序で行います。

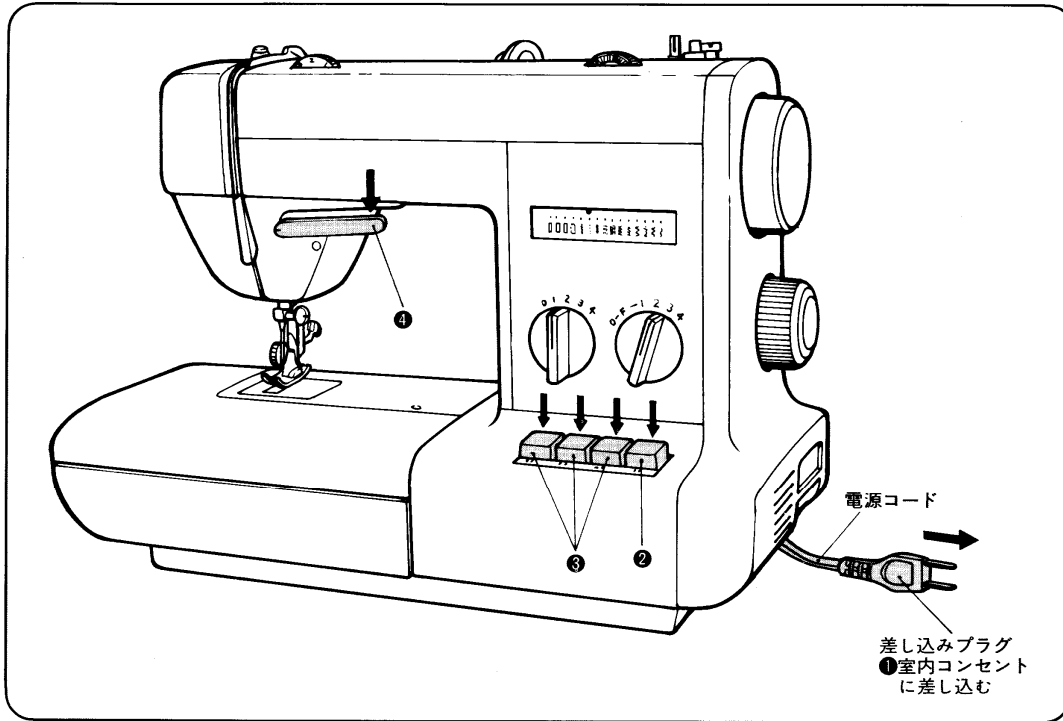
※補助テーブルを下げた状態(フリーアーム)では、はまりません。

※押えは下げてケースをはめて下さい。

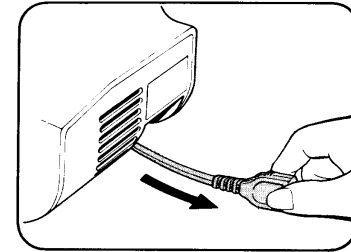
# ✿ 運転のしかた ✿

## ◆運転のしかた

★下図を見ながら番号の順序で操作してください。



- ①電源コードを引き出して、差し込みプラグを室内コンセントに差し込みます。



☆電源コードはオートリール式になっております。

☆引き出すときは、引っ張って下さい。

☆コードをしまうときは、少し引っ張ってはなせば自動的に巻き込みます。

※コードは、赤印以上は引き出さないで下さい。

- ②電源スイッチボタンを押します。
  - ③お好みの速度のボタンを押します。
  - ④コントロールレバーを押し下げ、ONにします。(3ページ参照) ミシンは、始めはゆっくり回り始めます。
- ☆両手が必要なときは、ひざでも操作できるようになっています。(3ページ参照)

## ◆ミシンを使用しないときは……

☆電源コードを必ず室内コンセントから外して下さい。

☆電源コードは必ず差し込みプラグを持って抜いて下さい。

※万一故障がありましたらブラザーの販売店にお申し付け下さい。

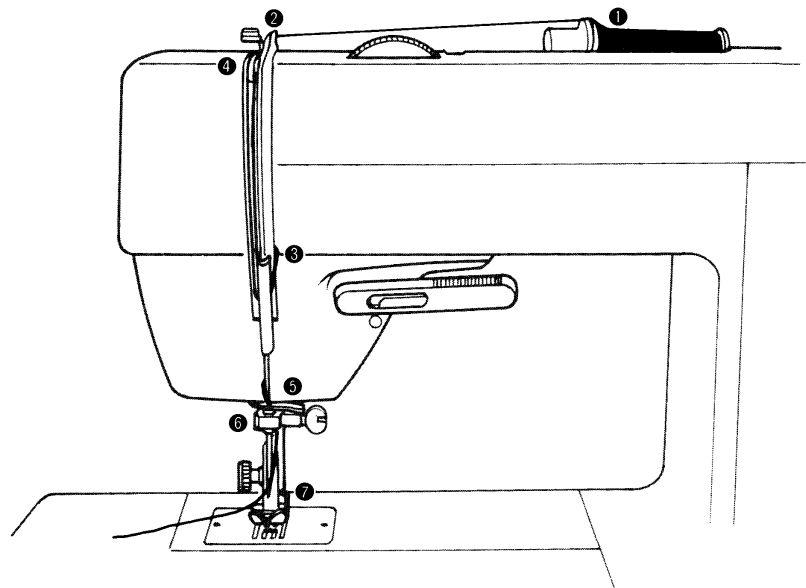
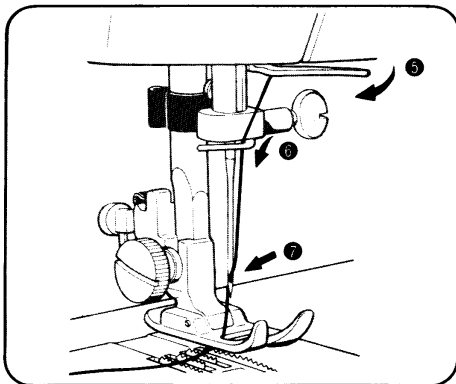
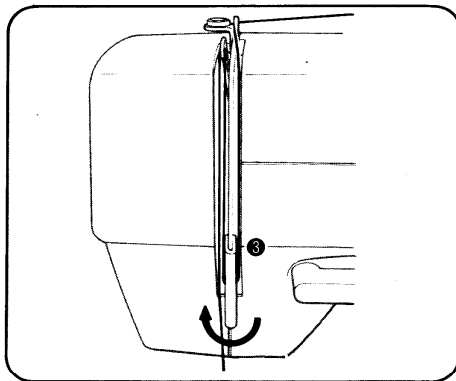
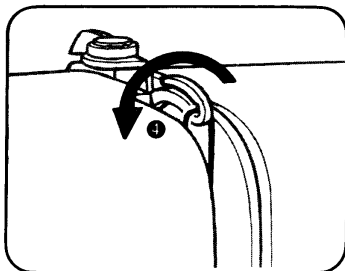
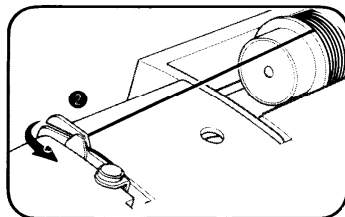
# ❁ 使 い 方 ❁

## Ⅰ. 上糸の掛け方

☆上糸のかけ方を間違えますと裁縫ができませんから、よくおぼえて下さい。

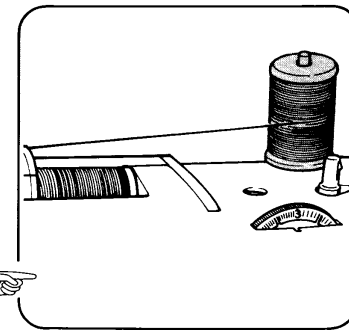
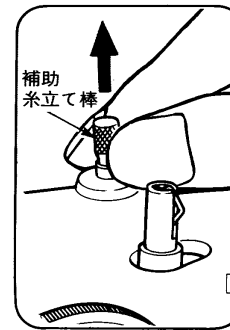
☆針は常に一定の位置（最高位置）に停止するようになっております。

☆天びんを一番上にしてからつぎの図の番号順に糸を掛けて下さい。



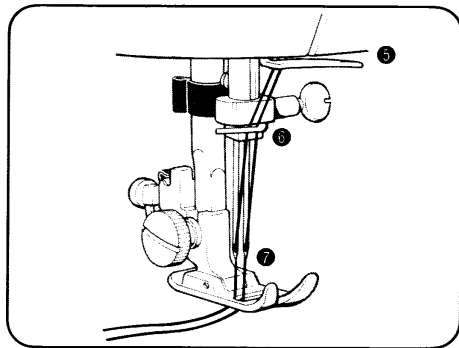
### 2本針のとき……

☆2本針のときも1本針と同じように掛けますが、糸立棒は図のように補助糸立て棒を引き出してご使用下さい。

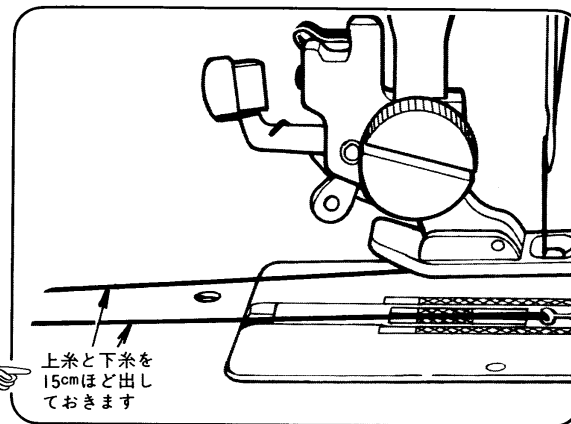
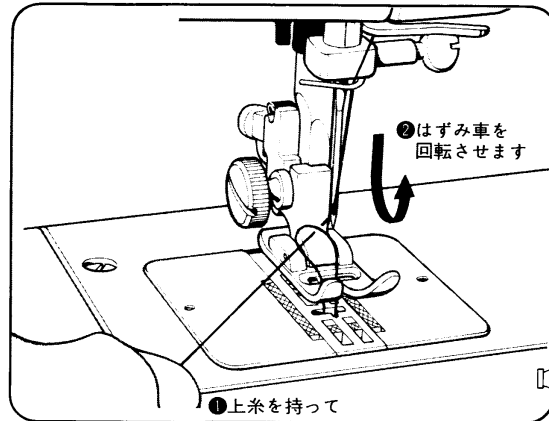




## 2. 下糸の引き上げ方

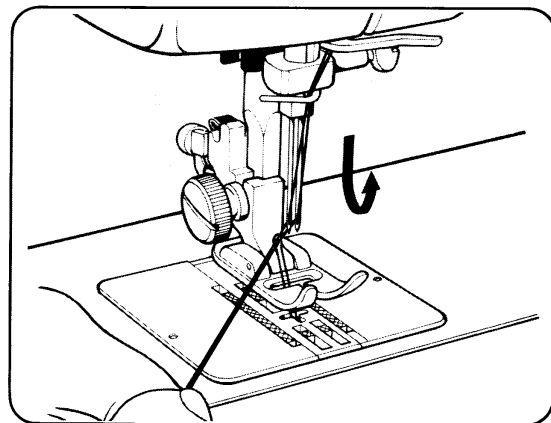


☆針へは2本の糸を別々に通します。

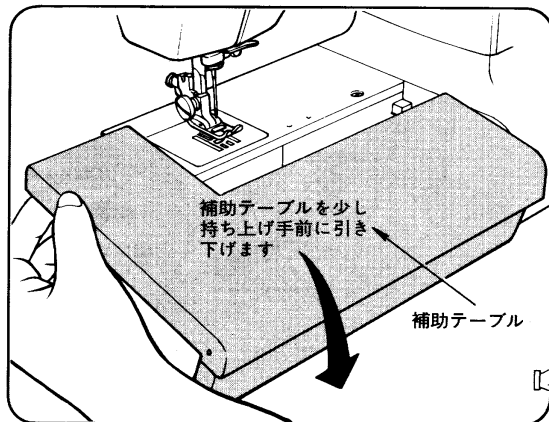


☆針は一度下がってまた上がってきますから、上がりつめたところではずみ車を止め、上糸を引くと、上糸は下糸を捕えて針穴から輪になって出てきますので、そのまま引き出して下さい。

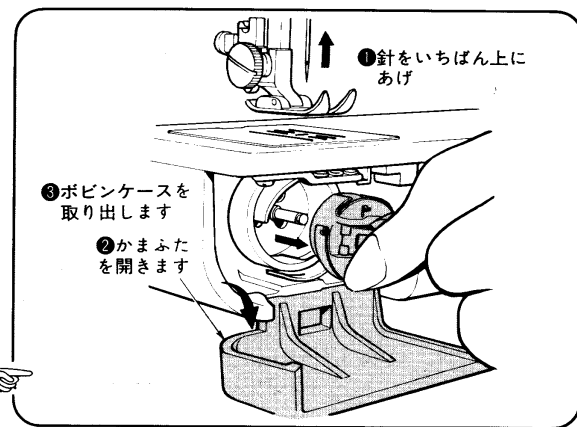
## 3. 下糸の準備



☆二本針のときも一本針と同じ要領で下糸を引き上げます。

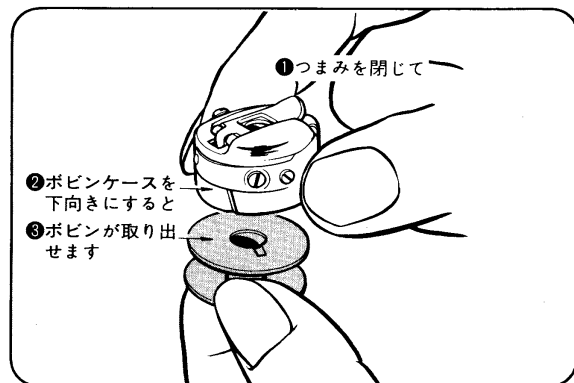


### (1) ボビンケースの取り出し方



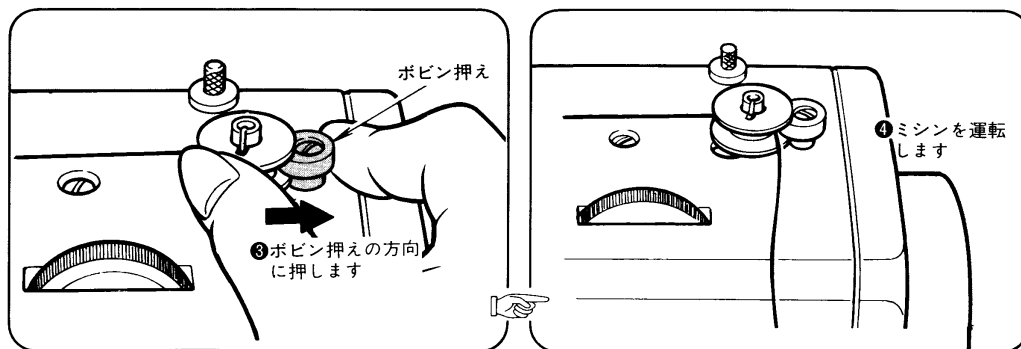
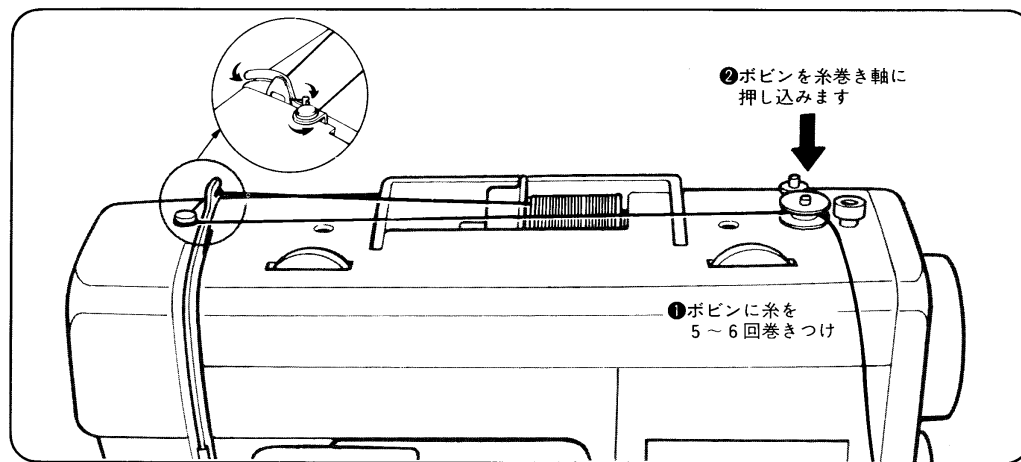
(注意) 針が下がっているときは取り出せません。

## (2) ボビンの取り出し方



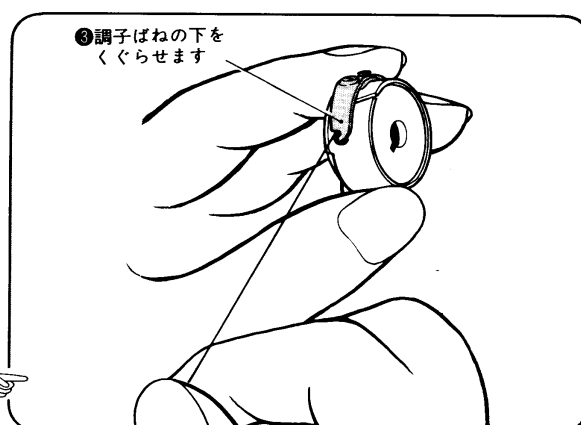
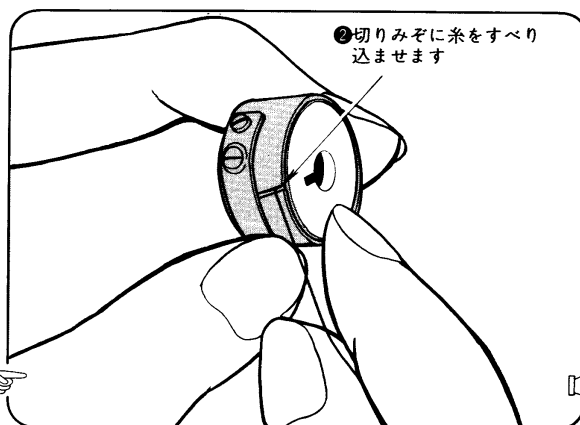
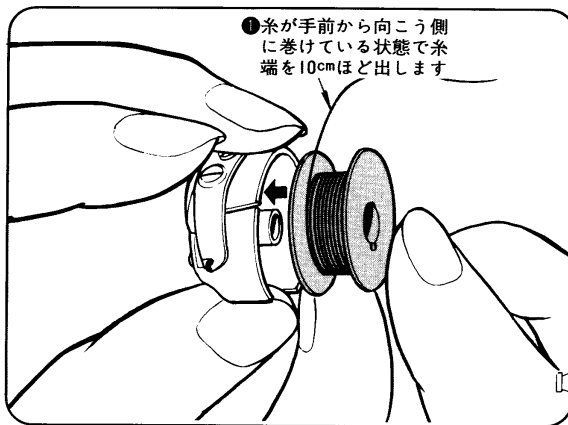
(注意) ボビンケースのつまみを持っている間は、ボビンケースを下向きにしても、ボビンは落ちないようにになっています。

## (3) 下糸の巻き方



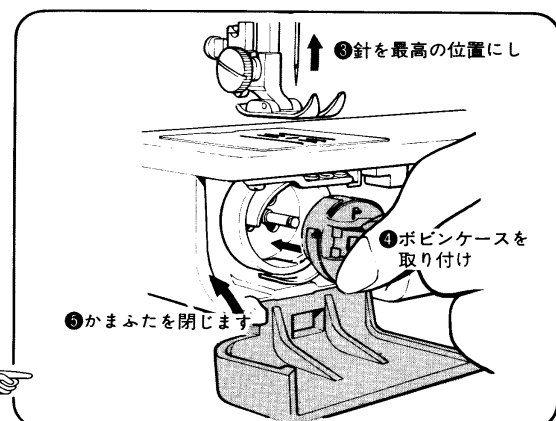
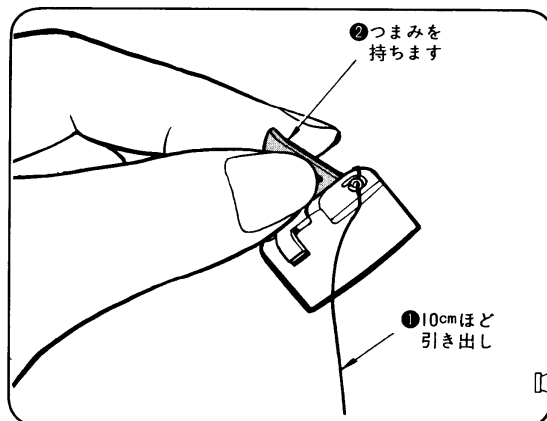
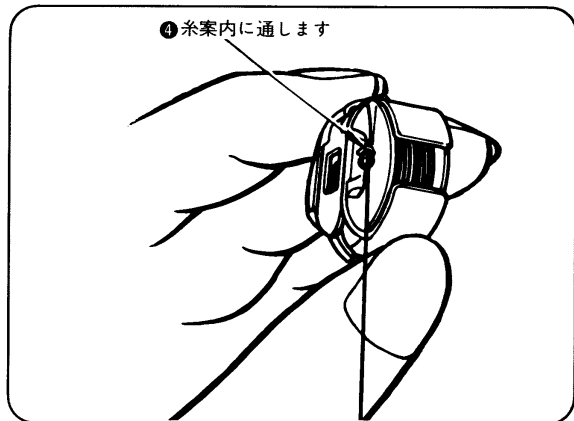
☆ボビンに糸が巻き終ると、ボビンの回転は自動的に停止します。ボビンを左側に押して、ボビン押えからはなし、ボビンを取り出し、糸を切ります。

(4) ボビンケースへの糸の通し方



(注意) ボビンケースのつまみを起したままでは、ボビンは確実にケースの中に入りません。

(5) ボビンケースの取り付け方

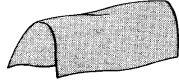
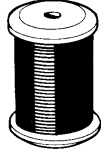
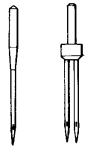
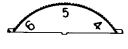
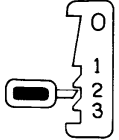
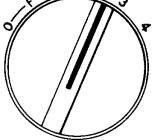
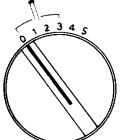
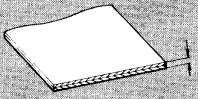
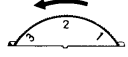

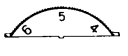
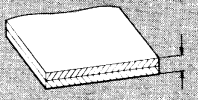
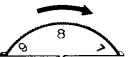


(注意) 模様表示板の  $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{3}{4}$  以外は、糸案内に下糸を通して縫って下さい。より美しく縫えます。

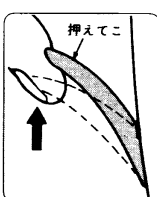
(注意) つまみは、いっぱい開いて下さい。

(注意) しっかりと差し込んでない場合は、ボビンケースが始動とともに、とび出してしまう。

4. 布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方……この表はいろいろな縫い方すべてに関係しますのでよくおぼえて下さい。

	布地・ミシン糸・ミシン針の関係			糸調子のとり方	押えの強さ	縫い目の長さ		ジグザグの振り幅
	布地	ミシン糸	ミシン針			直線縫い	ジグザグ縫い	
						送り調節ダイヤル		
								
<b>薄物縫い</b> 	ローン	カタン糸 80番	9番	ふつうより ややよわく	1	1～2	1～4	1～3
	トリコット	合織ミシン糸 60番						
	ジョーゼット(絹)	絹ミシン糸 50番						
	ウールジョーゼット	絹ミシン糸・ 合織ミシン糸 50番	11番					
<b>普通物縫い</b> 	ギンガム	カタン糸 60番～80番	11番～14番	ふ つ う	2	1～4	F～4	1～5
	薄手ジャージ	合織ミシン糸 60番 絹ミシン糸 50番	11番					
	ギャバジン、フラノ	絹ミシン糸 50番						
<b>厚物縫い</b> 	デニム	カタン糸 50番	14番～16番	ふつうより ややつよく	2	2～4	1～4	1～5
	ジャージ	合織ミシン糸 50番 絹ミシン糸 50番	11番～14番					
	ツイード	絹ミシン糸 50番	11番～14番					

厚物縫いの場合…  
布地が厚くて押えの下へ入れにくいときは、右図のように押えてこをさらに押し上げて下さい。




※送り込みの悪い布地を使用する場合は押えの強さを1～3の範囲で調節して下さい。

※上記以外にも縫い方、裁縫条件によっては糸調子が違ってきますから、適宜調節して下さい。

※ミシン針・ミシン糸のお求めはブラザーミシンの取り扱い店へ……粗悪な安物をご使用にならないようご注意ください。

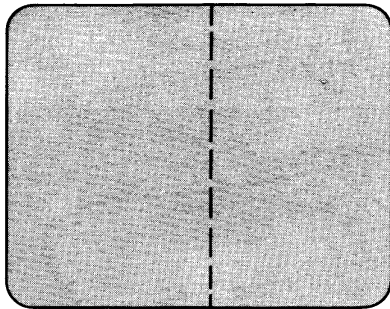
※薄物・伸縮性の布地の縫い合わせには、ゴールデン針をご使用下さい。この場合、付属のストレッチ押えと併用してお使い下さい。

※普通物・厚物にゴールデン針を使用されますと、針が折れる恐れがありますので、普通のミシン針をご使用下さい。

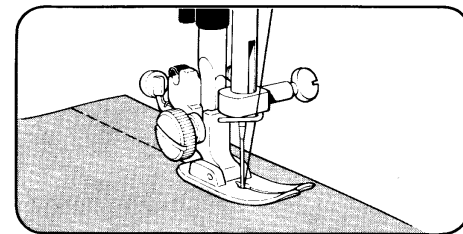
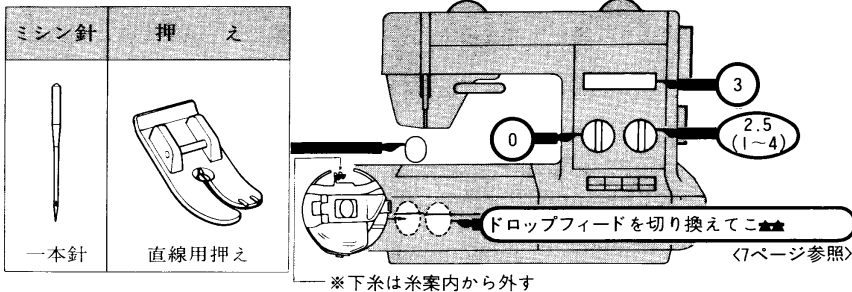
※厚物縫いの場合、模様表示を2(  )にして振り幅を(0)にし、低速で縫って下さい。

直線縫い

……ミシンの準備ができれば縫ってみましょう。正しいミシンのセットのしかたをおぼえ美しく縫いましょう。

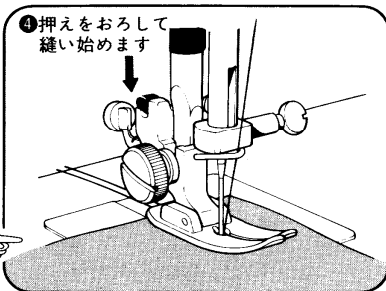
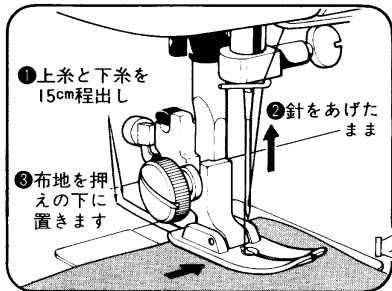


☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと直線縫いができます。

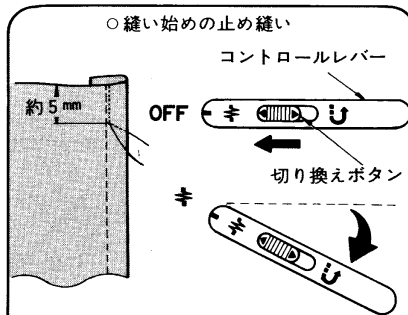


☆布地は送り歯の作用で自動的に送られますから、手は縫い物を縫いたいと思う方向へ導くだけにして下さい。

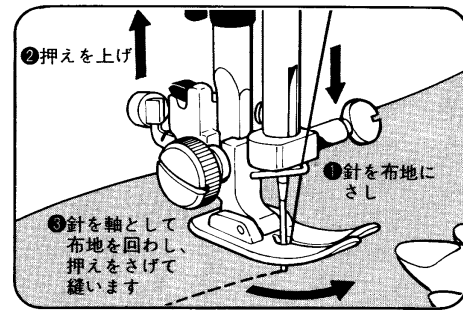
縫いはじめ



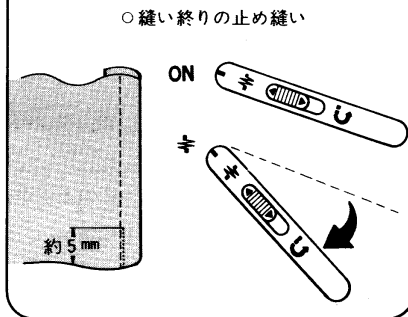
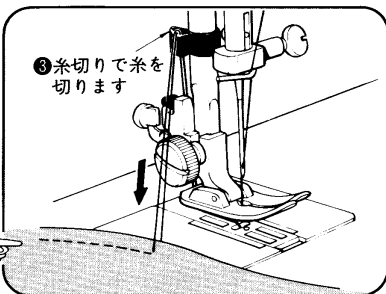
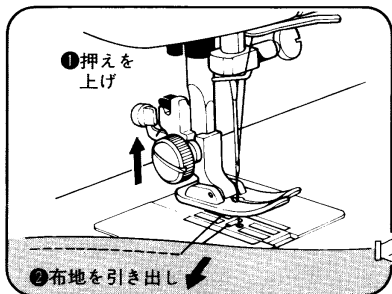
止め縫いのしかた (4ページ参照)



縫い方向のかえかた



縫い終り



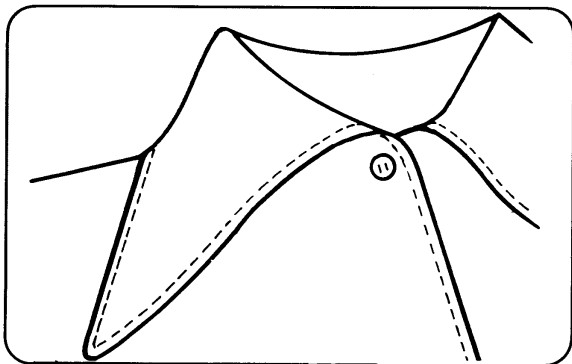
**注意**

- 縫い始め……下糸はかならず引き上げてから、縫って下さい。布地はかならず押えの下いっばいに入れて下さい。
- 針を布地にさしたときは、模様選択ダイヤルとジグザグ幅調節ダイヤルは絶対に動かさないで下さい。動かしますと針が折れたり、曲がったりします。

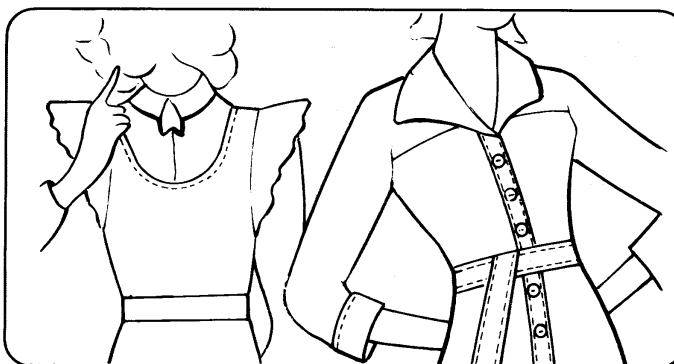
◆こんな場合には……

ポケット・カフス・えり・前立て・ベルト・薄地でのダーツ、端ミシン等を普通に縫い始めたのでは布地が押えと送り歯でしっかりと固定されず、布地がスムーズに送られません。

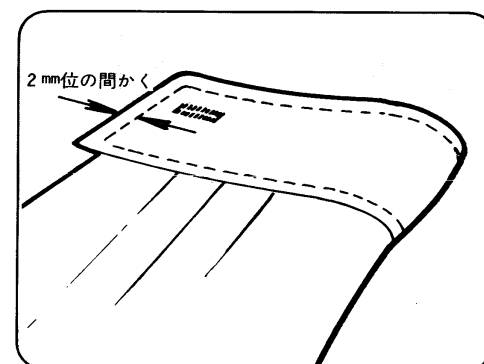
従って、縫い目が不揃いになってきたものになります。下記のような縫い方をするときには、ミシンを次ページのように合わせて縫って下さい。



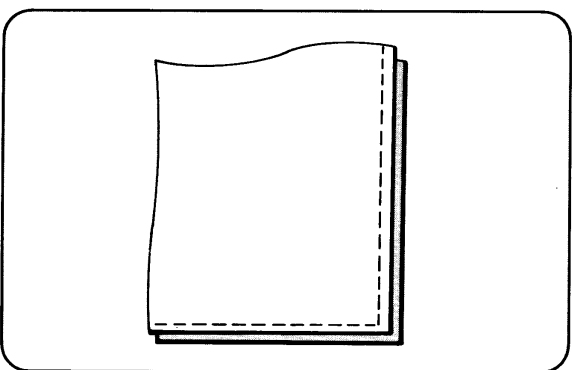
シャツカラーの飾りステッチ(片押えを使用する。)



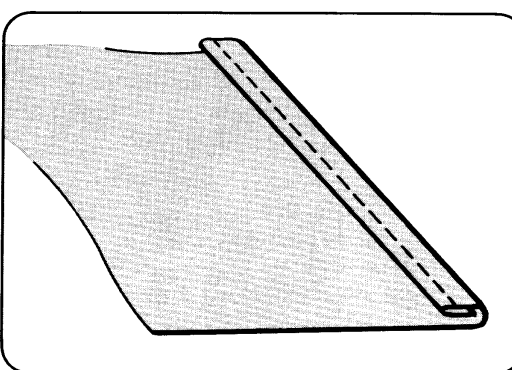
えりなしえりぐりの飾りステッチ(片押えを使用する。)/ベルトの飾りステッチ



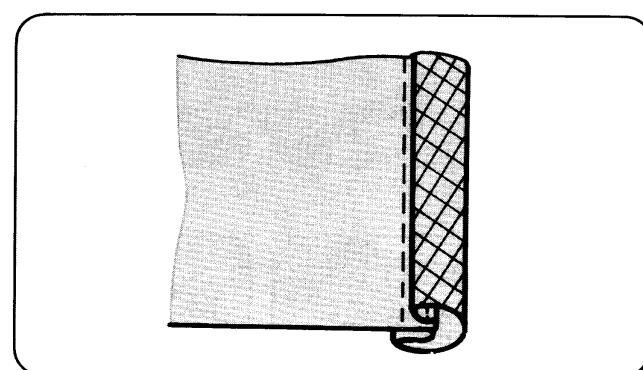
カフスの飾りステッチ(片押えを使用する。)



薄地の端ミシン(片押えを使用する。)  
地縫い



薄地・タオル地等の三つ折り(ジグザグ押えを使用する。)


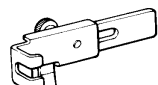
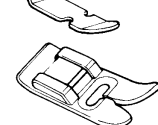


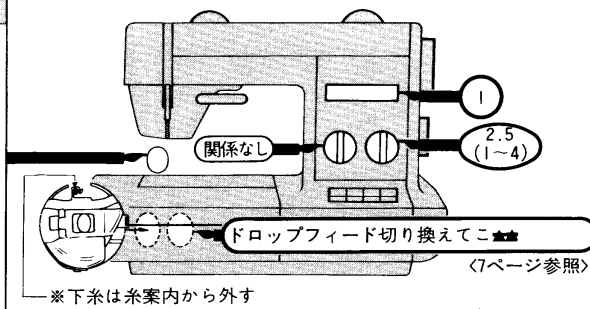
落としミシン(片押えを使用する。)

☆このような場合、針は少し細めのものを使用して下さい。

☆縫い始め布端より1～2mm入ったところから、縫い始めの上・下の糸を向こう側へひっぱりながら縫って下さい。

☆ミシンの合わせ方

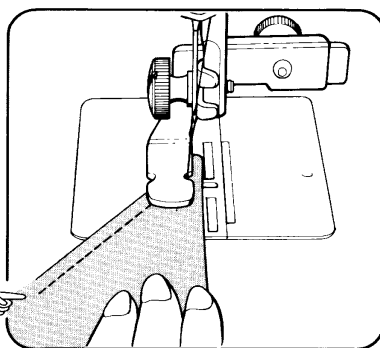
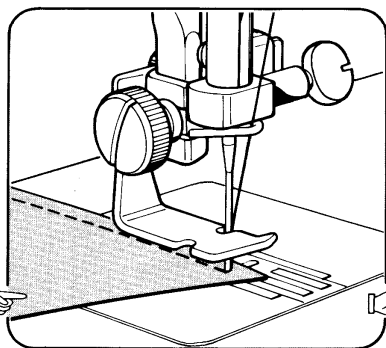
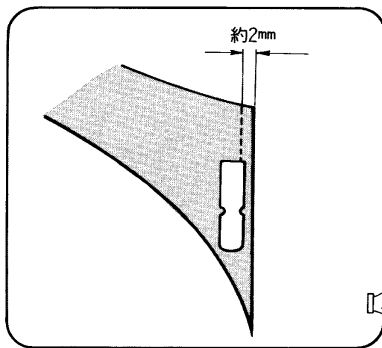
ミシン針	押え
 一本針	  片押えまたは ジグザグ用押え



★縫い方例（その1）

☆シャツカラーの飾りステッチのように先がとがったような部分を（片押えを使用）縫う場合は、ミシンを上表のように合わせて縫います。

※片押えの取り付け方、調節のしかたは38ページをごらん下さい。



- ① 布端より約2mm位のところを縫います。
- ② 先端まで縫いましたら押えを上げ、方向転換をします。
- ③ 押えをさげて2～3針布を手で送り込むようにして縫います。

※シャツカラーの地縫いはほとんどジグザグ用押えを使用しますが、トリコットのようなすべりの良い布地は片押えを使用して下さい。

注意

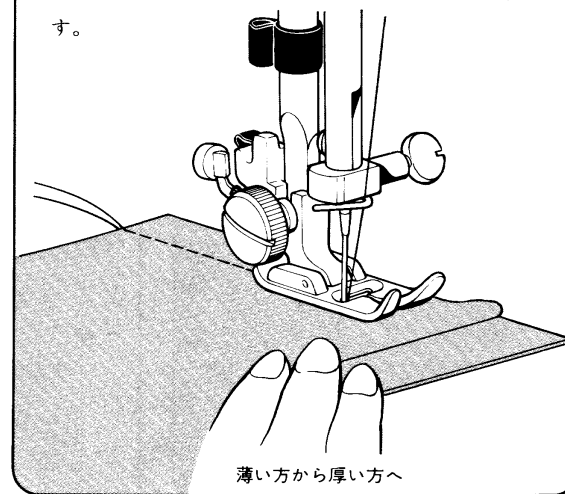
☆コントロールレバーを操作して止め縫いをしないで下さい。

☆布の厚みが押えの下に入らないものは縫えません。

☆布地の端より縫う場合は、上下の糸を向こう側へひっぱりながらゆっくりとミシンをかけて下さい。

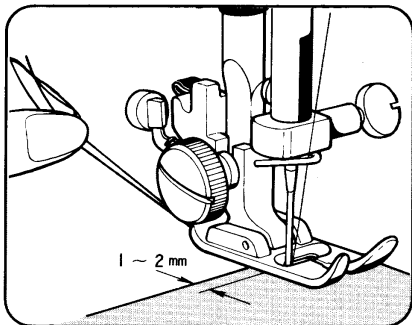
☆縫い代の重なりによって極端に厚みの差ができているところにミシンをかけるときは、薄いところと厚いところの差によってしっかり布が固定されないため、布地がスムーズに送られなかったり、目飛びをしてしまうことがあります。

こんなときには、縫い代を倒した方（薄い方から厚い方）へ向かって縫うか、あるいは縫い代を倒す方向が縫い方向とさからってしまう場合等で布地が送らなくなったときは、押え圧力を弱くして抵抗を少なくし、手で少しずつ布の送りを助けながら縫います。



### ★縫い方例（その2）

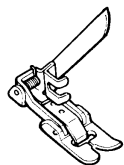
☆薄地の端ミシン・地縫い（片押えを使用）や薄地・タオル地などの三つ折り（ジグザグ押えを使用）などを布端より縫い始める場合は……。



布端より1～2mm入ったところより、縫い始めの上・下の糸を向こう側にひっぱりながら縫って下さい。

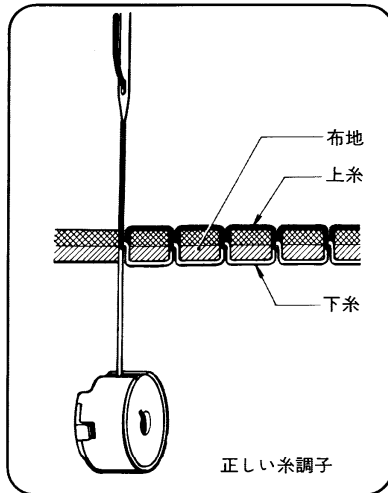
#### 注意

ジャージー・トリコット・メリヤス等のように伸び縮みする布地の裁縫をするときは、片押えやジグザグ用押えのかわりにストレッチ押えを使用して下さい。



ストレッチ押え

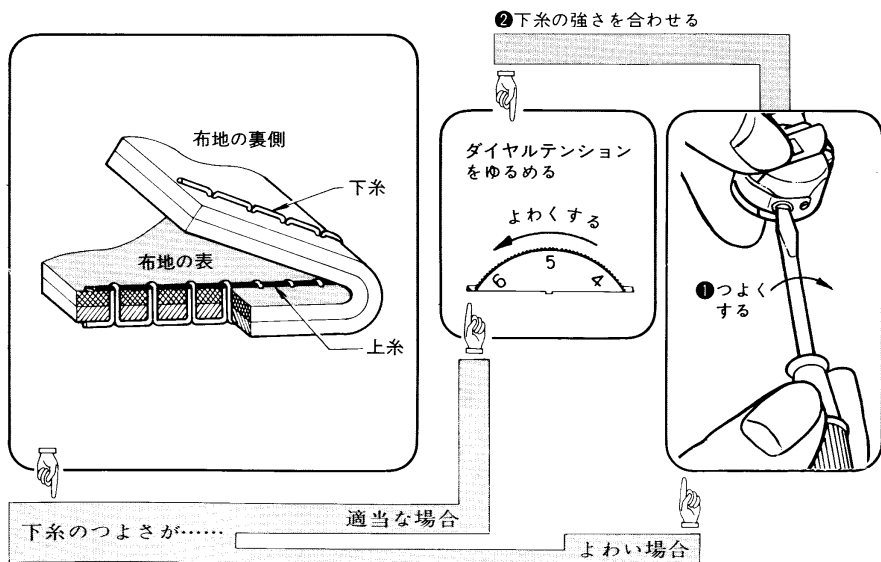
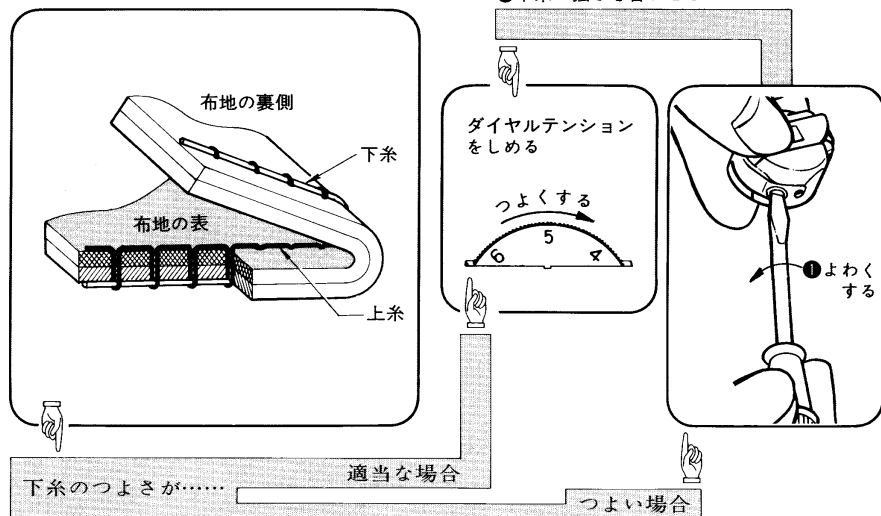
### ◆直線縫いの糸調子



糸調子が正しく調節されていないと縫い目がきたなく、布地にしわがよりの、ときには糸が切れたりします。こんなときにはつぎのように調節して下さい。

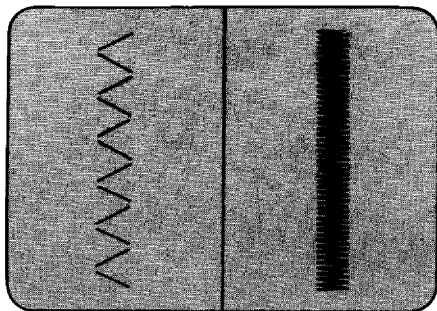
- ① まず下糸の強さをきめます。普通下糸がひっかかりなくなめらかに出来る程度が適当です。
- ② つぎに下糸に合わせて上糸のつよさを調節します。

### ★こんなときには……



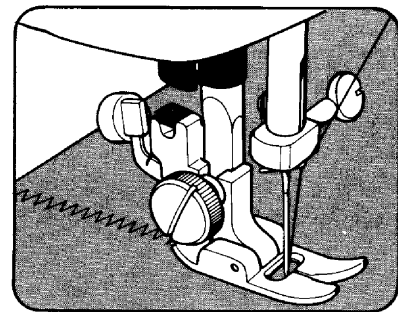
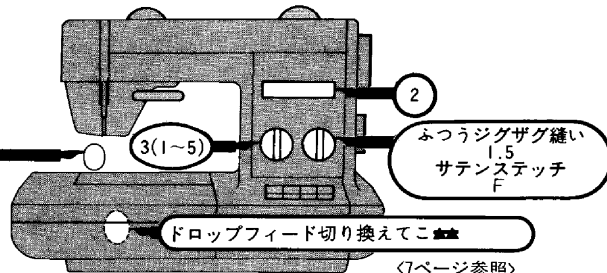
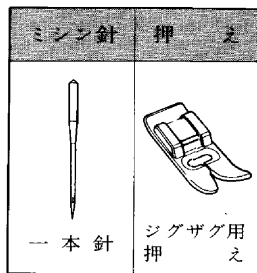


## ジグザグ縫い

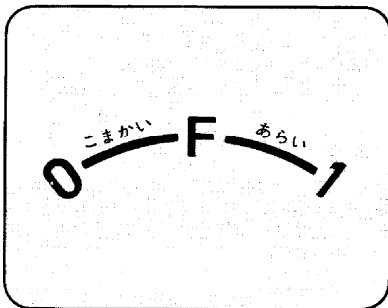


普通ジグザグ縫い サテステッチ

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますとジグザグ縫いができます。



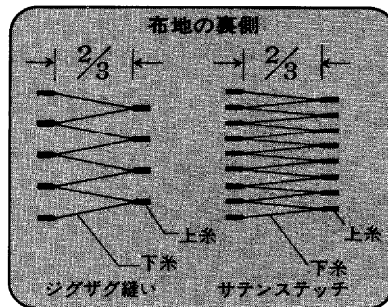
### ◆サテステッチは……



☆ジグザグ縫いの縫い目が重ならず下の布地が見えない程度に糸がすきまなくきれいにならんだ状態をサテステッチといいます。

サテステッチの縫い目のあらかさは普通Fにあわせませんが、縫い条件により左図の範囲で調節します。

### ◆ジグザグ縫いの糸調子



☆ジグザグ縫いとサテステッチの糸調子は布地の裏側から見た場合、下糸がそのジグザグ幅の約2/3程度占めるように加減します。

糸調子のとりかたは……

21ページの「直線縫いの糸調子」をごらん下さい。なお直線縫いするときよりも上糸をゆるくして下さい。

### ◆縫い始め

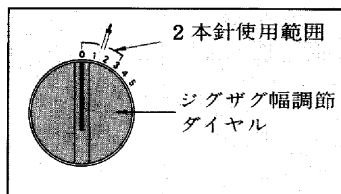
### ◆止め縫いのしかた

### ◆縫い方向のかえかた

注意

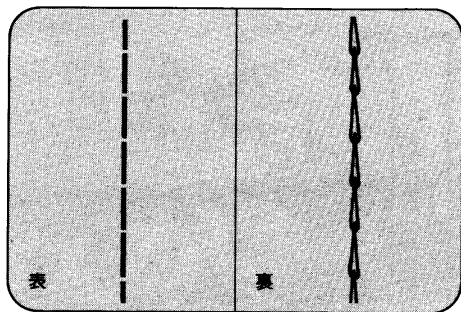
は「直線縫い」の部分18ページをごらん下さい。

### ◆二本針縫いをする場合

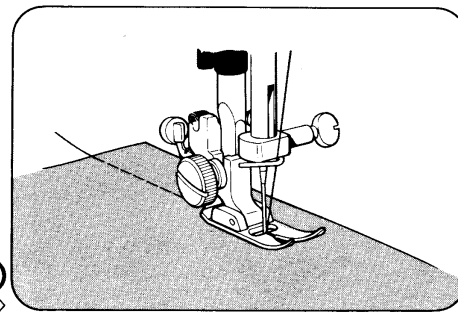
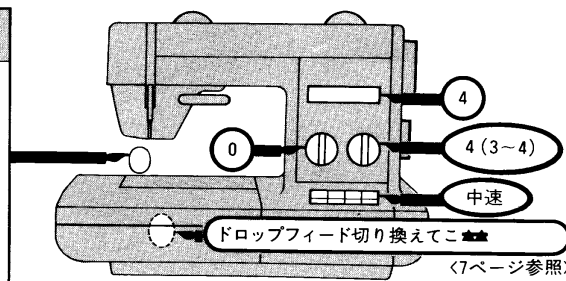
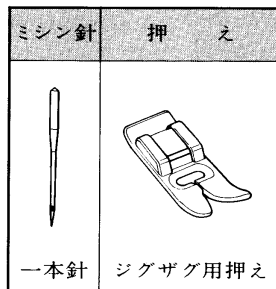


1. 上糸の掛け方は、13ページをごらん下さい。
2. 2本針の使用範囲は、ジグザグ幅調節ダイヤル表示「0～3」の範囲です。
3. 模様表示は必ず「」でご使用下さい。
4. 縫い方向をかえるときは、針を布地より上げてからかえて下さい。

## チェーンステッチ



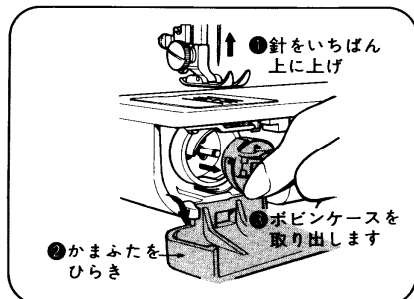
☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますとチェーンステッチができます。



### 上糸のかけ方

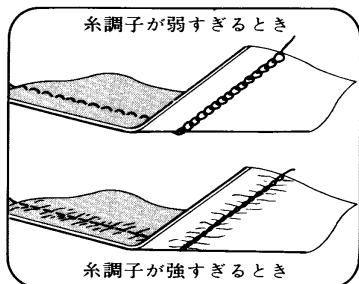
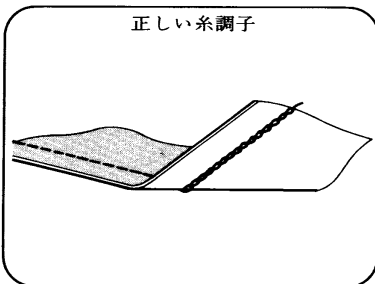
13ページをごらん下さい

### ボビンケースを取り付ける



☆ボビンケースよりボビンを外してご使用下さい。

### チェーンステッチの糸調子



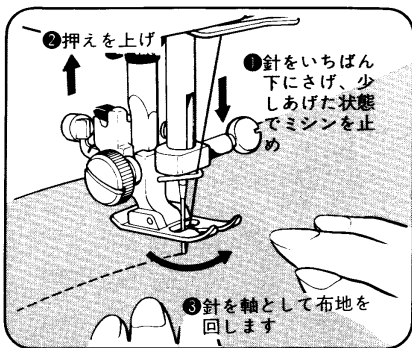
### 注意

- ※縫い方は下糸なしで直線縫いと同じようにお縫い下さい。
- ※返し縫い・止め縫いは絶対にしないで下さい。
- ※チェーンステッチの表側の縫い目は糸締まりに関係なく直線縫いの状態です。

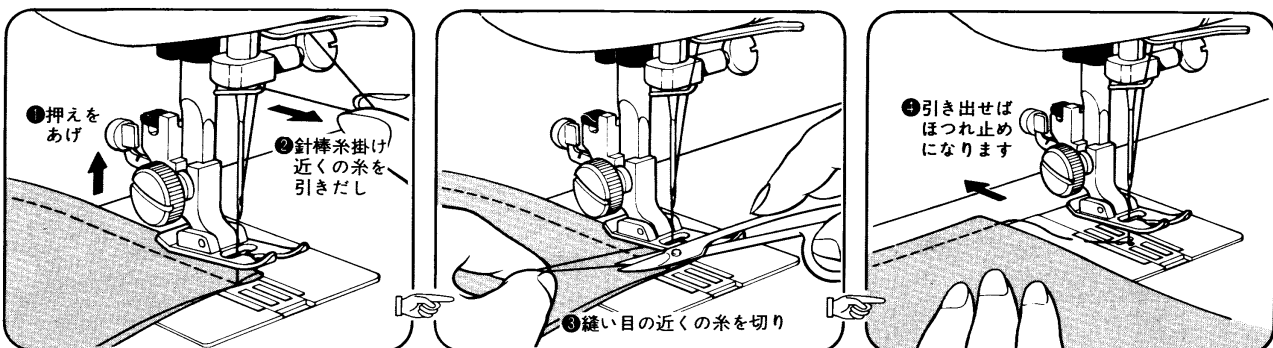
### 布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方

チェーンステッチの利用法	布地の種類	糸の種類	針の太さ	縫い目の長さ
伸縮性のある生地のカ裁縫	中・厚地 ジャージー・綿メリヤス	絹ミシン糸50～60番	14番	目盛3～4
		合織糸50～60番		3～4
和服の縫製、えり、クッションカバーなどの取り付けや仮り縫い	レーヨン、ブロード、リンネル、ポプリン、薄地ウール、サージなど中厚地	絹ミシン糸50～60番	14番	3～4
		綿カタン糸50～60番		3～4
裏側の縫い目を利用した飾りステッチ	ウール、ジャージー、その他	絹ミシン糸30～50番	16～18番	4
毛糸編物のとじ込み	メリヤス編、引き上げ編、タック編など	絹ミシン糸50～60番	14番	3～4
糸ひもの作成	(和紙、障子紙、タイプ紙等)	絹ミシン糸30～50番	14番	4

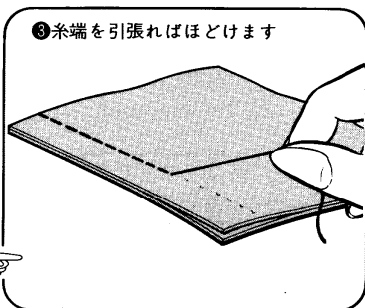
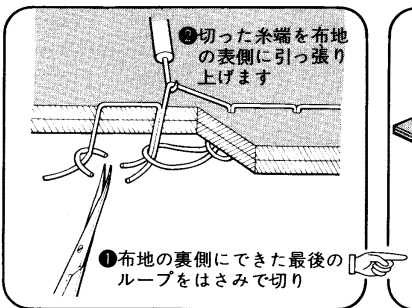
縫い方向のかえ方



布地のはずし方

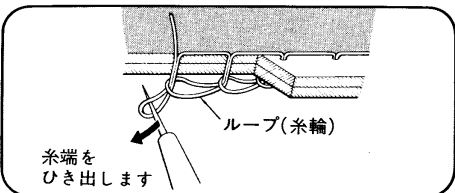


縫い目をほどくには



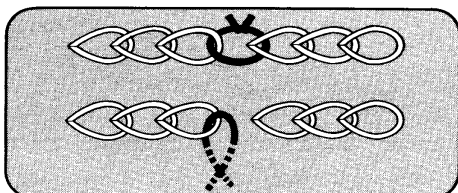
(注意)  
縫い終わった方向からはどいて下さい。縫い始め方向からはほどけません。

ほつれ止めのしかた



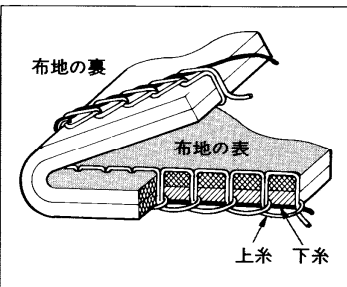
☆ほつれ止めは布地の表に出ている縫い終りの糸を布地の裏側へループの真中から引張り出せばほつれません。なお、ほつれやすい糸は糸端とループを結びます。

目飛びの補正



☆布地の裏をみて、目飛びしている場合は、そのところまでほどいて縫いなおすか目飛びをしている部分を、別の糸でむすび合わせて下さい。

◎下糸入りチェーンステッチ



☆このミシンは下糸の入ったチェーンステッチも縫えます。このチェーンステッチは図のように布地の裏側に下糸が入っており、ほつれ止めの役目をします。☆縫うときは、模様表示を「」に合わせて下糸

を引き上げ、改めて模様表示を「」に合わせてから縫って下さい。縫い終りは、模様表示を「」に合わせて2~3針縫って下さい。そのまま布地が取り外せます。

※「糸の掛け方」「ミシンのあわせ方」は23ページをごらん下さい。

☆縫い目をほどくには……

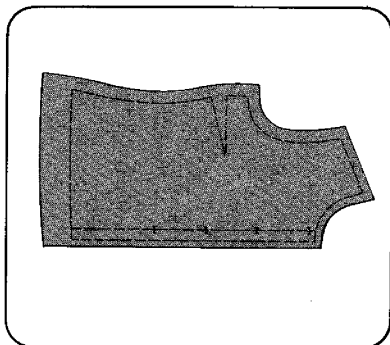
※下糸を引き出し、抜きとります。(下糸は簡単に抜けます。)

※下糸を抜きとったあとはチェーンステッチの場合と同じです。

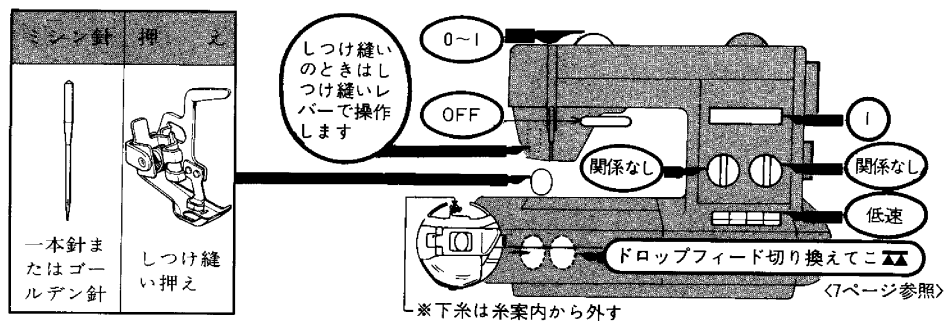
☆下糸のつよさはできるだけ弱くしておきます。

## しつけ縫い

……ミシンによるしつけは布地に対して針が直角に刺るため、上・下2枚の布がずれることもなくしつけられます。



☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますとしつけ縫いができます。

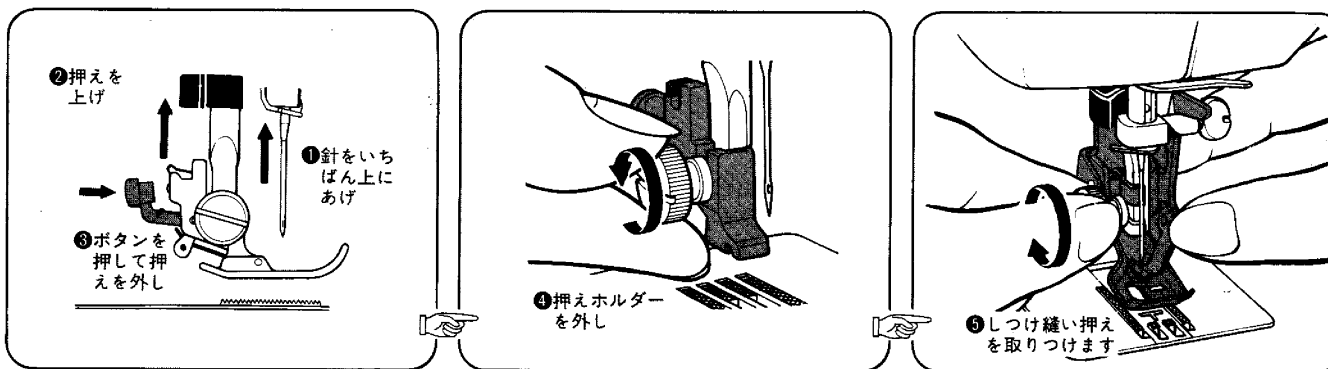


### 注意

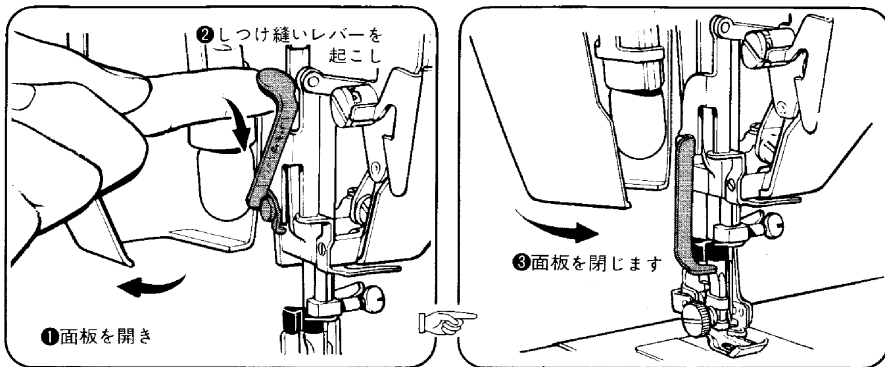
しつけ縫いは、必ず次の順序でミシンを合わせて下さい。

1. 電源スイッチボタン「ON」
2. スピードコントロールブッシュボタン「低速」
3. コントロールレバー「OFF」
4. 模様表示「1」
5. しつけ縫いレバーを面板を開いて取出す。

### しつけ縫い押えの取り付け方



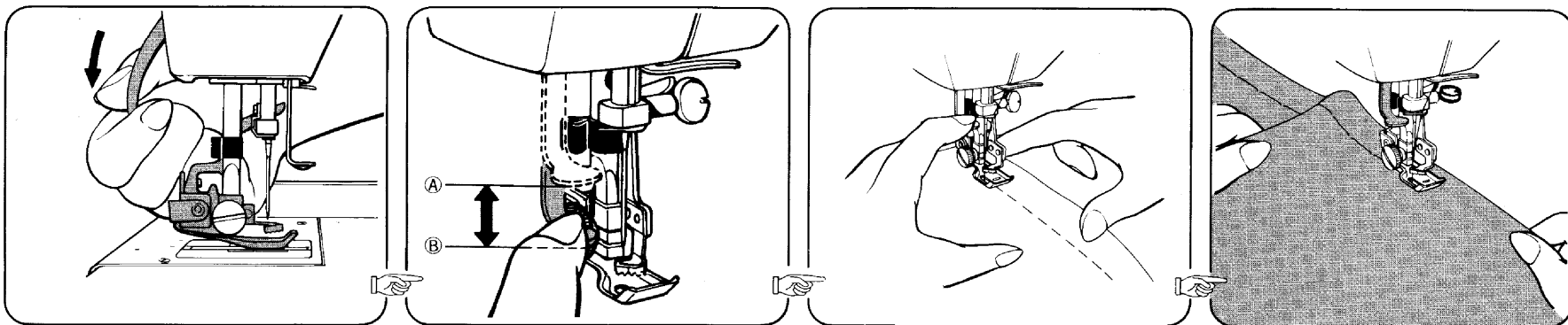
◆しつけ縫いレバーの引き出し方



しつけ縫いをするときの注意

1. 糸は毛羽立ちが多い50番またはしろも（木管巻きのもの）を使用して下さい。
2. 糸調子は上糸・下糸とも出来るだけゆるくして下さい。
3. 裁縫中“針”が外れたり、“押え”がゆるんだりしないように、あらかじめ締めねじをしっかりと締めつけておきます。
4. 目飛び防止について  
布地はできるだけ両手で張るようにして縫って下さい。（万一、目飛びするときはブラザーゴールデン針をお使い下さい。

◆縫い方



☆押え上げてこを下げて縫います。

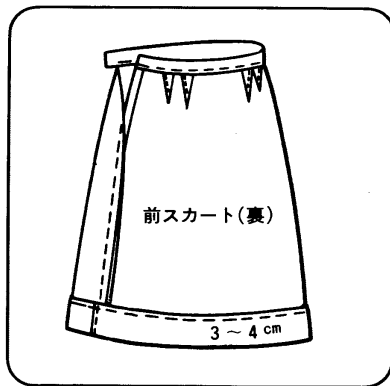
☆しつけ縫いレバーをAからBの位置まで、できるだけ早い操作で一杯にとまるころまで押し下げ1針だけ縫い、ミシンが止まったら手をゆるめて下さい。レバーは自動的にA位置にもどります。

☆縫い始めは布地を両側から押え、手で布地を送って下さい。  
※衣服の縫う部分によって1～3cmの間隔で縫い目を落します。

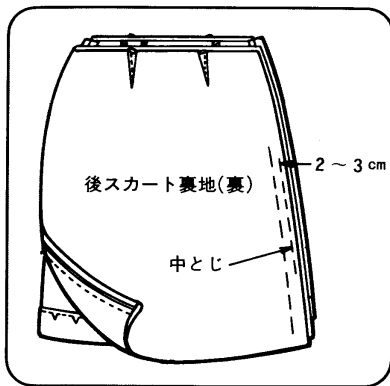
☆手で布地を前方に送り、またレバーをB位置まで押し下げ、つぎの1針を縫います。  
※しつけ縫いをしないときは、しつけ縫いレバーを面板の中にしめて下さい。

縫い付け縫いの利用

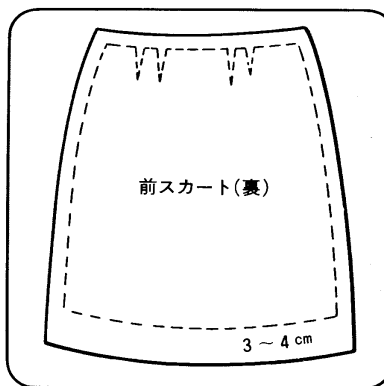
★押えじつけ



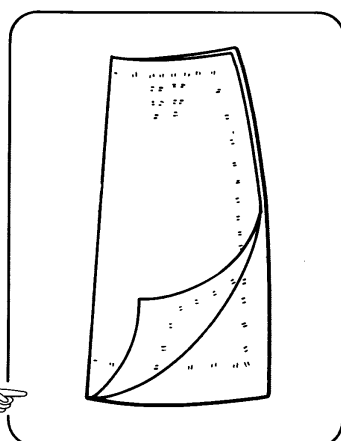
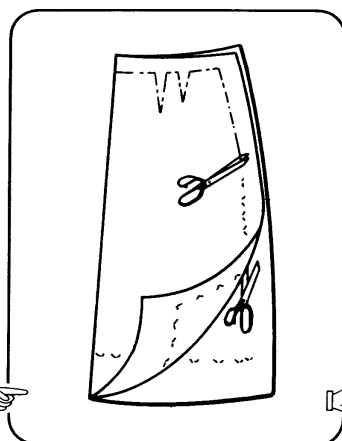
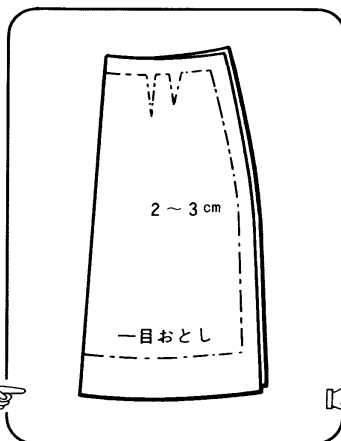
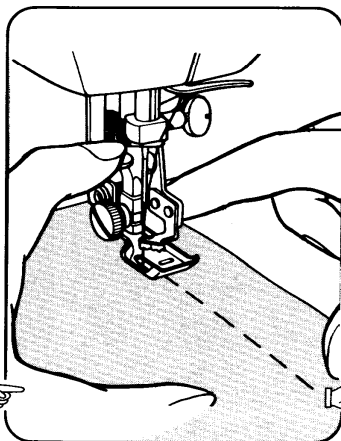
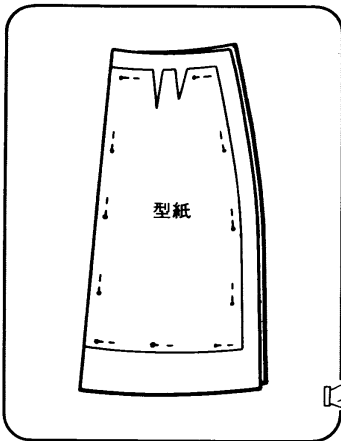
★中とじ



★通しじつけ



★切りじつけ……毛織物・レース・毛足の長い布地など、ヘラヤルレットのきかない布地の印つけに適しています。



☆2枚の布地を中表に重ねて型紙をおき、2～3cmの縫い代をとって裁断しピンでとめます。そして型紙どおりチャコで印を書き型紙を外します。

☆チャコのしるしの内側に針が落ちるように、両手で布地を張るようにして縫います。

☆チャコで印を付けたところは、2針ずつ(一目おとし図のように近づけて縫います。角は糸をたるませて下さい。

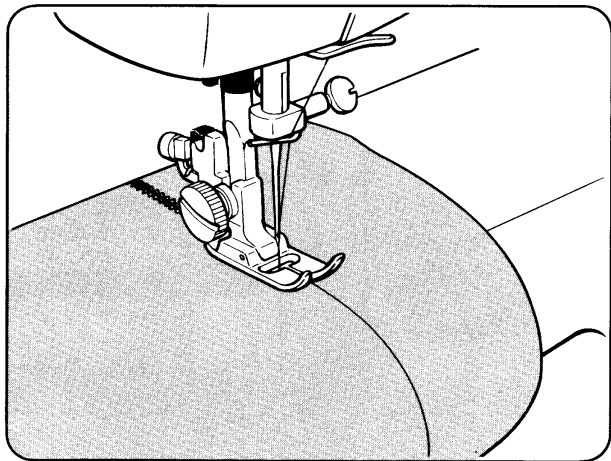
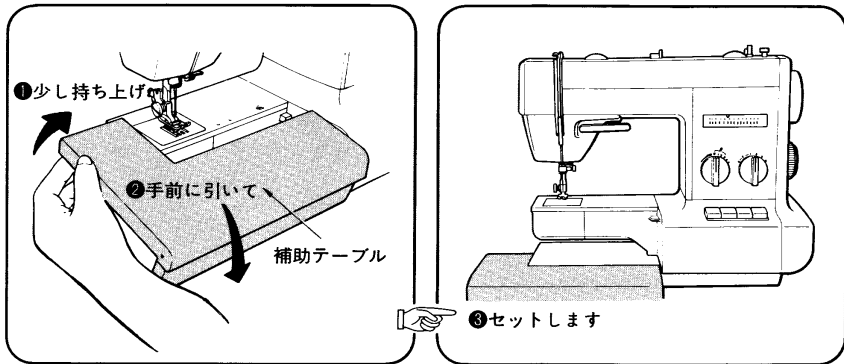
☆長い間隔で縫った中間を両側ともはさみで切り、さらに2枚の布地の間も切ります。

☆糸を1～2mm残して短かく切り、仕上げます。

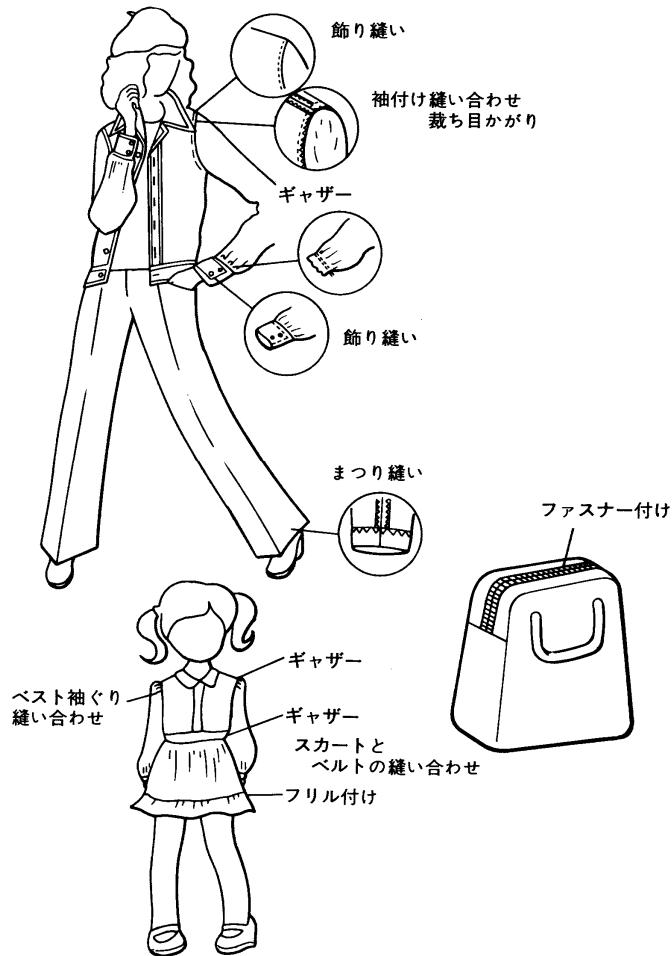
## フリーアームの利用のしかた

☆フリーアームはそでの仕立てやカフス付け、ソックスのつくろい縫いなど筒状になったものを縫うときにご利用頂きますと大変便利です。

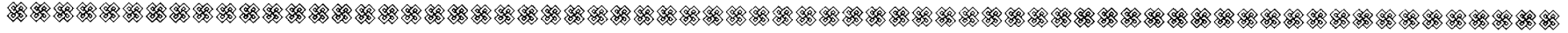
☆フリーアームとして利用されるときは、下図のようにしてご利用下さい。



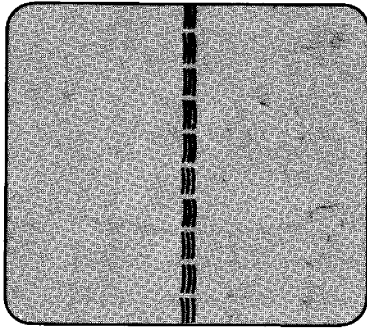
フリーアームはこんなところに  
ご利用下さい……



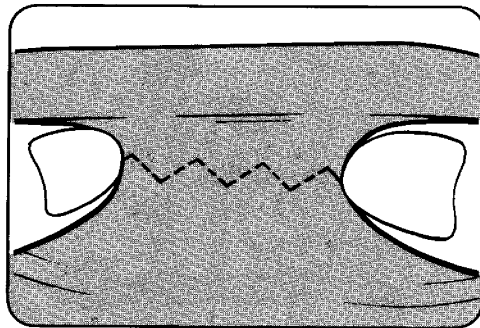
# ❀ いろいろな縫い方 ❀



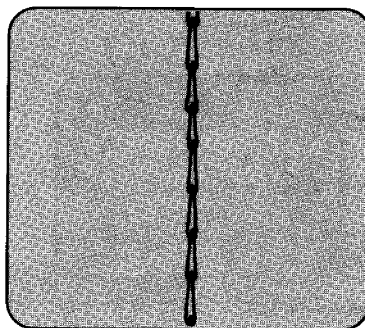
## 伸縮縫い



＜三重縫い＞



＜点線ジグザグ縫い＞

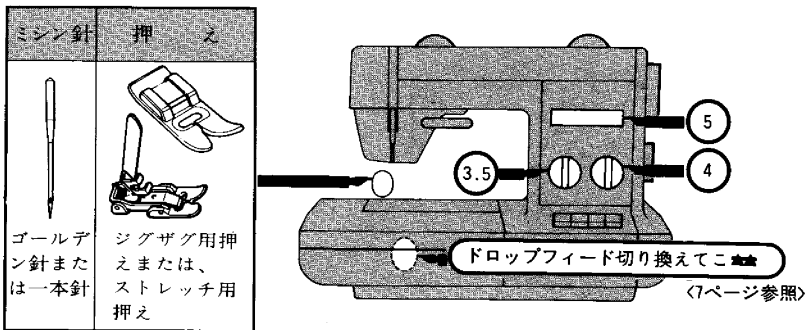


＜チェーンステッチ＞

☆ジャージー、トリコット、メリヤスなどのように伸び縮みする布地の裁縫をするときは、この方法で縫えば布地が伸びても糸が切れてはつれる心配はありません。

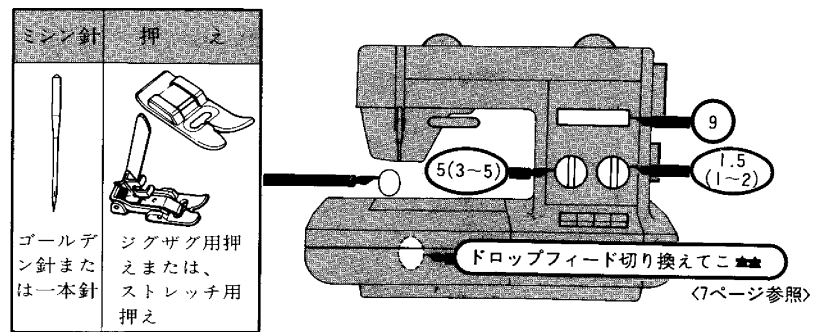
### ◆三重縫いのとき

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、三重縫いで伸縮縫いができます。



### ◆点線ジグザグ縫いのとき

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、点線ジグザグ縫いで伸縮縫いができます。

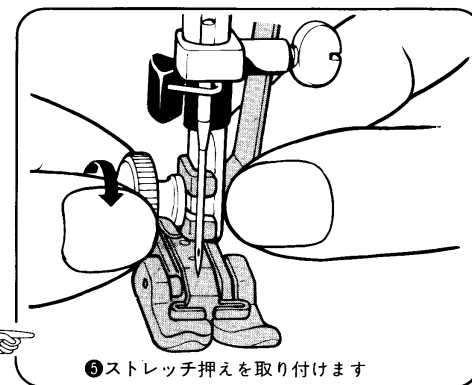
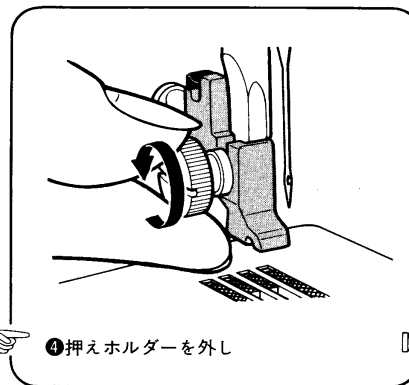
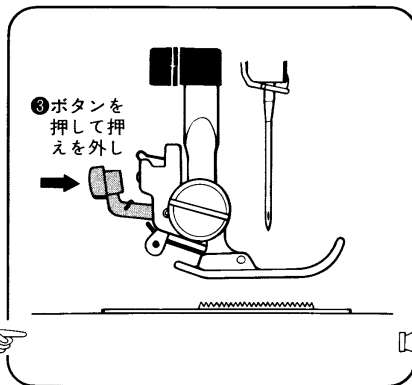
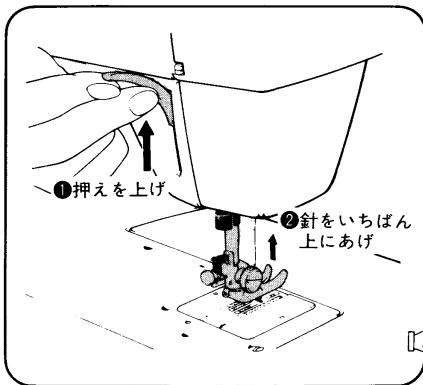


### ◆チェーンステッチのとき

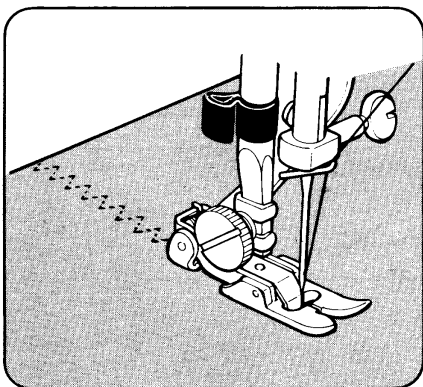
☆23ページをごらん下さい。



ストレッチ押えの取り付けは……



縫い方

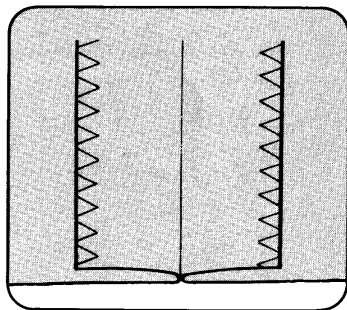


—— 伸縮縫いをするときの注意 ——

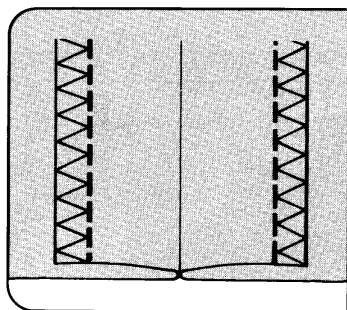
糸は50～80番位の絹糸・カタン糸でもよいのですが、ナイロン透明糸を使えば伸縮性もあり、とくに柄編みのものやトリコットの下着の補修にも、縫い目がめだたず美しく仕上がります。

いろいろな縫い方

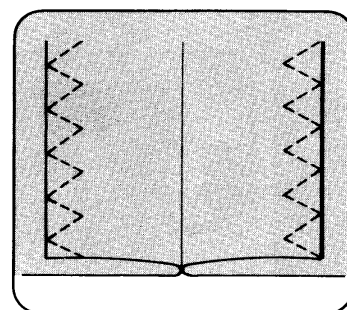
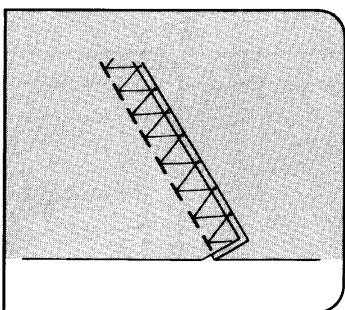
## 裁ち目かがり



〈ジグザグ縫い〉



〈オーバーロックステッチ〉



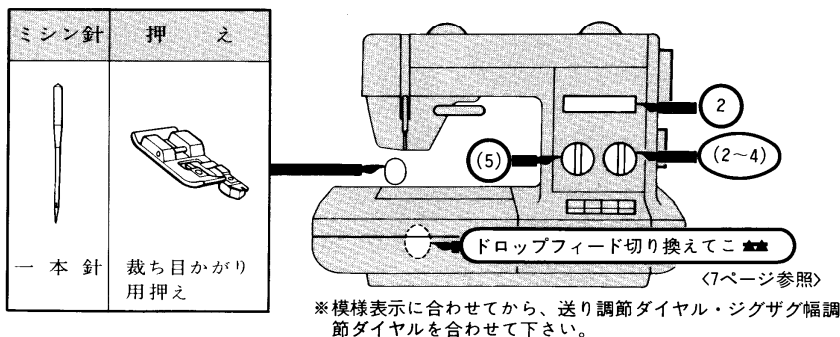
〈点線ジグザグ縫い〉

☆ズボン、スカートなど縫いしろの始末、あらゆる裁ち目の始末に用います。

☆オーバーロックステッチで縫えば、縫いしろを割らなくてもよいものなら、裁ち目かがりをおこなながら地縫いがスピーディにできます。

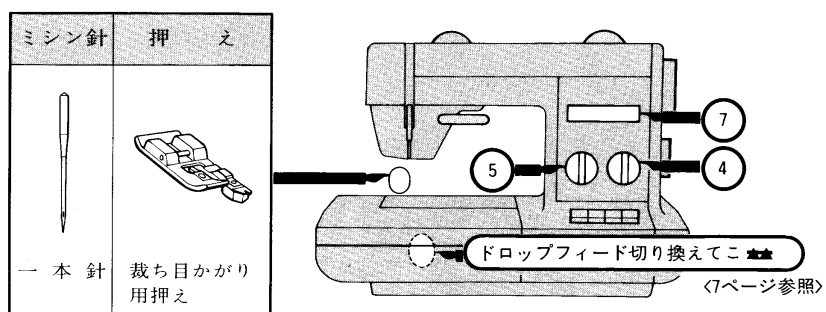
### ◆ジグザグ縫いのとき

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、ジグザグ縫いで裁ち目かがりができます。



### ◆オーバーロックステッチのとき

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、オーバーロックステッチで裁ち目かがりができます。



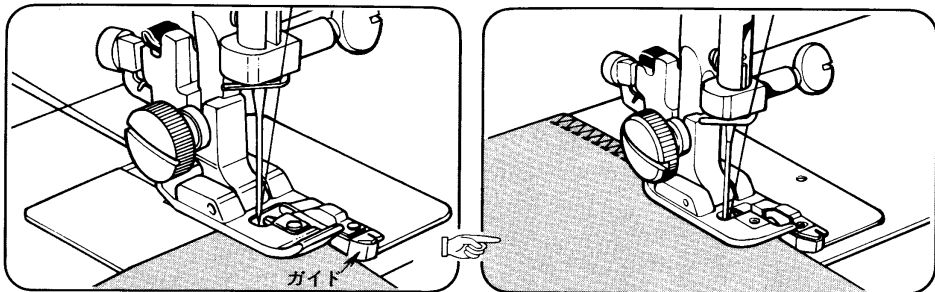
#### 裁ち目かがり用押えを使用するときの注意

裁ち目かがり用押えを使用するときは止め縫いをしないで下さい。  
また、コントロールレバーを「ON」(ひざ当てレバーのときは「ON」、「OFF」)にすると、レバーを押しすぎないで下さい。押しすぎますと針が布押えに当たる事があります。

#### 裁ち目かがりをするときの注意

糸調子は上糸と下糸が布地の端面で交差するように調節します。  
また、薄い布地の場合は布端を二つ折りにして縫います。

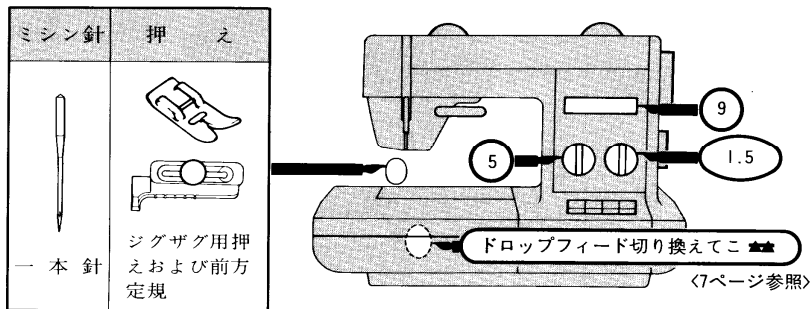
縫い方



☆上糸と下糸は向こう側へそろえておき、裁ち目かがり用押えのガイドに布端をぴったりあてて押えをおろし、ガイドにそって縫います。

◆点線ジグザグ縫いのとき

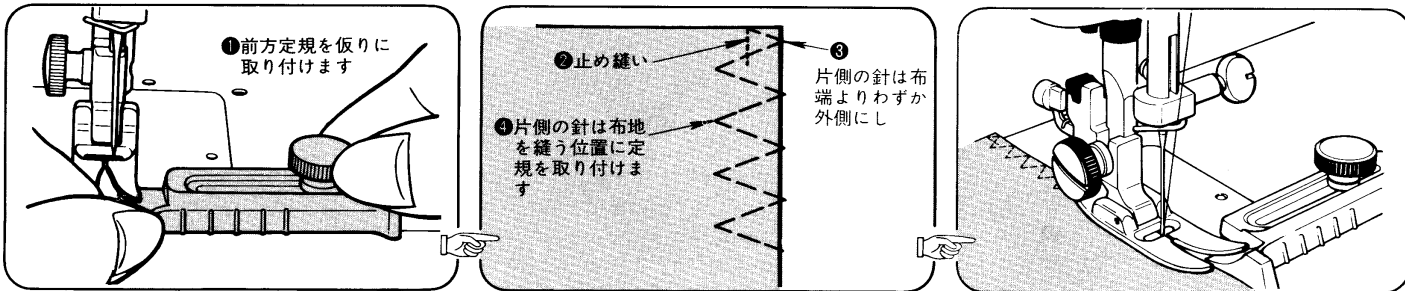
☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、点線ジグザグ縫いで裁ち目かがりができます。



— 裁ち目かがりをするときの注意 —  
糸調子は上糸と下糸が布地の端面で交差するように調節します。  
また、薄い布地の場合は布端を二つ折りにして縫います。

いろいろな縫い方

縫い方



☆布端を定規の側面に軽くあてながら縫います。

## まつり縫い

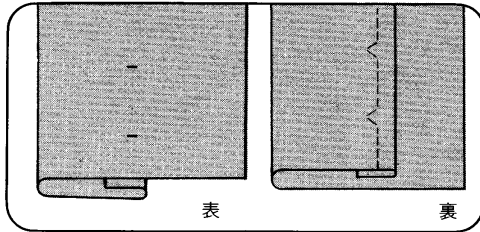
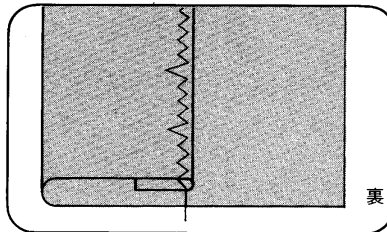


表  
裏  
〈ブラインドステッチ〉

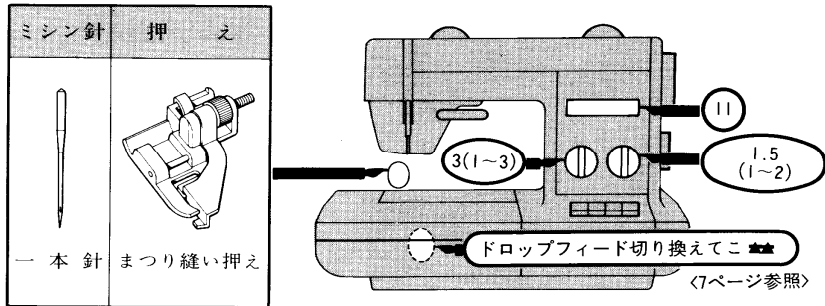


裏  
〈ジャーマンブラインドステッチ〉

☆ワンピース、ブラウス、ズボン、スカートなどのすそ、そで口に用います。

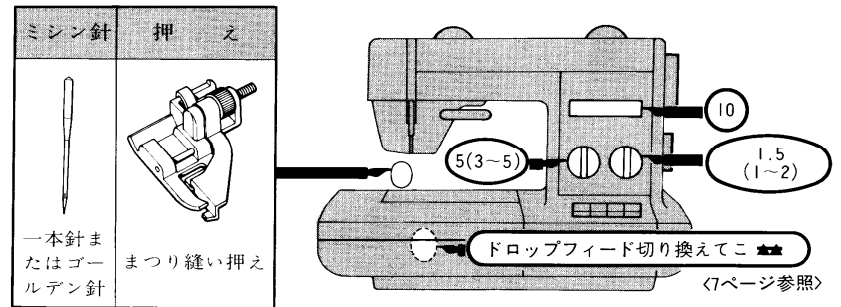
### ◆ブラインドステッチのとき

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、まつり縫いができます。

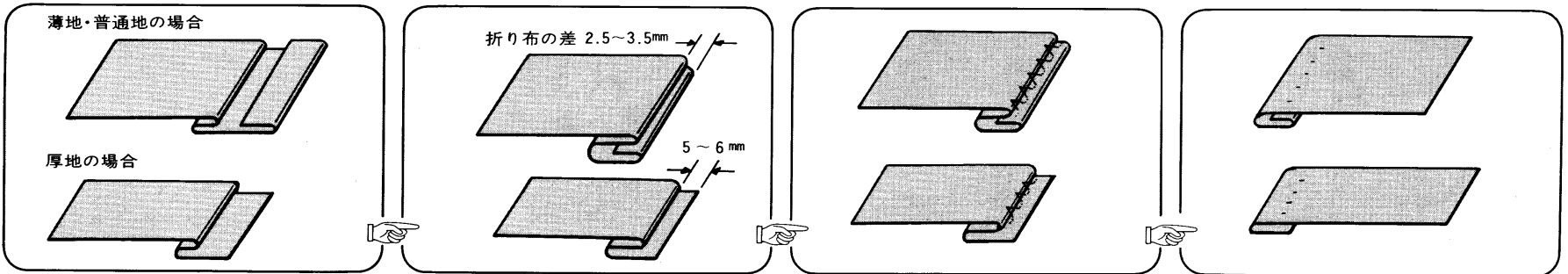


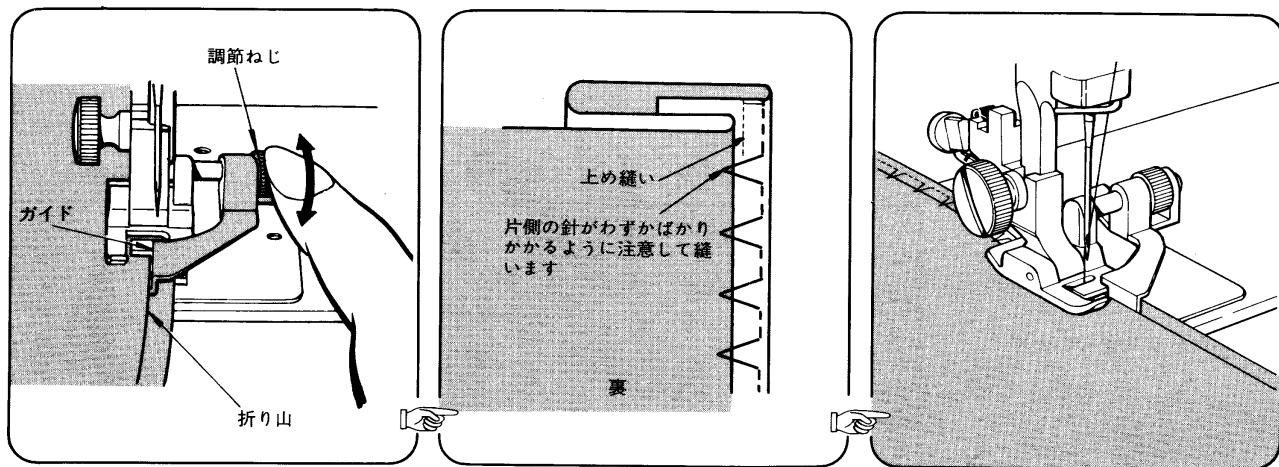
### ◆ジャーマンブラインドステッチのとき

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、まつり縫いができます。



### 布地の折り方



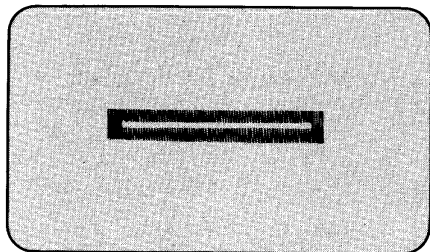


☆折り曲げた布地の折り山を押えのガイドに当て、針先が折り山に必要以上かからないよう、調節ねじで調節して縫います。

—まつり縫いをするときの注意—

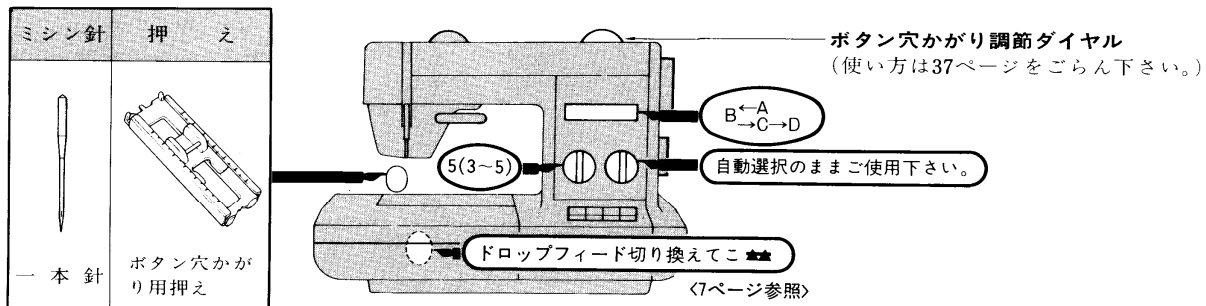
1. 上糸の調子をやや強めにします。
2. 左側に落ちる針が必要以上にかかりすぎると布が開かず、表側に出る縫い目が大きくなり、きれいに仕上がりません。
3. ジグザグの振り幅は、折り布の差(2.5~3.5mm)以内にセットして下さい。

## ボタン穴かがり

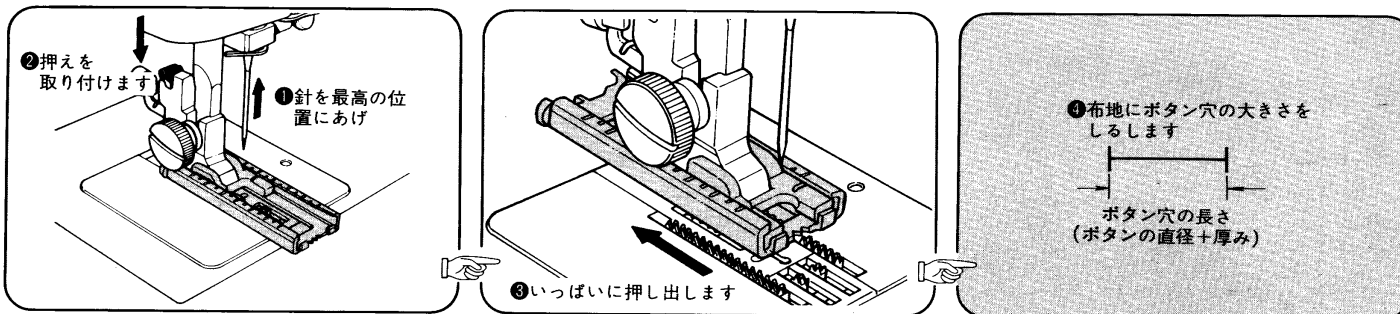



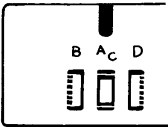

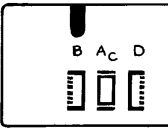

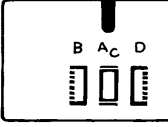

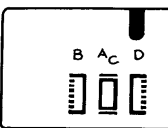

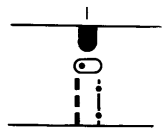
☆裁縫一般に用います。

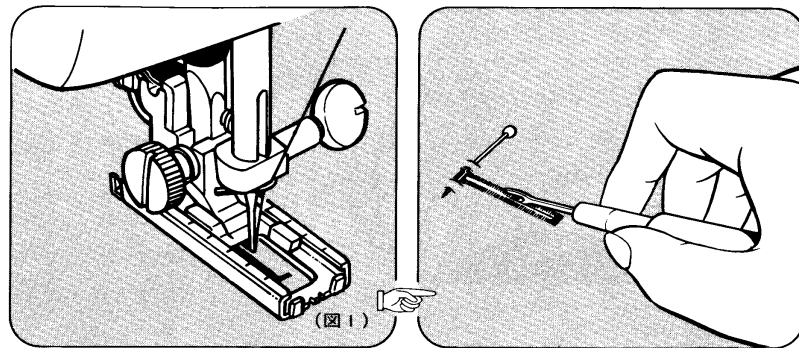
☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、ボタン穴かがりができます。



## 縫い方



縫う順序	模様表示板	縫い方
		①模様選択ダイヤルを回わして指針を「AC」に合わせ、かんぬき止めを5～6針縫って運転を止めます。
		②模様選択ダイヤルを回わして指針を「B」にあわせ、しるしのところまで縫い、運転を止めます。
		③模様選択ダイヤルを回わして指針を「AC」に合わせ、かんぬき止めを5～6針縫って運転を止めます。
		④模様選択ダイヤルを回わして指針を「D」に合わせ、前に縫ったかんぬき止めまで縫い、運転を止めて①の位置へ手でミシンをまわし、針を落します。
		⑤針を布地に刺したまま押えを上げ、模様選択ダイヤルを回して、指針を「1」に合わせ、布地を左手前方向に90°回し、押えを少し手前に引き出して押えを下ろし、送り調節ダイヤルの目盛を「1」に合わせ、かんぬき止めの中に※直線の前進縫いで細かく縫います。



☆左表の順序に従って縫いますと、ボタン穴かがりができます。

☆かん止めのところにまち針を刺してリッパーで縫い終わったところを切り開きますがこのとき縫い目を、切らないよう注意します。

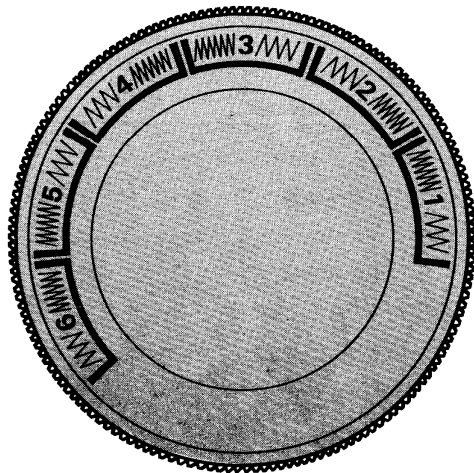
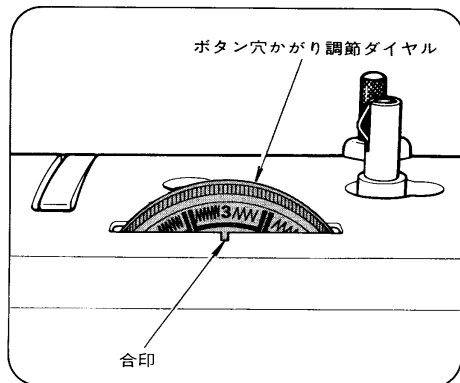
ボタン穴かがりをするときの注意

ジャージやトリコットなど伸び縮みする布地や絹・オーガンジー・デシンなどの薄地にボタン穴かがりをするとき

1. ボタン穴かがりは布地2枚以上合わせて縫います。
2. うす地ですときはボタン穴を細めにし、ジグザグ幅を「3」程度にして縫います。
3. 図のように芯ひもを入れて縫いますと穴部の伸びを防ぐことができます。
4. 穴かがりをしようとする部分の裏側に障子紙のような薄い紙を当てて縫い、縫い終わってから取り除くようにしますと、布地が伸びたり、縮んだりするのを防ぐことができます。



## ボタン穴かがり調節ダイヤルの使い方



◆このダイヤルはボタン穴かがり専用の調節ダイヤルです。

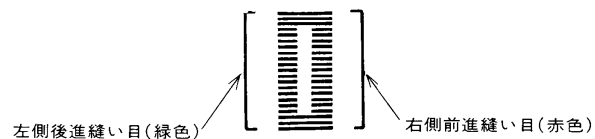
☆数字が1～6まであり、数字が大きいくほど縫い目長さがあらかくなります。布地と糸にあった縫い目長さ（1～6までの数字）を選んで合印に数字を合わせて下さい。

※ブロード地2枚合わせのときは、ダイヤル表示の数字「2」又は「3」の数字を合印に合わせて下さい。


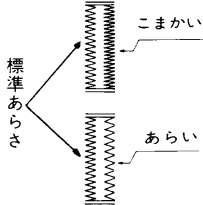

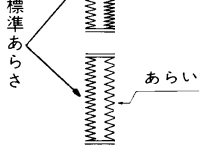


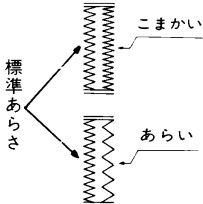



☆このようにして、一度選んだ縫い目長さは、記憶されますから、他の裁縫後にも前と同じボタン穴かがりを作ることができます。

この場合、ボタン穴かがり調節ダイヤルは、動かさないで下さい。

◆右側前進縫い目と左側後進縫い目に違いがある場合は下表を参照の上、調節して下さい。

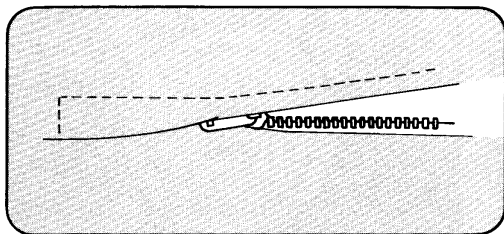


### 〔裁縫例〕

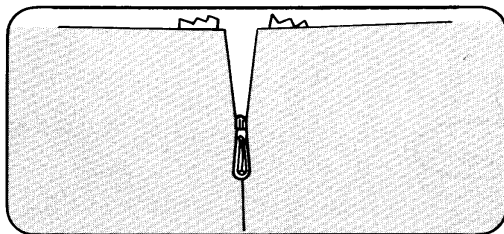
下記の日盛に合わせて縫ったとき	その縫い上がりが下図のような場合は	ダイヤルを回し下記のように調節する
		 右側前進縫い目をあらくする 調節範囲(目盛のあらい表示内)
		 右側前進縫い目をこまかくする 調節範囲(目盛のこまかい表示内)
		 右側前進縫い目をあらくする 調節範囲(目盛のあらい表示内)
		 右側前進縫い目をこまかくする 調節範囲(目盛のこまかい表示内)



## ファスナー付け



＜普通ファスナー付け(片合わせ)＞



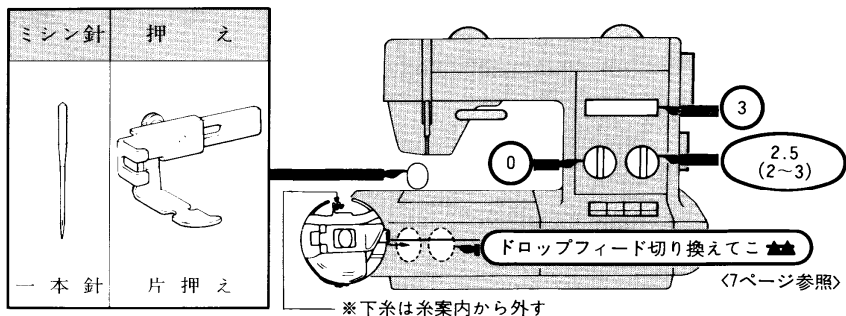
＜コンシールファスナー付け＞

☆スカートや、ワンピースの脇あき、財布、袋物などに用います。

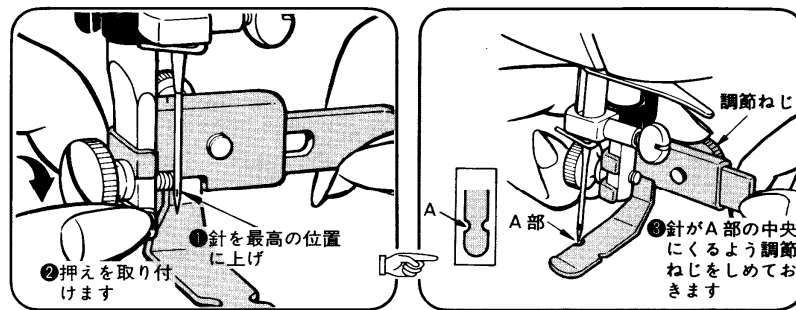
☆コンシールファスナーの特長は、ファスナーを縫いつけた縫い目が布地の表に現われず、つき合わせ状の縫いつけができることで、ドレスシーな感覚を損うことなく、ファスナーの良さを利用することができます。

### ◆普通ファスナー付けのとき

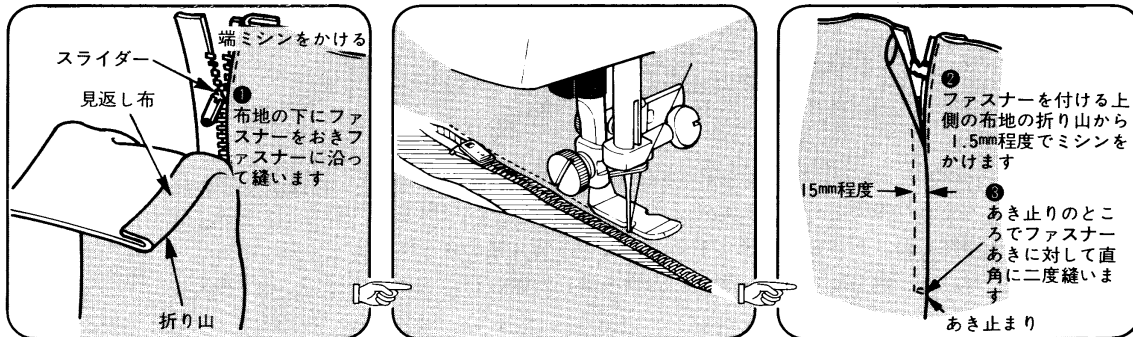
☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと普通ファスナー付け(片合わせ)ができます。



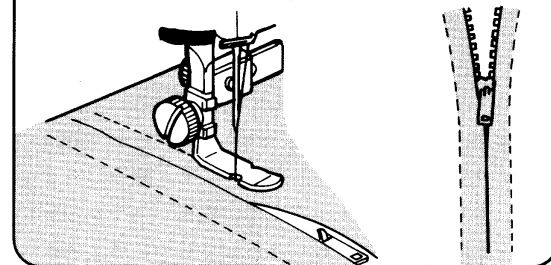
### 押えの取り付け方



### 縫い方



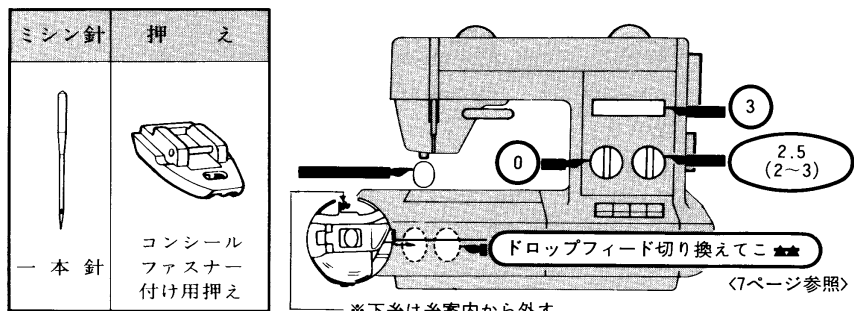
☆図のようにあきを突き合わせにすることも片押えを使用して縫います。



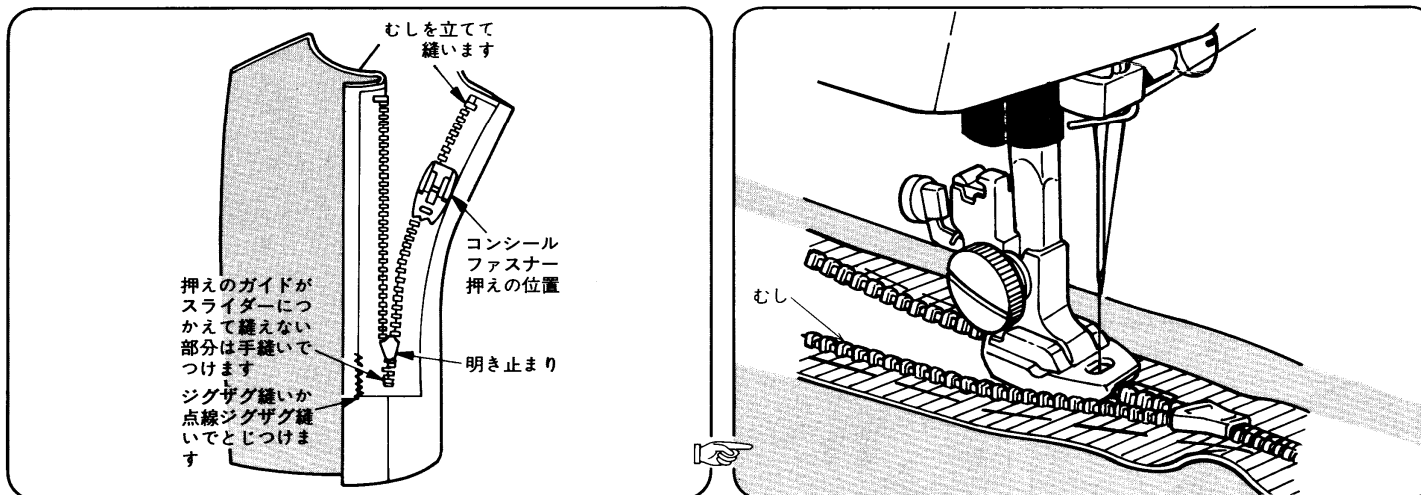
いろいろな縫い方

## ◆コンシールファスナー付けのとき

☆ミシンを次のようにセットして縫いますとコンシールファスナー付けができます。



## 縫い方

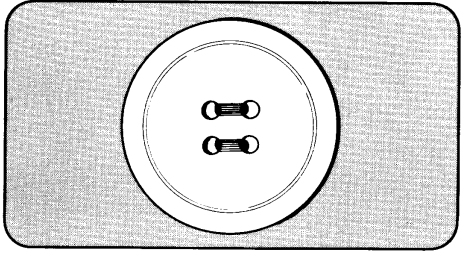


※樹脂性のコンシールファスナーで縫う場合はむしを立てながら縫うようにして下さい。

☆コンシールファスナーをつけるときのあき寸法は、ファスナーの長さより2~3cm短かくしておきます。縫いしろをしるし通りに折って、裏側へファスナーをあて、表布とのつり合いに注意してファスナーを開き、裏側のむしのそばをしつけて止めます。

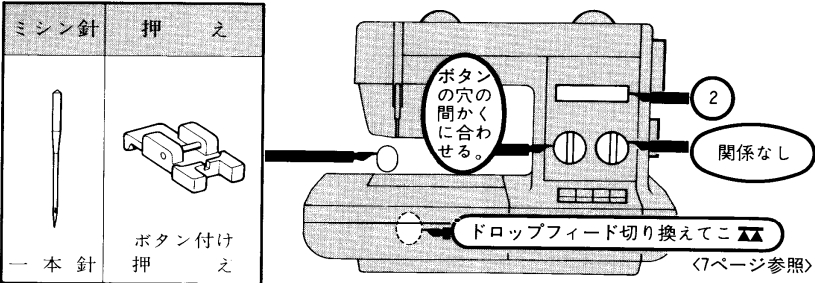
☆ファスナーの裏側からむしを立てて縫いますが、むしの右側を縫うときは押え裏にある左側の溝と右側のむしがはまり合うように、また、むしの左側を縫うときは押えの右側の溝と左側のむしがはまり合うようにして縫います。

# ボタン付け



☆裁縫一般に用います。

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、ボタン付けができます。



**ボタン付けをするときの注意**

ボタン足を必要とするときは、それに応じた厚紙を右図のようにボタンと布地の間に入れ普通のボタン付けと同じように縫います。ボタンの上にマッチ棒・ミシン針などをおいて縫うと都合のよいときもあります。縫い終わりましたらリッパーの先端で下糸を引き上げ、ボタン足に最初の上糸・下糸と最後の上糸・下糸を束ねて、それぞれ反対方向に巻きつけ結びます。

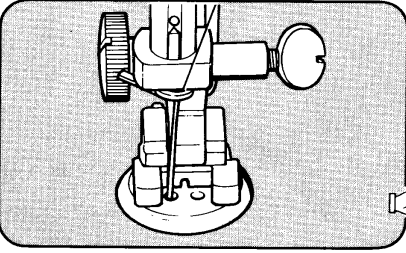
ボタン足を必要とする場合(A図)

布地、ボタン、ボタン穴、厚紙

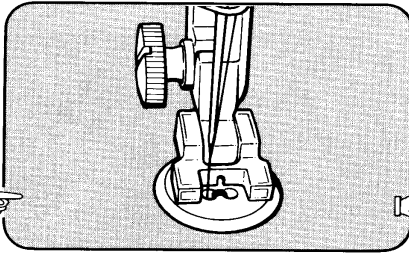
ボタン足を必要とする場合(B図)

布地、ボタン、ボタン穴、マッチ棒

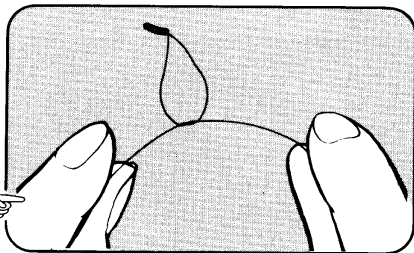
## 縫い方



☆押え上げてこを上げたままボタンを押えの下に入れ、ボタン穴の間かくに合うようにジグザグ幅を調節して押え上げてこを下ろします。



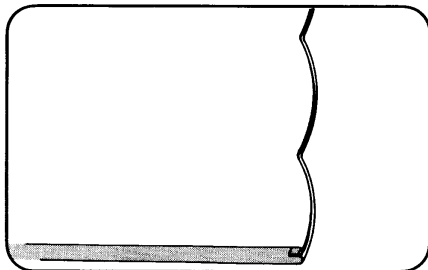
☆10針程度縫い、針が左に落ちたとき運転を止めます。



☆最初の上糸・下糸は切り取り、最後の上糸・下糸を裏に出して結びます。

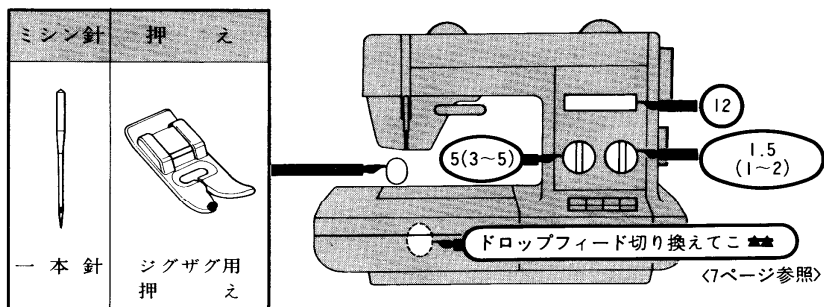
いろいろな縫い方

## スカラップステッチ

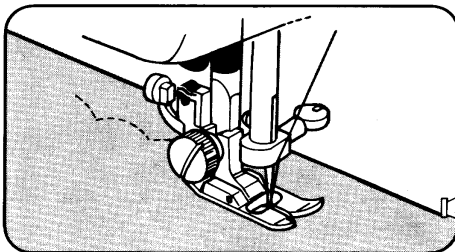


☆スカラップは半月状のまるいカーブの連続した波形の模様をいいます。婦人服、子ども服、ベビー服などの縁飾りや、テーブル掛け、椅子掛けなどの縁飾りとして、また、はしのしまつなど、いろいろ応用できます。

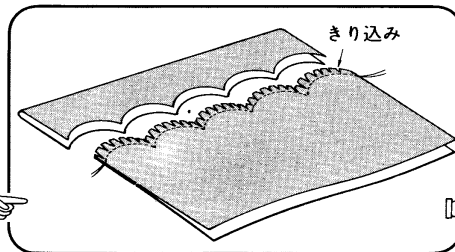
☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますとスカラップステッチができます。



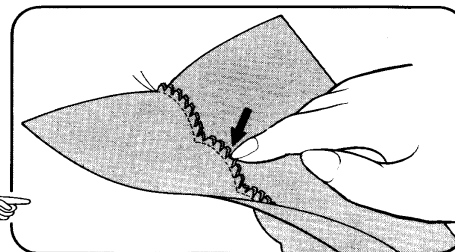
### 縫い方



☆布を中表に折って端を縫います。

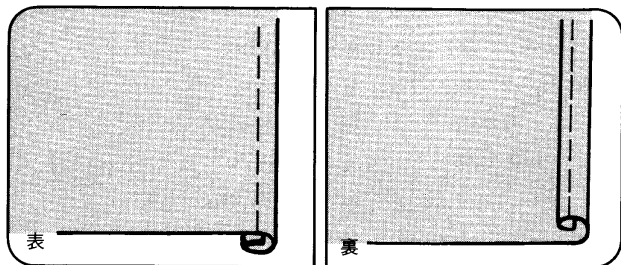


☆縫い目にそって3ミリぐらいの縫いしろをのこして切りとり、縫いしろに切り込みを入れます。



☆布を表に返してスカラップステッチの山を表に押しだし、アイロンで仕上げます。

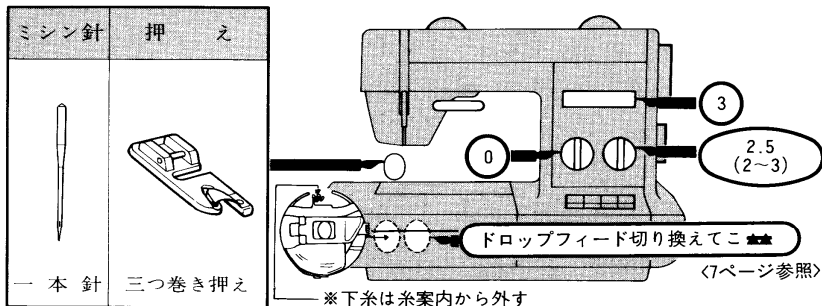
## 三つ巻き縫い



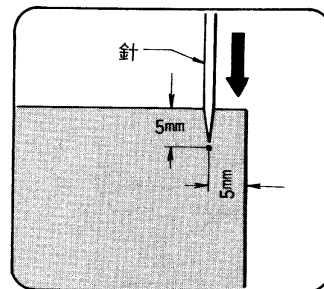
☆ワイシャツのすそ、エプロンなどのフリルの端、主に布端の始末に用います。

——三つ巻き縫いをするときの注意——  
 ☆裏を上にして縫いますから、あらかじめ糸調子は表裏共に美しい縫い目しておきます。

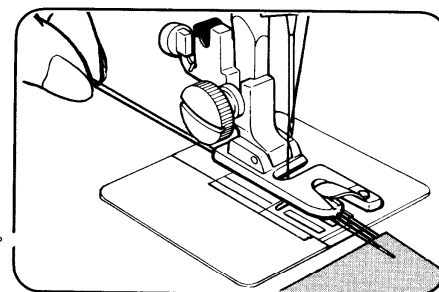
☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと三つ巻き縫いができます。



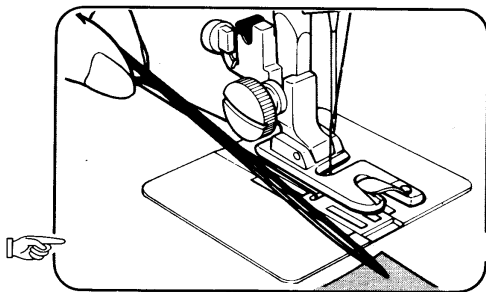
### 縫い方



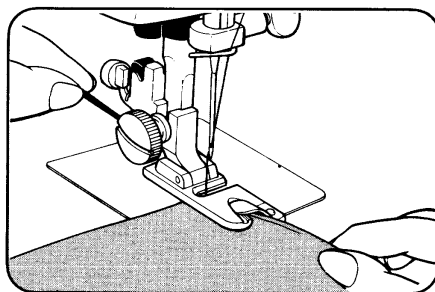
☆布端からほぼ5mm入ったところに針を落します。



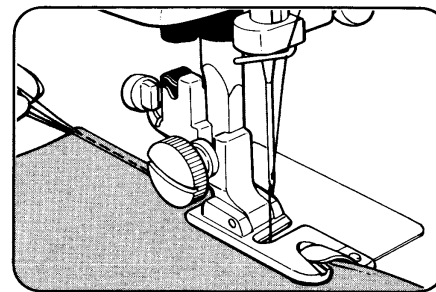
☆針をあげ、布地を手前に引きます。



☆つぎに左手で4本の引き糸をもち、右手で手前の布端をもって三つ巻き口に引き糸部分から差し入れ、針落ちの向こうまで布地の端を入れます。

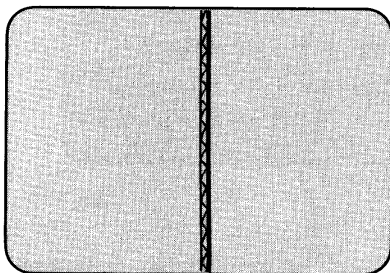


☆最初の3~4針はこの引き糸を向こう側へ引っぱりぎみにしますと簡単に縫うことができます。



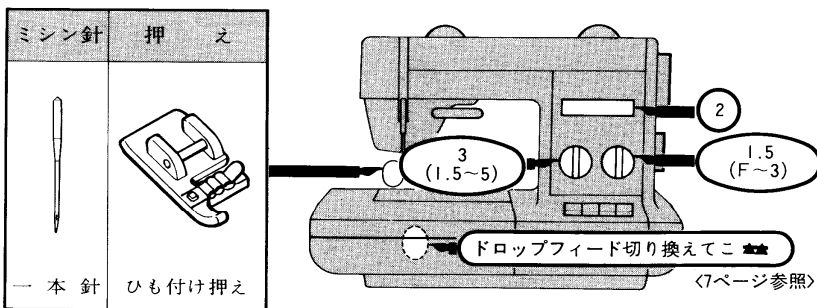
☆巻き込み幅を5mmほどかぶせるようにして布地を持ちます。巻き込み幅を適度に加減しながら縫います。

## コーディング



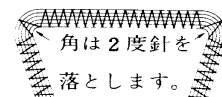
☆洋服などにあしらえば豪華さが加わります。

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますとコーディングができます。

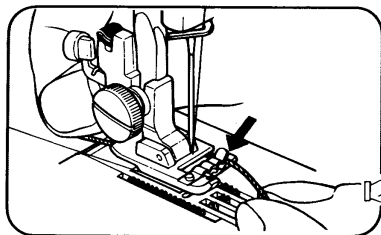


### コーディングをするときの注意

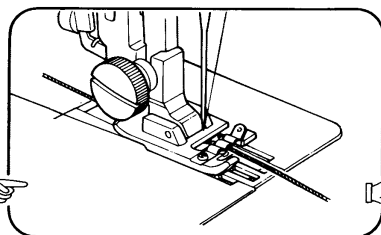
1. 図案の輪郭線上を縫うには、ひも付け押えの糸通しみぞの下に輪郭線がくるようにすると簡単に縫えます。
2. サテンステッチで縫う場合、上糸はコードと同色の糸を使用して縫います。
3. 「スカラップをする場合」サテンステッチの状態では縫い角を縫う場合は、針をコードの内側に落して方向を変え、コードのゆるみを直しながら縫っていきます。この場合、縫い目がつまるおそれがありますので布を少し引っぱり気味にするときれいに縫いあがります。
4. 最後の止め縫いは1cmほど重ねて縫い、コードを切り、縫い目の中に直線で縫います。
5. ひも付け押えの糸通し穴に通らないような太いコードは、5mm以内ならジグザグ用押えを利用して縫います。
6. 角のある図案は、下図のように針をおとします。



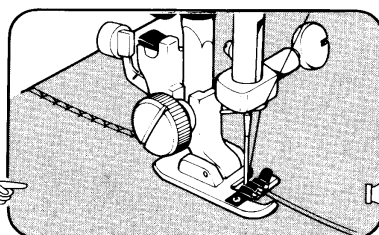
### 縫い方



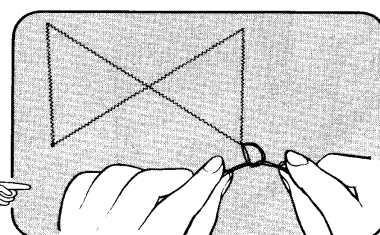
☆刺しゅう糸、レース糸、毛糸などを図のようにひも付け押えのばねの下にあるみぞの真中に通します。



☆ひも付け押えの裏側にあるみぞにひもを通して、押えをおろします。



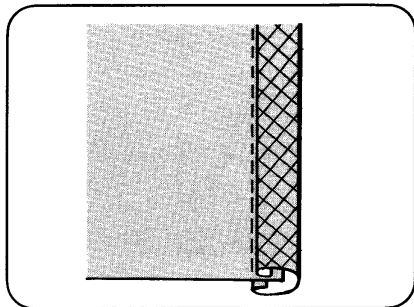
☆図案のとおり縫っていきます。



☆縫い始め、縫い終りのコードと上糸の端を布地の裏に出し、下糸と共に2回程度結びます。

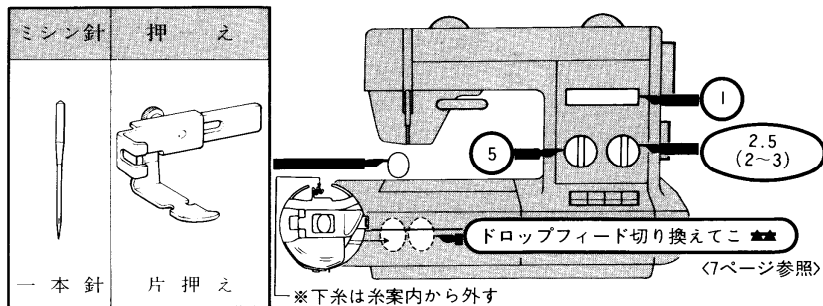
※2~3本のひもの場合も1本ひものときと同じように、それぞれのみぞに通して縫います。

## 落としミシン

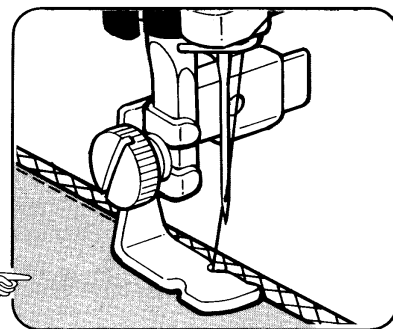
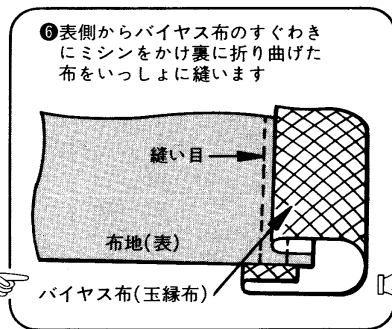
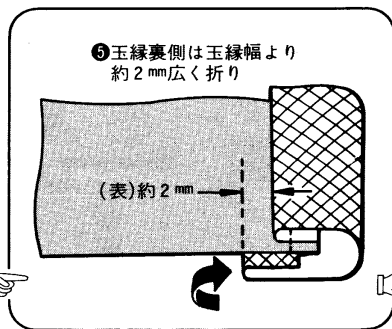
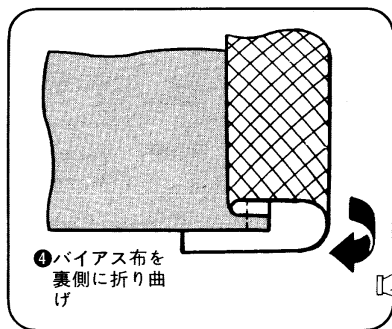
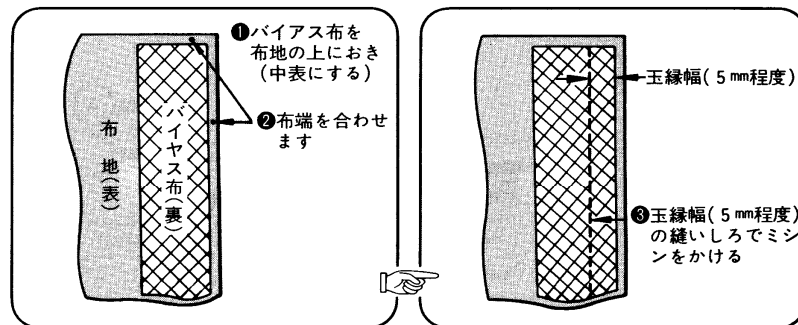


☆バイピング、玉縁ポケット、玉縁ボタン、  
穴かがりなどに用います。  
※片押えの取り付け方、調節のしかたは、38  
ページをごらん下さい。

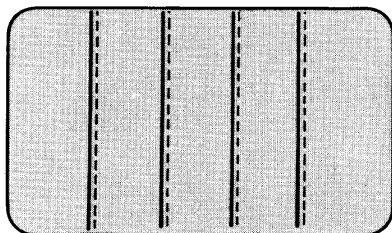
☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、落としミシンができます。



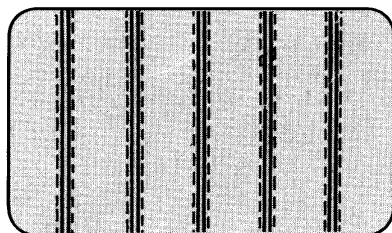
## 縫い方



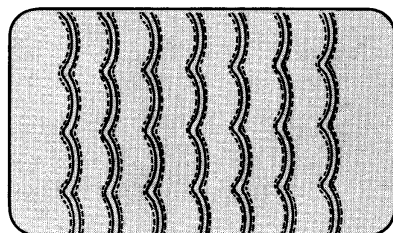
# ピタック



＜1本針直線縫い＞



＜2本針直線縫い＞



＜2本針点線カーブ縫い＞

☆ごく細くつまんでミシンをかけたものをピタックといいます。ブラウス、ワンピースのヨークやそで、エプロンの胸やポケットの飾り、そのほかいろいろな手芸品に応用されるなど、装飾と実用を兼ねた縫い方です。

## ◆1本針直線縫いのとき

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと1本針直線縫いでピタックができます。

ミシン針	押え
一本針	直線用押え および 前方定規

◆ドロップフィード切り換えてこ

※下糸は糸案内から外す (7ページ参照)

## ◆2本針直線縫いのとき

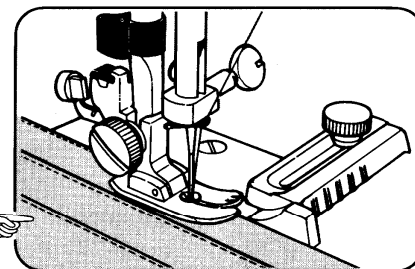
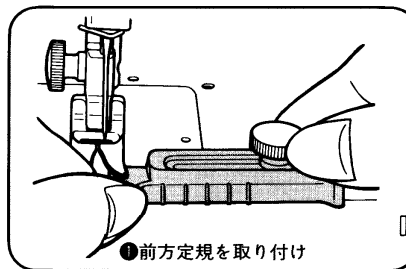
☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと2本針直線縫いでピタックができます。

ミシン針	押え
二本針	ジグザグ用 押え

◆ドロップフィード切り換えてこ

(7ページ参照)

## 縫い方



## ◆2本針点線カーブ縫いのとき

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと2本針点線カーブ縫いでピタックができます。

ミシン針	押え
二本針	ジグザグ用 押え

◆ドロップフィード切り換えてこ

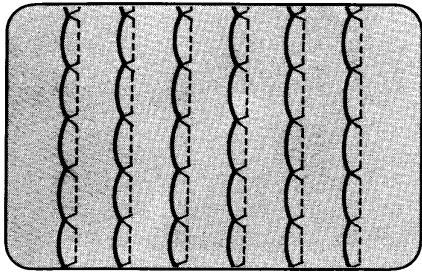
(7ページ参照)

※2本針の上糸の掛け方は、13ページをごらん下さい。

※模様表示<12>に合わせてからジグザグ幅調節ダイヤルを合わせ直して下さい。

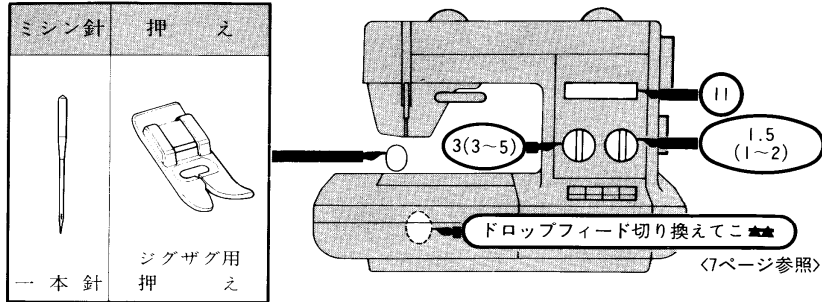


## シェルタック

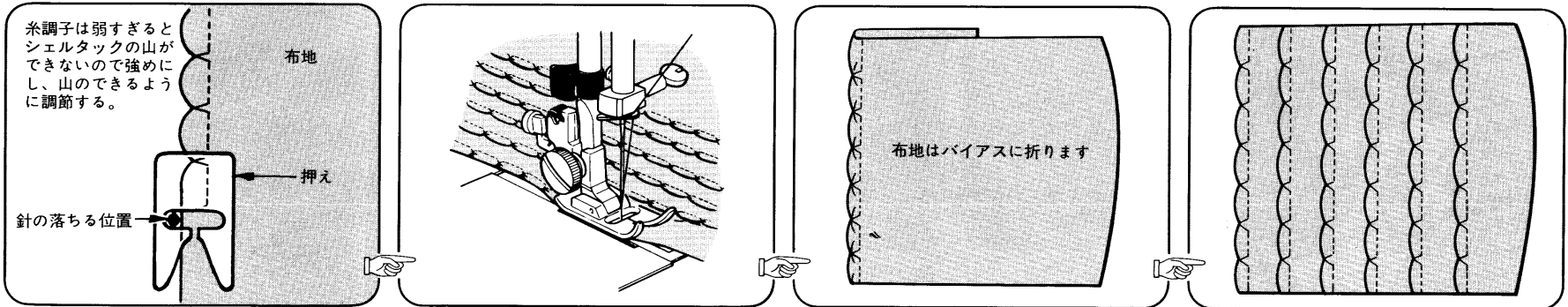


☆シェルタックは、ブラインドステッチを利用して、貝がらを一直線に並べたような円弧状のひだを作るもので、縁取りなどにも用いるほか、ピンタックと同じように、ブラウス、ワンピースの胸もとやそでなどに利用されます。

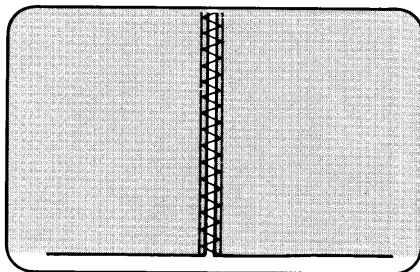
☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますとシェルタックができます。



### 縫い方

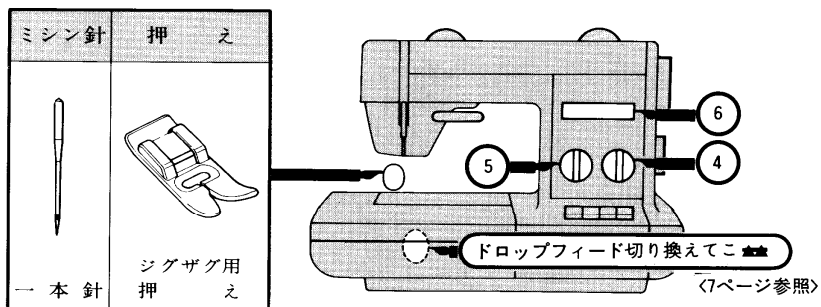


## ファゴティング

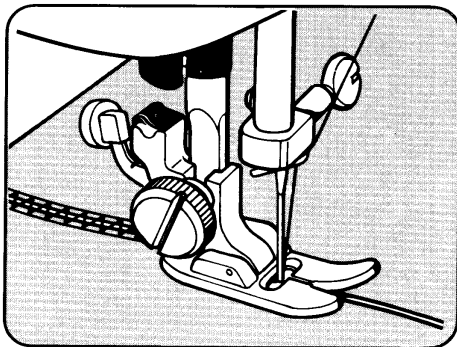


☆布地と布地の間をはなして、糸でかかる方法をファゴティングといいます。ブラウスや子供服、手芸品などに用います。

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますとファゴティングができます。

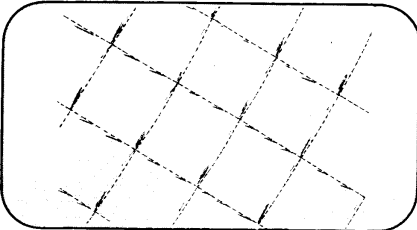


## 縫い方



- ※糸はできるだけ太い糸を用いて下さい。
- ※布地の下に薄紙を敷いて縫って下さい。
- ※布地と布地の間隔は、3～4mm位にして縫って下さい。

## キルティング



☆布地の間に綿などはさんで左の図のように縫い合わせ、コートやアノラック、ガウンなどに主として利用されますが、ドレスなどにも図案を応用した装飾として使うこともできます。この縫い方は、表地と裏地の間に布ずれや布縮みがおきやすいので気をつけて縫いましょう。

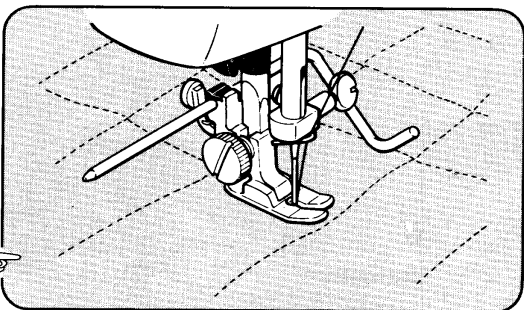
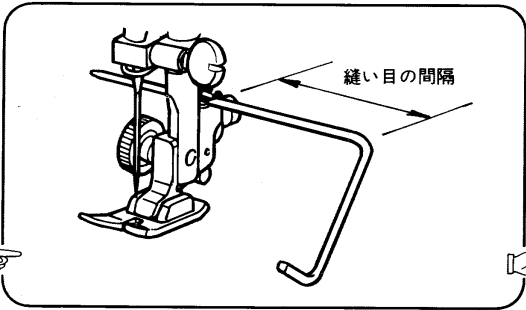
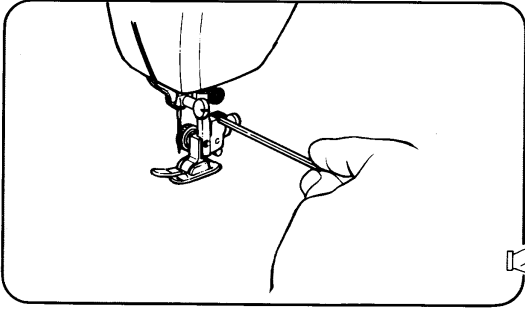
☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますとキルティングができます。

ミシン針	押え	
一本針	直線用押えおよびキルター	

※下糸は糸案内から外す
※模様表示<3>にあわせてから、送り調節ダイヤルを合わせ直して下さい。

<7ページ参照>

### 縫い方

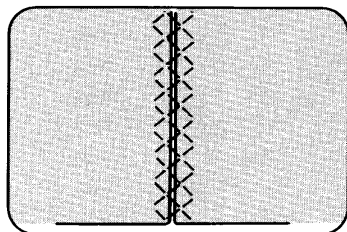


☆キルターを押えばねのすきまに差し込み、必要な間隔に合わせます。

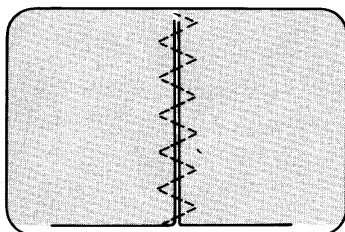
☆縫い目の間隔を広くしたいときはキルターを右側に、間隔をせまくしたいときは左側にします。

☆先に縫った縫い目をキルター（棒定規）の先でたどりながら縫います。

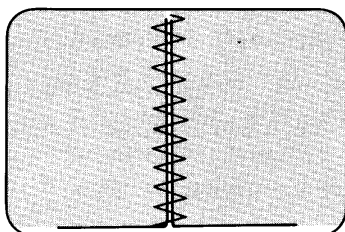
## つき合わせはぎ



〈スーパー模様縫い〉



〈点線ジグザグ縫い〉

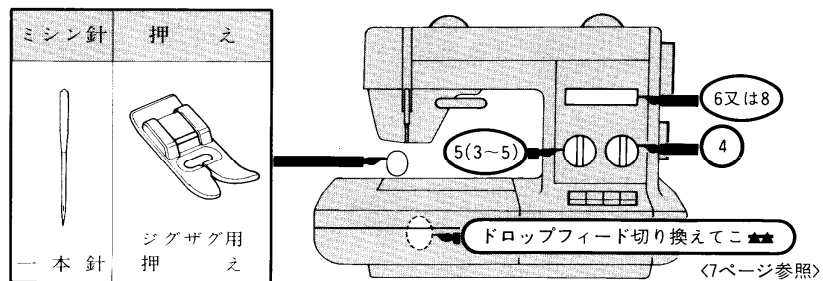


〈ジグザグ縫い〉

☆2枚の布の裁ち目(できあがり線)をつき合わせた状態で、つなぎ合わせる時に用います。

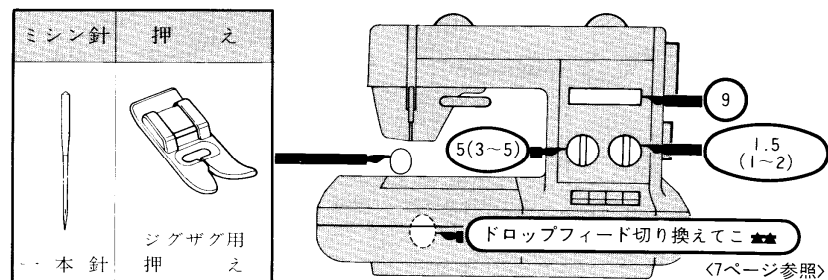
### ◆スーパー模様縫いのとき

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、スーパー模様縫いでつき合わせはぎができます。



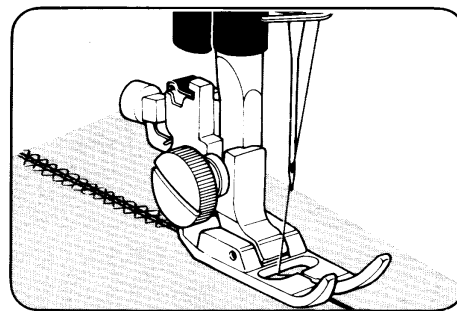
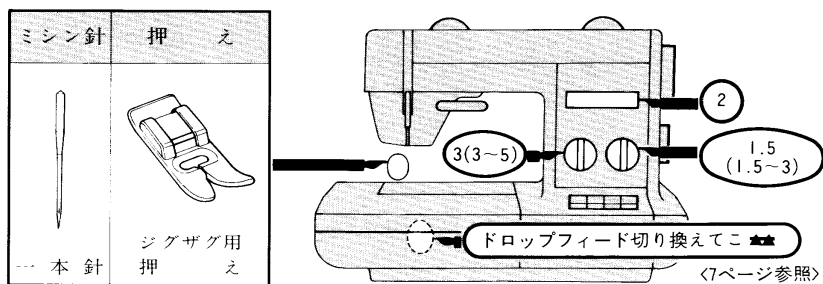
### ◆点線ジグザグ縫いのとき

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、点線ジグザグ縫いでつき合わせはぎができます。

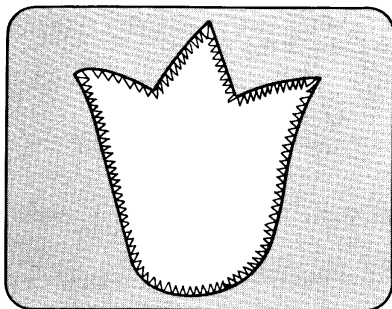


### ◆ジグザグ縫いのとき

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますと、ジグザグ縫いでつき合わせはぎができます。

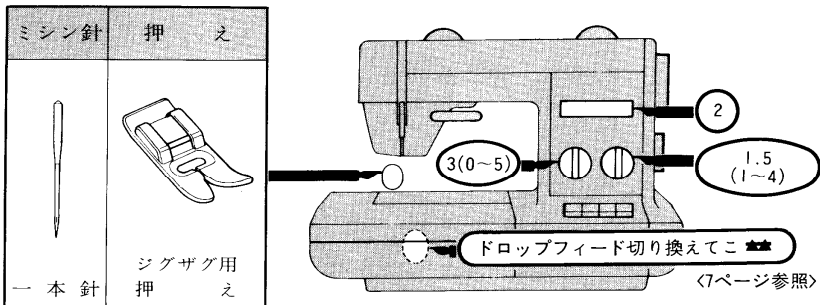


# アップリケ



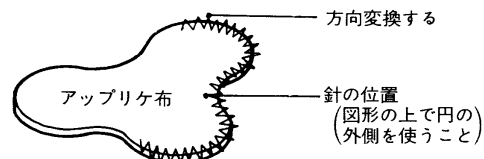
☆エプロン、子供服などにあしらいます。

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますとアップリケができます。



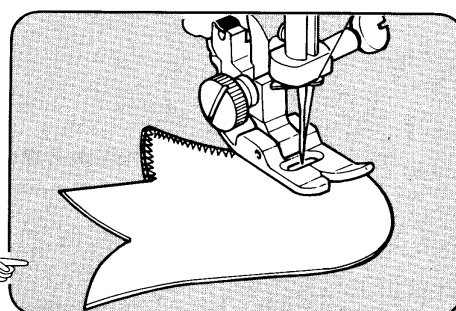
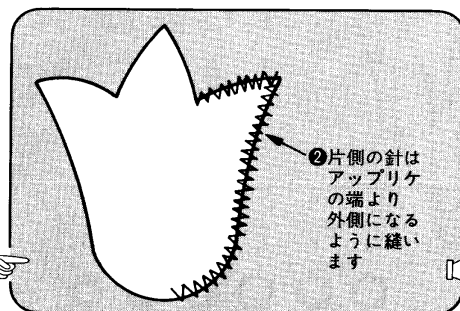
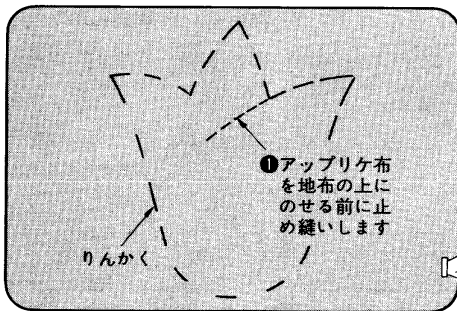
## アップリケをするときの注意

1. 縫い方はサテステッチ、ジグザグ縫いなどがありますが、縫い目長さ、ジグザグ幅はアップリケ図案の形、大きさ、材質などに応じて調節して縫います。
2. アップリケ布の種類によってはほつれない布の場合は、そのままジグザグ縫いでアップリケしますが、ほつれやすい布の場合は、まず、和紙にむらのないようにうす糊をつけ、布をはり、なま乾きのうち表から当て布をしてアイロンで乾かし、図案に応じて切り取り、サテステッチで縫います。
3. 大きな図案の場合は、チェーンステッチでしつけ縫いをしておきますと便利です。
4. 丸味のある図案では円の外側に針を刺したまま押えを上げて少しずつ方向を変えながら縫った方が縫い目がきれいにできます。



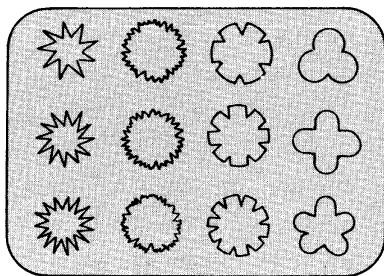
いろいろな縫い方

## 縫い方



③ ジグザグ幅を「0」にして5～6針最後の縫い目によって止め縫いをします

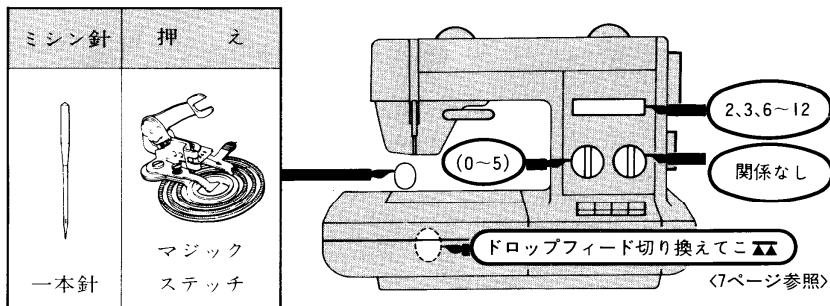
## サイクル縫い



☆ジグザグミシンを使用しても不可能とされていた小さな円形模様も、マジックステッチを使えば簡単にできあがります。

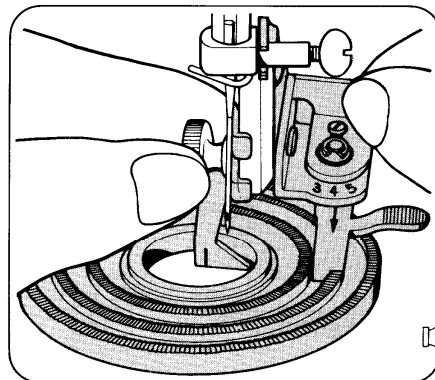
☆鳩目穴・ひも通し穴・円形状のカットワーク（裏から別布を当てて縫い、地布だけ切り取る方法もあります）などに利用されます。

☆ミシンをつぎのようにセットして縫いますとサイクル縫いができます。

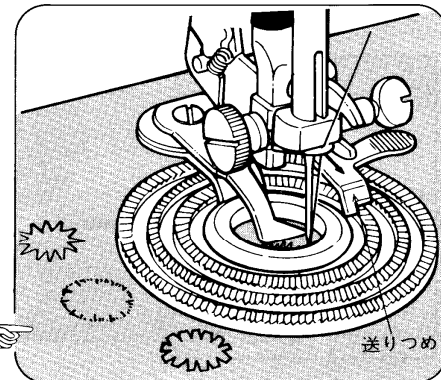


### サイクル縫いをするときの注意

1. マジックステッチを使用中、“針”がはずれたり、“押え”がゆるんだりしないよう、あらかじめ締めねじをねじ回しでしっかり締めつけておきます。
2. 縫い始め、縫い終わりは、止め縫いの替わりとして上糸を布地の下に出し、上糸と下糸を結びます。
3. 再度マジックステッチをお買い求めいただくときは、コンパルDX用とご指定下さい。



☆針を最高の位置に上げ、マジックステッチをミシンの向こう側から取りつけます。



☆マジックステッチの送りつめ土台の数を3・4・5は、模様縫いの状態において、1周する間に模様を縫う数を示します。

### 自動模様縫いの場合

送り目盛	幅 3 mm	模様表示					
	5 mm						
3							
4							
5							

### ジグザグ幅固定の場合

ジグザグ幅 送り目盛	0	3			5				
	3	4	5	3	4	5	3	4	5
模様表示									

# ❁ 楽しい実用作品 ❁

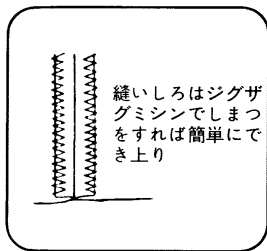
## ◆あなたの装いはブラザーホームソーイングパターンで…

ブラザーホームソーイングパターンを使って図のような作品をつくってみました。ジグザグミシン1台でこんなにいろいろな縫い方ができて本当に便利です。

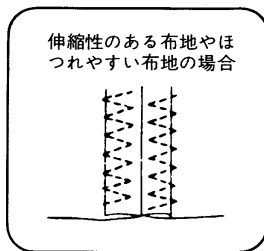
さあ、ジグザグミシンを使っていろいろなたのしい作品をつくっていきましょう。

### ㊦裁ち目かがり

縫いしろはジグザグミシンでしまつをすれば簡単にでき上ります……



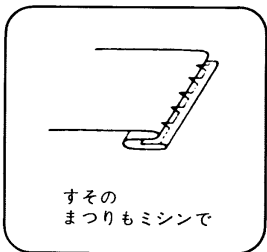
〈ジグザグ縫い〉



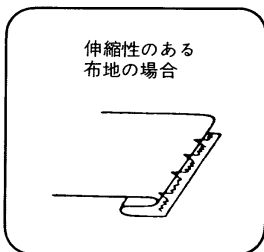
〈点線ジグザグ縫い〉

### ㊦まつり縫い

すそのまつりもミシンで……



〈ブラインドステッチ〉



〈ジャーマンブラインドステッチ〉



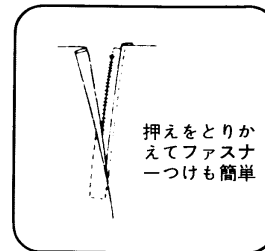
㊦ボタン穴かがり

㊦ボタン付け

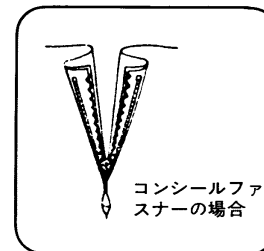
㊦かんぬきどり

### ㊦ファスナー付け

押えをとりかえてファスナーつけも簡単……



〈普通ファスナー〉

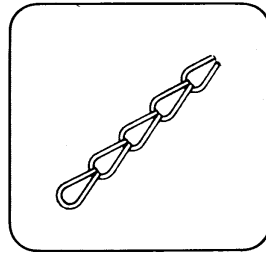


〈コンシールファスナー〉

◆ブラザーホームソーイング  
パターンツーピース208C◆

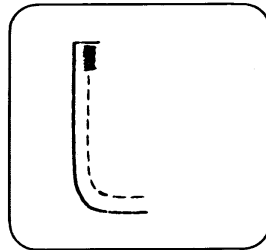


⊗飾りステッチ  
 <チェーンステッチ>



⊗ファスナー付け

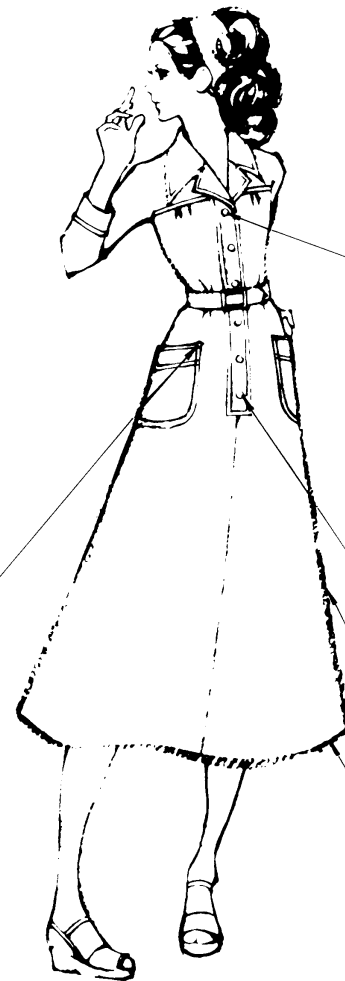
⊗かんぬきどめ  
 ポケット口はかんぬきどめをして丈夫に……



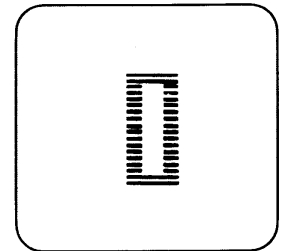
<サテンステッチ>

⊗まつり縫い

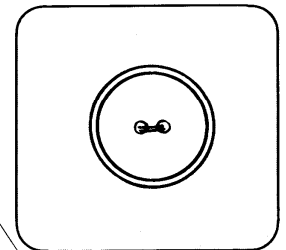
◆ブラザーホームソーイング  
 パターン・ジャンパースカート  
 204C◆



⊗ボタン穴かがり



⊗ボタン付け



⊗裁ち目かがり

⊗まつり縫い

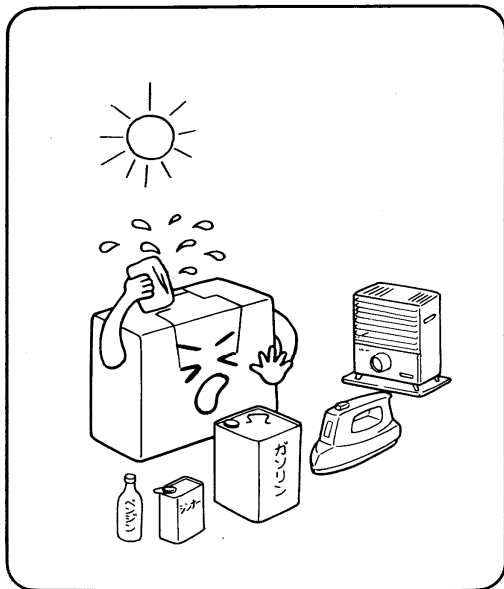
◆ブラザーホームソーイング  
 パターン・ワンピース109C◆



# ✿ ミシンの手入れと注油 ✿

## 掃除と手入れ

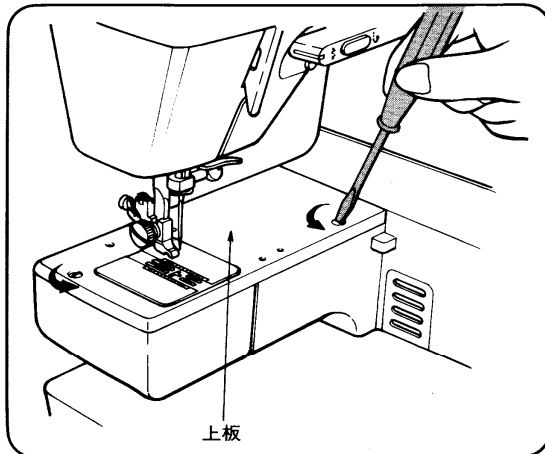
☆かるいよごれは、やわらかい乾いた布でふいて下さい。また、ひどいよごれは中性洗剤に浸した布できれいにふきとって下さい。



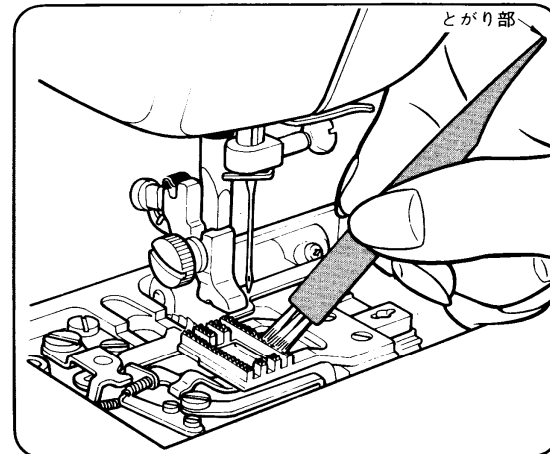
- (注意) 1. ストープやアイロンなどは近付けないようにして下さい。
2. ベンジン、ガソリン、シンナーなどは使わないようにして下さい。
3. 保管するときは、できるだけ直射日光をさけて下さい。

## 送り歯の掃除

☆針板と送り歯の間は糸くずやほこりがたまりやすく、いろいろな故障の原因になる場合がありますので、つねに清潔にしておきましょう。




☆押えを外し、図のように2本の締めねじをゆるめて、上板を外します。



☆糸くずやほこりが油で固まって取れない場合は、ミシンブラシのとがり部で取って下さい。

### 注意

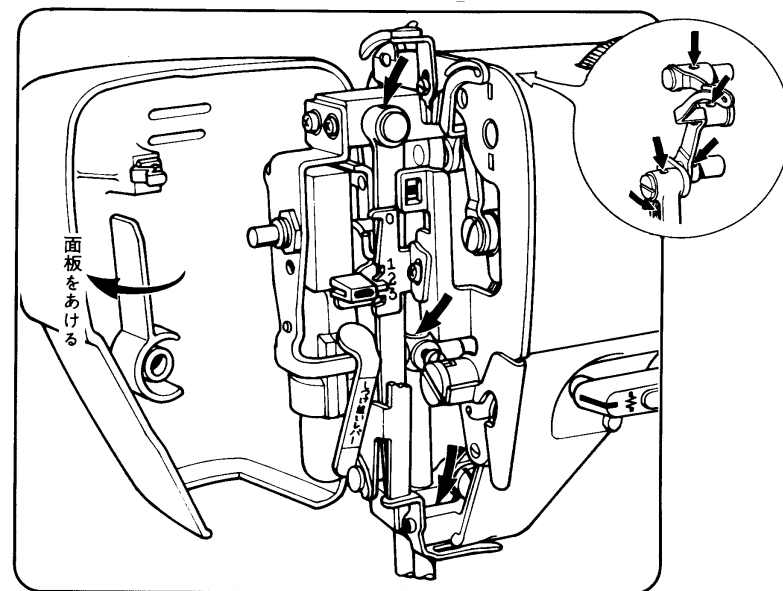
上板を取り付けるときは、必ず模様表示を  に合わせて下さい。

## 注 油

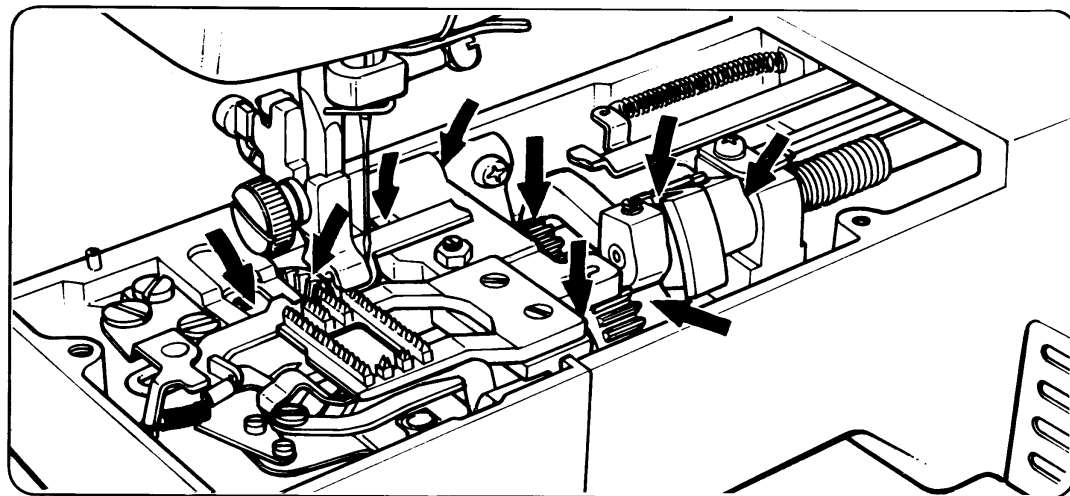
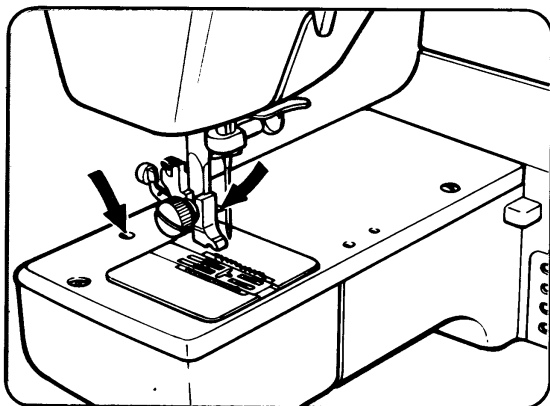
☆動く部分にいつも油があればミシンは軽く、静かに運転でき、寿命も大変長持ちします。

☆毎日1時間位ご使用の場合は、一週間に1度位、毎日数時間ご使用の場合には毎日1回、矢印の個所に付属のミシン油を数滴ずつ注油して下さい。

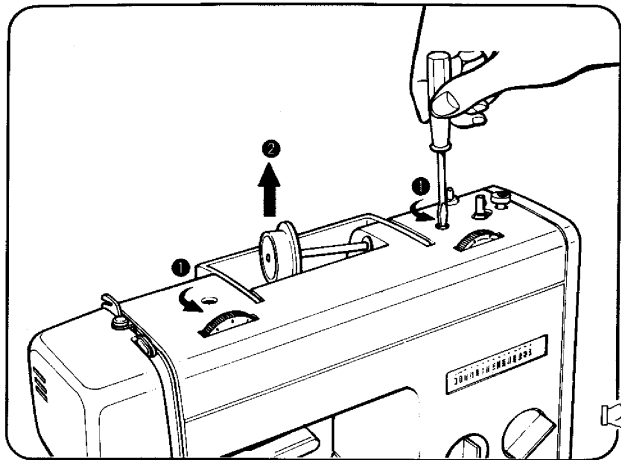
☆注油穴付近に付着した油は、布できれいにふきとって下さい。



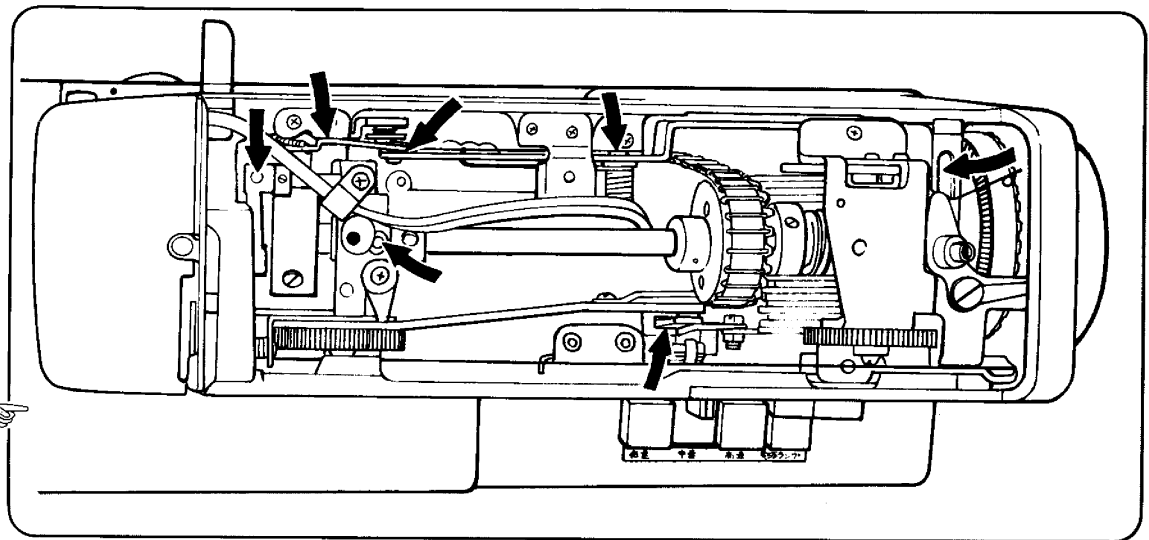
☆上板の注油部分



☆ときどき上板を取りはずし(54ページ参照)上図の個所にも注油して下さい。



☆ときどき上ふたを取りはずし右図の個所にも注油して下さい。



**長期間使用しなかった場合**

☆油が固って、回転が重くなる場合がありますので、

- ①ベンジンを少量注油個所に差し、
- ②ミシンに糸をかけずに押えを上げ、高速で運転し、古い油を取り去ってから、
- ③ミシン油を注油個所(摺動部分)全部に差します。
- ④次に余分な油をふきとってからご使用下さい。

## ✿ 簡単な調整手入れ ✿

☆ミシンの調子が悪い場合は、まず次の原因を確認しましょう。ミシンの場合、ちょっとした使用上の誤りから起る原因が多いものです。一度その原因を確認、処置をしてみましょう。もし、それでもなおらない場合は、最寄りのブラザー販売店にお申し付け下さい。

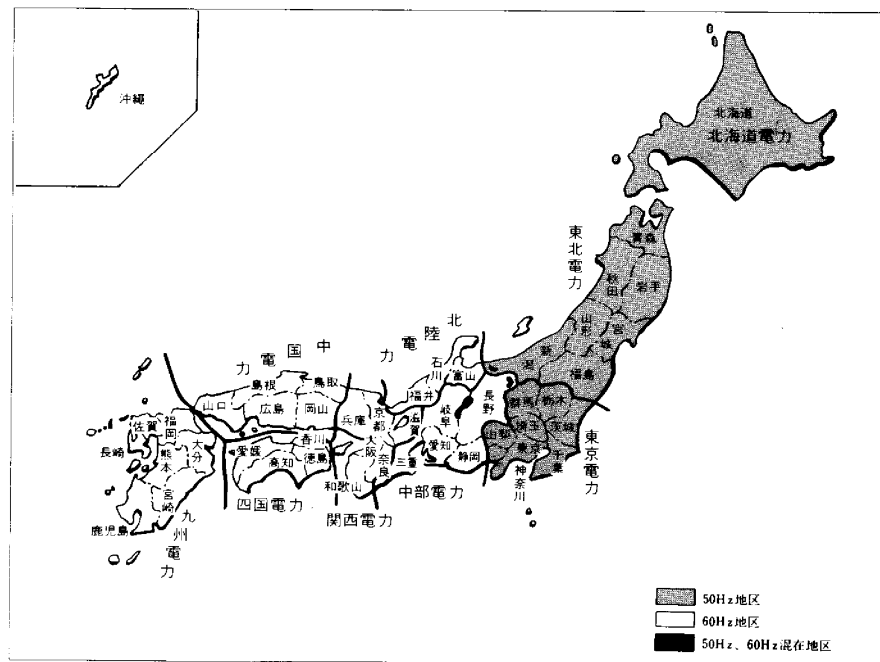
調子よく縫えない状態	原 因	処 置 の し か た
<b>1. 布地を送らない</b>	① 送り歯が下がっている場合	ドロップフィード切り換えてこ(▲)を押して送り歯を上げます。
	② 縫い目の長さが「0」になっている場合	必要な縫い目長さに調節します。
	③ 押え圧力調節レバーが「0」になっている。	押え圧力調節レバーを「1」または「2」にします。
<b>2. 上糸が切れる</b>	① 糸のかけ方が間違っている場合	正しくかけ直します。13ページ参照
	② 糸が必要以外のところからみ合っている場合	糸かけ等からまわっていないかを確認し、からまっている場合は取りはずして正しくかけ直します。
	③ 糸調子が不当につよ過ぎる場合	布地・ミシン糸・ミシン針の関係をよく確認の上、つよ過ぎないように適正な糸調子に調節します。17・21ページ参照
	④ 針の取りつけ方が不完全な場合	正しく取りつけます。7ページ参照
	⑤ 粗悪な針を使用した場合	針を取りかえます。 ブラザーミシン針H A×1をご使用下さい。
	⑥ 針穴より太い糸を使用した場合	正しい組み合わせにします。17ページ参照
<b>3. 縫い目が飛び</b>	① 針の取りつけ方が不完全な場合	正しく取りつけます。7ページ参照
	② 針が曲っていたり、針先のつぶれている場合	正しい針と取りかえます。7ページ参照
	③ 布地・ミシン糸・ミシン針の関係がわるい場合	正しい組み合わせにします。17ページ参照
	④ 粗悪な針を使用した場合	ブラザーミシン針と取りかえます。
	⑤ 糸くずが針板の下部に付着している場合	上板をはずして掃除をします。54ページ参照
	⑥ 糸のかけ方が間違っている場合	正しくかけ直します。13ページ参照
<b>4. 針が折れる</b>	① 針の取りつけ方が不完全な場合	正しく取りつけます。7ページ参照
	② 布地を不当に引張った場合	縫いながら布をつよく押さえたり不当に引張ってはいけません。 手は布地が曲らないようにそえるだけにします。
	③ 布地・ミシン糸・ミシン針の関係がわるい場合	正しい組み合わせにします。17ページ参照
	④ 針が曲っていたり、針先のつぶれている場合	正しい針と取りかえます。7ページ参照
<b>5. 下糸が切れる</b>	① ボビンケースの調子ばねをつよく締め過ぎた場合	調子ばね締めねじをゆるめて調子を合わせます。この場合、上糸の調子もゆるめないと糸調子不良となりますから注意して下さい。
	② ボビンケースに糸の通し方が間違っている場合	正しくかけ直します。16ページ参照

調子よく縫えない状態	原因	処置のしかた
6. 縫い目に輪ができる	① 上糸、下糸の調子が完全でない場合	正しい糸調子にします。21ページ参照
7. 縫い物にしわがよる	① 糸調子がつよ過ぎる場合	特にうすものを縫うときは、上糸、下糸ともに糸調子のでる範囲内なるべく調子をゆるくします。
	② 糸のかけ方が間違っている場合	正しく通し直します。13ページ参照
8. 回転が出ないまたは音が高い	① 油がきれている場合	動く部分に注油します。55ページ参照
	② 送り歯にごみがたまっている場合	送り歯を掃除します。
	③ ミシン油でない油を使用した場合	ブラザーミシン油を使用して下さい。
9. ミシンが回らない	① スピードコントロールプッシュボタンが押してない場合	お好みのスピードコントロールプッシュボタンを押して下さい。
	② コントロールレバーを「ON」の位置にしてから、電源スイッチボタンを押した場合	コントロールレバーをいったん「OFF」の位置にもどしてから、あらためて「ON」にして下さい。

#### ◆移転などする場合は

★家庭用交流電源の国内周波数分布は、右図のようになっておりますが、本機は、それぞれの地区で正規の回転数になるように調整してありますので、そのままご家庭のコンセントにさし込んでいただければご使用になれます。

もし、移転などにより、周波数のことなる地方でご使用になる場合は、最寄のブラザー販売店へご連絡下されば、サービス員が調整いたします。



簡単な調整手入れ

あなたのホームソーイングをより楽しくする……



# ブラザーミシン用出版物・用具



## ブラザーホームソーイングパターン



あなたのドレスづくりにブラザーパターンを使ってホームソーイングをお楽しみください。

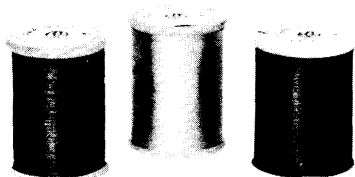
## やさしいパターン洋裁



パターン洋裁の一般的な知識や縫い方の基本、ドレス作りの全行程を図解入りでわかりやすく説明しています。

## 絹ミシン刺しゅう糸

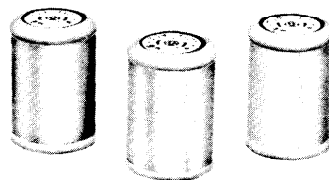
ミシン刺しゅうにはかかせない美しい色調とつよさをもった正絹ミシン刺しゅう糸です。



(堅牢染80番 130m巻80色)

## ミシン用ナイロン透明糸

編地・ジャージなどの縫製に伸びる糸透明糸をお使い下さい。



(60番 500巻 白)

## ミシン刺しゅう糸

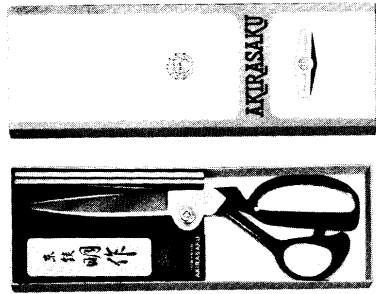
豪華なものには正絹糸をご利用下さい。



(堅牢染80番 130m巻 12色セット)

【お近くの取り扱い店でお求めください】

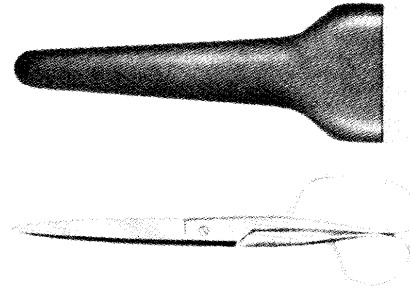
高級裁ちばさみ



洋裁・和裁に最適な高級裁ちばさみです。種類も豊富です。

(サイズ200mm、210mm、240mm、260mm)

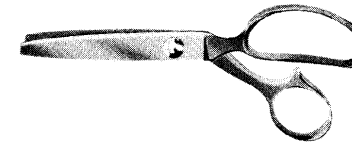
紙切りばさみ



型紙を切るのに便利な紙切りばさみです。

(サイズ・180mm)

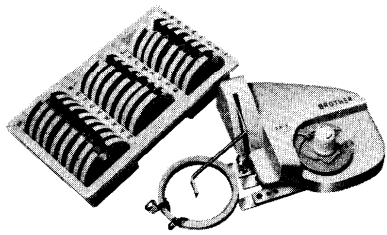
ピンキングばさみ



布地のへりを刻みに切る便利なピンキングばさみです。

(サイズ・9インチ)

自動ネーム刺しゅう器“ワンダーサイン”

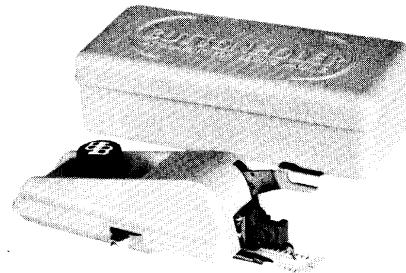


どなたでもかたんに美しいアルファベット26文字が縫える自動ネーム刺しゅう器です。

《ご注意》

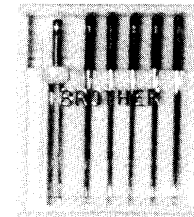
ZZ3-B751型ミシンには、ご使用になれません。

家庭ミシン用ボタン穴かがり器



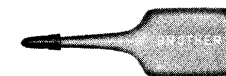
面倒なボタン穴かがりが自動的に美しくできる家庭ミシン用ボタン穴かがり器です。

ミシン針

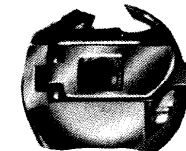


その他、ボビン・チャコペーパー・チャコベル・刺しゅう用半月ばさみなどいろいろあります。

ミシン油



ボビンケース



## ●アフターサービスについて

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保存してください。
- 無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。(詳しくは保証書をご覧ください。)それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または最寄りのブラザー販売店にご相談ください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、お買い上げ日から最低8年保有しています。
  - ・性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の《お客様相談コーナー》へお問い合わせください。

## お客様相談コーナー

~~札幌支店 〒060 札幌市中央区南三条西3-2-2 TEL:(011) 261-6634~~  
~~仙台支店 〒080 仙台市一番町2-3-10 TEL:(022) 227-8877~~  
~~北関東支店 〒300 赤松市仲町4-1-10 TEL:(0490) 42-4274~~  
~~東京支社 〒104 東京都中央区京橋3-3-8 TEL:(03) 273-0234~~  
~~新潟支店 〒950 新潟市東大通1-1-1 TEL:(0252) 47-7101~~  
~~静岡支店 〒420 静岡市御幸町0-1 TEL:(0542) 54-2004~~  
~~名古屋支店 〒460 名古屋市中区栄3-27-18 TEL:(052) 264-2274~~  
~~大阪支店 〒542 大阪市南区心斎橋筋1-1 TEL:(06) 252-4707~~  
~~広島支店 〒730 広島市中区胡町4-27 TEL:(082) 244-0236~~  
~~高松支店 〒760 高松市寿町4-1-5 TEL:(0878) 54-7344~~  
~~福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅前2-20-1 TEL:(092) 434-6564~~  
~~熊本支店 〒960 熊本市城東町2-20 TEL:(096) 355-7451~~  
~~沖縄出張所 〒900 那覇市泊3-1-2 TEL:(098) 68-4544~~

○ブラザー製品についてのご意見、ご要望がございましたら、お買い上げの販売店または上記の《お客様相談コーナー》へご連絡ください。

※上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

## ブラザー工業株式会社

名古屋市瑞穂区堀田通9-35 〒467  
TEL:(052)824-2511(代表)

## 取扱店